



学習帳

「しっかりと記録された知識は必要なときに活用できます。靈的に重要な情報は、それを大切に蓄えていることを主に示せるよう、神聖な場所に記録しておく必要があります。そうすれば、さらに光を受けられるようになるでしょう。」

リチャード・G・スコット（『靈的な知識を得る』『聖徒の道』1994年1月号、97参照）

生けるキリスト

使徒たちの証

末日聖徒イエス・キリスト教会

2000年前のイエス・キリストの降誕を祝うに当たり、わたしたちはイエス・キリストのたくいまれな生涯が現実のものであり、この御方の偉大な贖いの犠牲が無限の力を有することを証します。これまでに地上に生を受けた人々およびこれから生を受けるすべての人々に対して、この御方以上に深遠な影響を及ぼしてきた人物は存在しません。

イエス・キリストは旧約の大いなるエホバであり、新約のメシヤでした。御父の指示の下に、イエス・キリストは地球を創造されました。「すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった」のです(ヨハネ1:3)。イエス・キリストは罪がなかったにもかかわらず、すべての義を成就するためにバプテスマをお受けになりました。イエス・キリストは「よい働きをしながら……巡回」されましたが(使徒10:38)、そのためにさげすまれました。イエス・キリストの福音は平和と善意のメッセージでした。イエス・キリストはすべての人々に、御自身が示す模範に従うよう熱心に勧められました。イエス・キリストは病人を癒し、目の不自由な人々の目を見えるようにし、死人をよみがえらせながら、パレスチナの道を歩まれました。また、永遠の真理と、前世が実際に存在すること、この世での人生の目的、および神の息子や娘が持つ来世における可能性についてお教えになりました。

イエス・キリストは、御自分の偉大な贖いの犠牲を思い起こすためのものとして、聖餐をお定めになりました。イエス・キリストは捕らえられ、偽りの訴えによってとがめられ、暴徒の意に応じて有罪とされ、カルバリの十字架での死刑を宣告されました。そして、全人類の罪を贖うために命をささげられました。イエス・キリスト御自身が、地上に生を受けるすべての人々のための偉大な身代わりの贈り物となられたのです。

わたしたちは、全人類の歴史の中心であるイエス・キリストの生涯が、ベツレヘムで始まったのでもなければカルバリで終わったのでもないことを厳かに証します。イエス・キリストは御父の長子、肉における独り子、世の救い主でした。

イエス・キリストは「眠っている者の初穂として」墓からよみがえられました(1コリント15:20)。そして復活された主として、地上での生涯において愛した人々のもとをお訪ねになりました。また、古代アメリカの「他の羊」の間でもお教えになりました(ヨハネ10:16)。現代においては、御父とともに少年ジョセフ・スミスに御姿を現されました。こうして、長い間約束されてきた「時の満ちる」神権時代が到来したのです(エペソ1:10)。

生けるキリストについて、預言者ジョセフはこのように記しています。「その目は燃える炎のようであり、その頭髮は清らかな雪のように白く、その顔は太陽の輝きに勝って光り輝いていた。また、その声、すなわちエホバの声は大水の奔流のとどろきのようで、このように言われた。

「わたしは最初であり、最後である。わたしは生きている者であり、殺された者である。わたしは父に対するあなたがたの弁護者である。」(教義と聖約110:3-4)

イエス・キリストについて、預言者ジョセフはまた次のように宣言しています。「そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、「小羊は生きておられる。」

わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。また、わたしたちは証する声を聞いた。すなわち、「彼は御父の独り子であり、

彼によって、彼を通じて、彼から、もろもろの世界が現在創造され、また過去に創造された。そして、それらに住む者は神のもとに生まれた息子や娘となる」と。(教義と聖約76:22-24)

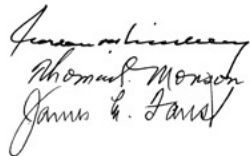
わたしたちは、イエス・キリストの神権とイエス・キリストの教会が地上に回復されたこと、そしてその教会は「使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられ……キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である」ことを厳肅に宣言します(エペソ2:20)。

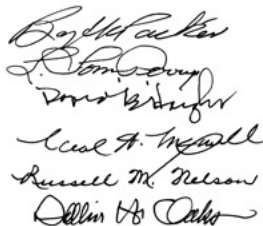
わたしたちは、イエス・キリストがいつの日か地上に戻って来られることを証します。「こうして主の栄光があらわれ、人は皆ともにこれを見る」のです(イザヤ40:5)。イエス・キリストは王の王として治め、主の主として統治されます。イエス・キリストの前にすべてのひびかががみ、すべての舌がイエス・キリストを賛美することでしょう。わたしたち一人一人は将来、自分の行いと心の望みについて裁きを受けるためにイエス・キリストの前に立つこととなります。

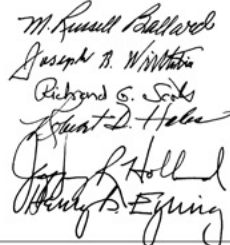
わたしたちは正式に聖任を受けたイエス・キリストの使徒として証します。イエスは生けるキリスト、不死不滅の状態にある神の御子です。イエス・キリストは今日、大いなる王、インマヌエルとして御父の右に立っておられます。イエス・キリストは世の光、命、そして希望です。イエス・キリストの道は、この世においては幸福に、後の世においては永遠の命に至る道です。わたしたちは御子という比類ない贈り物を授けてくださった神に感謝しています。

大管長会

十二使徒定員会


Thomas M. Monson
James E. Faust


Boyd K. Packer
Dwight H. Petersen
Neal A. Maxwell
Russell M. Nelson
Dallin H. Oaks


M. Russell Ballard
Joseph B. Wirthlin
Richard G. Scott
Scott D. Hales
Jeffrey R. Holland
Henry A. Eyring

2000年1月1日

マスター教義

に関する基本文書

マスター教義について

モルモン書の中で、預言者ヒラマンは息子たちにこのように教えています。「あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。」(ヒラマン 5:12) イエス・キリストの上に基を築くことには、キリストの教義を理解し、信じ、それに従って生活するということが含まれます。これを行うと、改心の度合いと主の弟子としての決意が深まり、敵の影響から守られ、他の人々の生活に祝福をもたらす助けを与えてくれます。

これを成し遂げる方法の一つは、クラスと一緒に、聖文を配列順に研究することです。イエス・キリストとその教義の上に基を築くもう一つの方法は、マスター教義と呼ばれる取り組みによるものです。

マスター教義は、二つの結果に焦点を当てています。

1. 霊的な知識を得るために神の原則を学び、応用する

天の御父は、霊的な知識を得るための原則を明らかにされました。これらの原則には、信仰をもって行動することや、永遠の観点から概念や疑問について調べること、神から与えられた情報源を通してさらに理解を深めようとするなどが含まれています。教義に精通するには、イエス・キリストとその教義を信じる信仰を強めるために、聖霊を招き入れられるような方法で次の事柄を行います。それは、神の原則を実践する練習を積み、教義的な疑問や歴史的な疑問への答えの求め方を学ぶのです。

2. イエス・キリストの福音の教義とその教義を教えている聖句に精通する

次のことを行うことにより、マスター教義の成果がもたらされます。

a. それぞれのテーマで指定されている、教義に関連するテーマや重要な文への理解を深める —

- 神会
- 救いの計画
- イエス・キリストの贖罪
- 回復
- 預言者と啓示
- 神権と神権の鍵
- 儀式と聖約
- 結婚と家族
- 戒め

b. 教義の鍵となる文がマスター教義聖句によってどのように教えられているかを知り、その聖句を覚え、場所を特定することができる。

c. 関連するマスター教義聖句を使って、それぞれの教義の鍵となる文を明確に説明する。

d. 学んだことを日々の選択に応用したり、教義的、社会的、歴史的な問題や疑問への自分たちの回答に応用する。

霊的な知識を得る

天の御父はわたしたちを愛し、わたしたちが成長して御自分のようになることを望んでおられるため、わたしたちに「研究によって、また信仰によって学問を求めなさい」（教義と聖約 88：118）と促されました。真理を求める際、わたしたちは主を完全に信頼することができ、主の知恵と愛、そしてわたしたちを教え、祝福する主の力に頼りながらそれができます。神は万事を御存じで、あらゆる真理の源であります（モーサヤ 4：9参照）。神は、わたしたちが熱心に神を求めるならば、聖霊を通してわたしたちの思いと心に真理を明らかにすると約束しておられます（教義と聖約 8：2-3参照）。

天の御父はわたしたちを助けるために、霊的な知識を得る方法を教えてくださっています。そのような知識を得るために、わたしたちが従わなければならない条件を定めてくださいました。神が定められた規範によると、わたしたちは真理を知りたいと正直に望み（モロナイ 10：4-5参照）、神が明らかにされた真理に進んで従って生活しようとしなければなりません（ヨハネ 7：17参照）。わたしたちの心からの望みは、祈りや（ヤコブへの手紙 1：5-6；2 ニーファイ 32：8-9参照）、神の言葉を真剣に研究すること（2 テモテ 3：15-17；2 ニーファイ 32：3参照）を通して真理を求めるように導かれます。

時折、新しい情報を発見したり、理解するのが難しいと思われる教義や行い、教会の歴史について疑問に思ったりすることがあるかもしれません。質問し、答えを探し求めることは、真理を学ぶための重要な取り組みの一環です。頭に思い浮かぶ疑問の中には、聖霊により靈感として与えられるものもあります。靈感を受けた疑問は、わたしたちが理解を深め、主がわたしたちを教えようとしておられるという確信を強めるための機会として神から与えられた賜物とみなすべきです。疑問の源が何であれ、わたしたちには、考え、推論し、主の影響を受けて思いを広げ、理解を深めるための能力を授かっています。質問し、答えを探すときのわたしたちの姿勢や意図は、聖霊を通して学ぶ能力に大きな影響を与えます。

次の三つの原則は、わたしたちが永遠の真理を学び、理解し、疑問や問題を解決しようとするときに指針となるでしょう。信仰をもって行動する、永遠の視点から概念や疑問について調べる、神が定められた情報源を通して理解をさらに深める。

1. 信仰をもって行動する

神を信頼することを選ぶとき、また真心から祈り、神の教えを研究し、神の戒めに従うことを通してまず神に頼るときに、わたしたちは信仰をもって行動します。

理解を深め、懸念していることを解決しようと努めるときに、イエス・キリストと福音の回復、主が聖任された預言者の教えに対して自分がすでにもっている証に頼ることは重要です。ジェフリー・R・ホランド長老は、このように教えています。「問題が発生したときに、なかなか解決しないときに、すでに知っていることに固くしがみついても、新たな知識を得るまで、強くあってください。」（「主よ、信じます」『リアホナ』2013年5月号、94）主御自身が「あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れはならない」（教義と聖約 6：36）と招いておられます。

疑問の答えがすぐには見つからないときには、天の御父はわたしたちの救いに必要なことをすべて明らかにされているものの、まだ全ての真理を明らかにされてはいないことを思い出すことが役立ちます。答えを求め続けるときに、わたしたちは信仰により生活しなければなりません。わたしたちが求めている答えをいずれ受けると信じるのです（箴言 3：5-6；エテル 12：6参照）。わたしたちがすでに受けている真理と光に忠実であれば、さらに受けるでしょう。自分の疑問や祈りの答えは、しばしば「教えに教え、訓戒に訓戒を加えて」（2 ニーファイ 28：30）与えられます。

2. 永遠の視点から概念や疑問について調べる

教義的な概念や疑問、社会問題について永遠の視点で調べるには、わたしたちはそれらを、救いの計画や救い主の教えに照らして検討します。主が御覧になっているように物事を見ることができるよう、聖霊の助けを求めます。そのことにより、この世の前提や推論を受け入れる代わりに（1コリント 2：5、9-11参照）、主の真理の標準に基づいて、疑問を見直し（疑問に対して別の見方をする）、概念を見ることができるようになります。そのためには、次のような質問をするとういでしょう。「天の御父やその計画、天の御父がその子らにどのように働きかけるかについて、わたしはどのようなことをすでに知っているだろうか。」「この概念や問題に関連する、あるいは明確にする福音の教えはどれだろうか。」

歴史的な出来事に関する疑問でさえ、永遠の視点で調べることがあります。わたしたちが天の御父と御父が定められた救いの計画に対する信頼の基の上に堅く立っているならば、さまざまな問題をよりはっきりと見ることができるようでしょう。また、現在の視点や姿勢を押し付ける代わりに当時の文化や基準を考慮することにより、適切な歴史的背景の中で歴史的な疑問について調べる助けにもなるでしょう。

詳しく書かれた史実でも、儀式や聖約や教義のもと救いの力は含まれていないことを覚えておくことが重要です。回復の奇跡に注意を払わずに、さほど重要でない細かい事柄に気を取られることは、あたかも贈り物自体のすばらしさに目を向けずに贈り物の入っている箱を分析するのに時間を費やすようなものです。

3. 神が定められた情報源を通してさらに理解を深める

霊的な知識を得る主の定められた過程の一部として、主は真理と導きを神の子らに明らかにするための情報源を確立されています。その情報源には、キリストの光、聖霊、聖文、両親、教会の指導者などが含まれています。今日の地上における主の預言者である大管長会と十二使徒定員会は、重要な真理の源です。主はこれらの人々を、主に代わって語る者として選び、聖任されました。

わたしたちはさらに、他の信頼できる情報源を通して真理を学ぶことができます。しかし、真心から真理を求める人々は、信頼のおけない情報源に用心しなければなりません。わたしたちは、大勢の人が「悪を呼んで善といい、善を呼んで悪とい[う]」（イザヤ5:20）時代に生きています。サタンは偽りの父であり、真理をゆがめ、主と主が召された僕に背を向けるよう、わたしたちを誘おうとします。わたしたちが、主が定められた情報源に答えと導きを求めるならば、祝福されて真理と誤りを識別することができます。信頼のおけない情報源を認識し、それを避けることを学ぶのは、誤った情報や信仰を損なおうとする者たちから身を守ることができます。

他の人々が霊的な知識を得られるように助ける

教会の教義、慣行、歴史について誰かに質問されたり、あるいはその人が探し求めている場合、どのようにしてその人が真理を探索できるよう最善の方法で助けることができるでしょうか。わたしたちは、次のようにいくつかの方法で助けることができます。

注意深く、祈りながら耳を傾ける——答える前に、注意深く話を聞き、その人が尋ねている本当の疑問を明らかにし、理解しようと努めます。慎重に、その人の疑問の真意やその人の気持ちと信条を理解しようと努めます。

福音の真理を教え、証する——応用できる聖典の教えや現代の預言者の教え、それらが自分の生活をどのように変えたかを分かち合います。相手が、福音と救いの計画の内容から自分の疑問について吟味し、見直すことができるよう助けます。

信仰をもって行動するよう勧める——主はわたしたちに、自分で霊的な知識を探索よう求めておられることを覚えておきましょう。そのため、わたしたちは他の人に、祈り、戒めに従い、神から与えられた情報源、特にモルモン書を用いて神の言葉を熱心に調べることを通し、信仰をもって行動するよう勧めなければなりません。必要に応じて、聖霊を感じたときの経験を思い出させ、さらなる知識が与えられるまで学んだ永遠の真理にしっかりとつかまるよう勧めます。

最後まで助ける——答えを調べることを申し出て、学んだことを伝えることにより最後まで助けます。一緒に答えを探してもよいでしょう。個人の啓示を与えるという主の約束に対する確信を伝えます。

関連聖句——エレミヤ1:4-5; アモス3:7; マタイ5:14-16; マタイ16:15-19; ヨハネ15:16; ヨハネ17:3; エペソ2:19-20; エペソ4:11-14; 2ニーファイ2:27; モーサヤ18:8-10; 3ニーファイ18:15, 20-21; 教義と聖約1:37-38; 教義と聖約18:15-16; 教義と聖約21:4-6

関連する教義のテーマ——神会; 聖霊; イエス・キリストの贖罪; イエス・キリストを信じる信仰; 預言者と啓示; 戒め

教義のテーマ

1. 神会

神会は、それぞれ独立した御三方、すなわち、永遠の御父とその御子イエス・キリストと聖霊によって構成されています。御父と御子は触れることのできる栄光を受けた骨肉の体を持っておられ、聖霊は霊の御方です（教義と聖約 130:22 - 23参照）。御三方は、天父の救いの計画をもたらすという目的において完全に一致しておられます。

関連聖句—創世 1:26 - 27; ルカ 24:36 - 39; ジョセフ・スミス—歴史 1:15 - 20

父なる神

父なる神はわたしたちが礼拝する至高の御方です。わたしたちの霊の父親です（ヘブル 12:9 参照）。御父は完全であり、あらゆる権威を持ち、全てのことを御存じです。御父はまた、公正で憐み深く、思いやりに満ちた御方です。神はその子ら一人一人を完全に愛しておられ、すべての人は神にとって等しい存在です（2 ニューファイ 26:33 参照）。御父の業と栄光とは、人の不死不滅と永遠の命をもたらすことです。

関連聖句—ヨハネ 17:3; モーサヤ 4:9; モーセ 1:39

イエス・キリスト

イエス・キリストは霊における御父の長子であり、肉における御父の独り子です。御父の指示の下に、イエス・キリストは天と地を創造されました。イエスは旧約聖書のエホバであり、新約聖書のメシヤです。

イエス・キリストはあらゆることについて御父の御心を行われます。イエスは罪のない人生を送り、全人類の罪を贖っていただきました（3 ニューファイ 11:10 - 11 参照）。イエスは、わたしたちがどのような生活を送るべきかについて完全な模範を示されました（3 ニューファイ 12:48 参照）。イエスは天の御父の子供たちの中で最初に復活されました。古代と同様、現代においても、イエスは御自分の教会の頭であられます。イエス・キリストは力と栄光とをもって再び来られ、福千年の間、地球を統治されます（教義と聖約 29:10 - 11 参照）。イエス・キリストは全人類を裁かれます。

イエス・キリストはわたしたちの救い主であり、わたしたちと御父との間の仲保者であられるため、あらゆる祈りと祝福、神権の儀式は主の御名により行わなければなりません（3 ニューファイ 18:15, 20 - 21 参照）。

関連聖句—イザヤ 53:3 - 5; ルカ 24:36 - 39; 1 コリント 15:20 - 22; 黙示 20:12; アルマ 7:11 - 13; アルマ 34:9 - 10; ヒラマン 5:12; モロナイ 7:45, 47 - 48; 教義と聖約 1:30; 教義と聖約 6:36; 教義と聖約 18:10 - 11; 教義と聖約 19:16 - 19; 教義と聖約 76:22 - 24

関連テーマ—イエス・キリストの贖罪

聖霊

聖霊は神会の第三の御方です。聖霊は骨肉の体をお持ちにならない、霊の御方です。聖霊はしばしば、御霊、聖なる御霊、神の御霊、主の御霊、慰め主と呼ばれます。

聖霊は御父と御子を証し、あらゆることの真理を明らかにし、悔い改めてバプテスマを受ける人々を聖別されます。わたしたちは聖霊の力を通して御霊の賜物を受けることができます。御霊の賜物とは、自分自身のため、また人に奉仕し、祝福するために主から与えられる祝福や能力です。

関連聖句—ヨハネ 3:5; 1 コリント 2:5, 9 - 11; 2 ニューファイ 32:3; 2 ニューファイ 32:8 - 9; モーサヤ 3:19; モーサヤ 18:8 - 10; 3 ニューファイ 27:20; モロナイ 7:45, 47 - 48; モロナイ 10:4 - 5; 教義と聖約 8:2 - 3; 教義と聖約 130:22 - 23

関連テーマ—霊的な知識を得る; 儀式と聖約

2. 救いの計画

前世において、天の御父は一つの計画を発表されました。わたしたちが御父のようになり、不死不滅と永遠の命を得られるようにするための計画です（モーセ 1:39 参照）。この計画を成就し、天の御父のようになるには、わたしたちは御父と御子イエス・キリストを知り、御二方の属性と特質を正しく理解する必要があります（ヨハネ 17:3 参照）。

聖典の中で天の御父の計画は、救いの計画、偉大な幸福の計画、贖いの計画、憐れみの計画などと呼ばれています。この計画には地球の創造や墮落、イエス・キリストの贖い、あらゆる律法、儀式、福音の教義が含まれます。道徳的な選択の自由、すなわち選択し自分自身で行動する能力も天の御父の計画に不可欠です。わたしたちの永遠の進歩は、この賜物をどのように使うにかかっています（ヨシュア 24:15; 2 ニューファイ 2:27 参照）。

イエス・キリストは天の御父の計画の中心人物です。救いの計画のおかげで、わたしたちは完全になり、完全な喜びを得、永遠にわたって家族関係を保つ喜びを手に入れ、神とともに永遠に暮らすことができます。

関連聖句—マラキ 4:5 - 6; 3 ニューファイ 12:48; 教義と聖約 131:1 - 4

前世

わたしたちはこの地上に生まれる前、天の御父の霊の子供として御父のもとに住んでいました（アブラハム 3:22 - 23参照）。前世でわたしたちは、天の御父の他の霊の子供たちと一緒に、ある会議に参加しました。その会議で、天の御父は御自分の計画を示され、前世のイエス・キリストは救い主になることを聖約されました。

わたしたちは選択の自由を使って、天の御父の計画に従いました。天の御父とイエス・キリストに従った者は、死すべき状態を経験し、永遠の命を目指して進歩するために、地上へ来ることを許されました。神の霊の息子の一人であるルシフェルは、その計画に反対しました。ルシフェルはサタンとなり、彼と彼に従った者たちは天から追放され、肉体を得る特権と死すべき状態を経験する特権を与えられませんでした。

関連聖句—エレミヤ 1:4 - 5; ヘブル 12:9; 2 ニューファイ 2:27; 3 ニューファイ 11:10 - 11

創造

イエス・キリストは御父の指示の下で、天と地を創造されました（教義と聖約 76:22 - 24参照）。地球の創造は神の計画にとって不可欠でした。わたしたちは肉体を得て、試され、神聖な特質を伸ばすことのできる場所を与えられたのです。

アダムは地上で創造された最初の人でした。神はアダムとエバを御自分の形に創造されました。男性も女性も人は皆、神の形に創造されています（創世 1:26 - 27参照）。性別は、人の前世や現世、そして永遠の状態と目的にとって必須の特性なのです。

墮落

エデンの園において、神はアダムとエバを結婚により夫婦と定められました。アダムとエバが園にいた間、まだ神とともに暮らしており、永遠に生き続けることもできました。二人は罪のない状態で暮らし、神は彼らの必要を満たしてくださいました。

神はアダムとエバがエデンの園にいる間、二人に選択の自由を与えられました。そして、二人に禁じられた木の実、すなわち善悪を知る木の実を食べないように命じられました。この戒めに従えば、園にとどまることができました。しかし、アダムとエバは、園にとどまれば、死すべき状態で反対のものを体験することにより進歩することができないということをまだ理解していませんでした。悲しみや痛みを経験することができなかったため、喜びを知ることができませんでした。さらに、子供をもうけることもできませんでした。

サタンは禁じられた実を食べるようにアダムとエバを誘惑し、二人はその実を食べることを選択しました。この選択により、二人は神の御前から追い出され、墮落し、死すべき状態になりました。アダムとエバの背きや、その結果、霊の死と肉体の死を含む変化がもたらされたことを、墮落と呼びます。霊の死とは神から離れることです。肉体の死とは霊が肉体から離れることです。

墮落は天の御父の救いの計画に不可欠の部分です。墮落の結果、アダムとエバは子供をもうけることができるようになりました。アダムとエバとその子孫は、喜びと悲しみを経験し、善悪を知り、進歩することができるようになったのです（2 ニューファイ 2:22 - 25参照）。アダムとエバの子孫であるわたしたちは、死すべき世にいる間、墮落の状態を受け継いでいます。わたしたちは神の御前から絶たれ、肉体の死を受けます。また、現世の苦難やサタンの誘惑による試しも受けます。わたしたちはアダムとエバの背きの責任を負うことはありませんが、自分自身の罪の責任は負います。イエス・キリストの贖罪を通して、わたしたちは墮落の負の効果を克服し、自分の罪の赦しを受け、やがて完全な喜びを味わうことができます。

関連聖句—創世 1:28; モーサヤ 3:19; アルマ 34:9 - 10

関連テーマ—イエス・キリストの贖罪

死すべき生涯

死すべき生涯は、学びのときです。わたしたちは死すべき生涯の間に、自分の選択の自由を使って主から命じられたことを全て行うことを証明し、神の特質を伸ばすことにより永遠の生命に備えます。そのためにわたしたちは、イエス・キリストとその贖罪を信じる信仰を働かせ、悔い改め、バプテスマや確認などの救いをもたらす儀式と聖約を受け、イエス・キリストの模範に従いながら死すべき生涯の終わりまで忠実に堪え忍びます。

死すべき状態で、わたしたちの霊は肉体と結合し、前世ではできなかった方法で進歩成長する機会が与えられます。天の御父は触れることのできる骨肉の体をお持ちであるため、わたしたちの肉体は、わたしたちが進歩して御父のようになるうえで欠かせません。わたしたちの体は神聖であり、天の御父からの贈り物として尊ばなければなりません（1 コリント 6:19 - 20参照）。

関連聖句—ヨシュア 24:15; マタイ 22:36 - 39; ヨハネ 14:15; 2 ニューファイ 2:27; 3 ニューファイ 12:48; モロナイ 7:45, 47 - 48; 教義と聖約 130:22 - 23

関連テーマ—神会; イエス・キリストの贖罪; 儀式と聖約; 戒め

死後の生活

わたしたちが死ぬと、わたしたちの霊は霊界に入り、復活を待ちます。義人の霊はパラダイスと呼ばれる幸福な状態に迎え入れられます。真理を知ることなくこの世を去った人々や現世で不従順だった人々は死後の世界の、霊の獄と呼ばれる、一時的に置かれる場所に行きます。

各人はいずれ福音の原則を学び、その儀式と聖約を受ける機会を与えられます。忠実な人の多くは、霊の獄にいる人々に福音を宣べ伝えます。福音を受け入れ、悔い改め、神殿で自分に代わって執行される救いの儀式を受け入れることを選ぶ人々は、復活までの間パラダイスに住みます(1ペテロ4:6参照)。

復活とは、わたしたちの霊の体が完全な骨肉の体と再結合することです。復活後、わたしたちは不死不滅となり、霊と肉体は二度と分かれることはありません。イエス・キリストが肉体の死に打ち勝たれたので、地上に生を受けた人は全て復活します(1コリント15:20-22参照)。義人は悪人よりも先に復活し、第一の復活の時に出て来ます。

最後の裁きが復活の後に行われます。各人が受ける永遠の栄光を決めるために、イエス・キリストがそれぞれの人を裁かれます。この裁きは、各人の望みと、神の戒めに対する従順さに基づいて行われます(黙示20:12参照)。

王国には3つの栄光があります。日の栄えの王国、月の栄えの王国、星の栄えの王国です(1コリント15:40-42参照)。イエスの証に雄々しく、福音の原則に従順な人々は、父なる神と御子イエス・キリストのもとで義にかなった家族とともに日の栄えの王国に住みます。

関連聖句—ルカ24:36-39;ヨハネ17:3;教義と聖約131:1-4

関連テーマ—イエス・キリストの贖罪;儀式と聖約

3. イエス・キリストの贖罪

イエス・キリストは前世の大会議で、わたしたちの救い主、贖い主となるよう予任されました。イエス・キリストは地上に来て、全人類を墮落の負の効果から贖うため、またわたしたちの罪の代価を払うために、進んで苦しみを受け、その身をささげてくださいました。イエス・キリストが苦しみと死を身に受け復活を逃げることにより、霊と肉体の死に打ち勝たれたことを贖罪と呼びます。イエス・キリストの犠牲はわたしたち一人一人に益をもたらします。また、天の御父の全ての子供たちに無限の価値があることを示しています(教義と聖約18:10-11参照)。

わたしたちはイエス・キリストによってのみ救われることができます。なぜなら、イエスは全人類のために無限にして永遠の贖罪を成し遂げることでできる唯一の御方だからです(アルマ34:9-10参照)。肉体の死を克服する力

を持っておられるのは、イエスをおいて他にいません。イエス・キリストは死すべき人間の母マリヤから死ぬ能力を受け継ぎ、不死不滅の御父である神より、永遠に生きる、あるいは自分の命を捨てて再びそれを取り戻す力を受け継がれました。イエス・キリストだけがわたしたちを罪から贖う力をお持ちでした。完全に罪のない生涯を送られたため、イエスは正義の要求を受けることなく、悔い改める人のために代価を払うことがおできになりました。

イエス・キリストの贖罪には、ゲツセマネの園で全人類の罪のために血を流されたことや、十字架上で苦しみと死を味わわれたこと、文字通りの復活などが含まれます。イエスは、最初に復活された御方です。イエスは、栄光に満ちた不死不滅の骨肉の体で墓より出てこられたのです(ルカ24:36-39参照)。主の贖罪のゆえに、全人類は完全に不死不滅の肉体をまとうて復活し、神の御前に連れ戻されて裁きを受けます。イエス・キリストの贖いの犠牲は、わたしたちが清くなり、罪を赦されて永遠に神のみもとで暮らすことができる唯一の道を備えてくれました(イザヤ1:18;教義と聖約19:16-19参照)。

贖罪の一環として、イエス・キリストはわたしたちの罪のために苦しまれただけでなく、全人類の苦痛、誘惑、病気、弱さをその身に受けられました(イザヤ53:3-5;アルマ7:11-13) イエス・キリストは御自身で経験されたので、わたしたちの苦しみを理解しておられます。信仰をもって主のもとへ行くとき、救い主はわたしたちが重荷を背負い、自分では行うことのできないことを成し遂げられるように強めてくださるでしょう(マタイ11:28-30;エテル12:27参照)。

イエス・キリストはわたしたちの罪の代価を払ってくださいましたが、わたしたち一人一人の責任を取り除かれたわけではありません。イエスの犠牲を受け入れ、罪から清められ、永遠の命を受け継ぐためには、わたしたちはイエスを信じる信仰を働かせて、悔い改め、バプテスマを受け、聖霊を受け、生涯の終わりまで忠実に堪え忍ばなければなりません。

関連聖句—ヨハネ3:5;1コリント15:20-22;モーサヤ3:19;3ニーファイ11:10-11;3ニーファイ27:20;教義と聖約76:22-24

関連テーマ—神会;イエス・キリスト;救いの計画;墮落;儀式と聖約

イエス・キリストを信じる信仰

福音の第一の原則は主イエス・キリストを信じる信仰です。わたしたちの信仰が救いをもたらすのは、それがイエス・キリストに根差したものである場合に限り(ヒラマン5:12参照)。

イエス・キリストを信じる信仰には、キリストが神の独り子であり、世の救い主であることを固く信じる事が含まれます。わたしたちは、天の御父のもとに戻って御父とともに暮らす唯一の方法は、御子の無限の贖罪に頼り、イエス・キリストを信頼し、その教えに従うことであると認めています。イエス・キリストを信じる真の信仰とは、言われるままにただ信じるのではなく、行動へと導かれ、自分の生き方によって示すものです(ヤコブの手紙2:17-18参照)。信仰は、祈り、聖文を研究し、神の戒めに従うことで強めることができます。

関連聖句—箴言3:5-6; エテル12:6; 教義と聖約6:36

関連テーマ—霊的な知識を得る

悔い改め

イエス・キリストを信じる信仰と、イエスや天の御父への愛は、わたしたちを悔い改めへと導きます。悔い改めは、自分の選択の責任を負うすべての神の子のために備えられた天の御父の計画の一部です。この賜物はイエス・キリストの贖罪を通じて受けることができます。悔い改めは、思いと心の変化です。悔い改めには、罪から離れ、自分の思いと行動と望みを神に向け、自分の思いを神の御心と一致させることが含まれます(モーサヤ3:19参照)。

悔い改めには、罪を犯したことを認識し、それを悲しむ、つまり神の御心に沿った悲しみを感じ、天の御父に告白し、また必要に応じて他の人々に告白し、罪を捨て、罪によって損なわれた全てのものを可能な限り回復するように努め、神の戒めに従って生活することが、含まれます(教義と聖約58:42-43参照)。バプテスマを受けるときに、主はわたしたちの罪を赦されると約束されています。わたしたちは救い主を覚え、主の戒めを守ろうという意図をもって真心から聖餐を取るたびにその聖約を新たにします。

真心からの悔い改めと、イエス・キリストの贖罪を通して与えられる恵みにより、わたしたちは神の救しを受けて平安を感じることができます。さらに豊かに御霊の影響を感じ、天の御父と御子とともに永遠に暮らす備えをすることができます。

関連聖句—イザヤ1:18; ヨハネ14:15; 3 ニーフアイ27:20; 教義と聖約19:16-19

関連テーマ—儀式と聖約

4. 回復

神は、その真理と神権の権能と教会を再び地上に確立することにより、この末日に福音を回復されました。古代の預言者は、末日に福音が回復されることを預言しました(イザヤ29:13-14; 使徒3:19-21参照)。

回復の業は1820年に始まりました。父なる神とその御子イエス・キリストはジョセフ・スミスの祈りにこたえて御姿を現し、ジョセフを回復の預言者として召されました(ジョセフ・スミス—歴史1:15-20参照)。神はジョセフ・スミスを、末日における生けるキリストの証人として召されました。回復の預言者として、ジョセフ・スミスは神の賜物と力によってモルモン書を翻訳しました(教義と聖約135:3参照)。モルモン書は聖書とともにイエス・キリストを証する書物であり、完全な福音が収められています(エゼキエル37:15-17参照)。モルモン書は、ジョセフ・スミスが預言者として召されていたことと回復の業が真実であることの証でもあります。

回復の業の一部として、神はアロン神権とメルキゼデク神権を回復するために天の使いを送ってくださいました。また、1830年4月6日に地上に主の教会を新たに組織するよう指示されました。末日聖徒イエス・キリスト教会は神御自身により設立されたため、「全地の面〔の〕唯一まことの生ける教会」です(教義と聖約1:30)。

関連聖句—アモス3:7; エペソ2:19-20; エペソ4:11-14; 教義と聖約13:1; 教義と聖約76:22-24; 教義と聖約107:8

関連テーマ—神会; 預言者と啓示

背教

末日に神の真理と神権の権能と教会を回復する必要性は、背教のために高まりました。背教は、一人以上の人が福音の真理から遠ざかるときに起こります。

救い主の十字架上の死と主の弟子の死後、大勢の人は救い主が定められた真理から遠ざかりました(2テサロニケ2:1-3参照)。福音の原則と聖文のさまざまな部分が損なわれたり失われたりしました。教会の組織と神権の儀式に、権能をもたない者の手で変更が加えられました。この邪悪な行いが広まったために、主は地上から神権の権能と鍵を取り去ってしまわれました。自分のもつ光に従って神を礼拝し、祈りの答えを受ける善良で誠実な人は大勢いたものの、この世は生ける預言者を通して神の啓示を受けられないままにされました。この時代は「大背教」として知られています。

世界の歴史を通じて、社会全体が背教する時代が他にも何度もありました。

関連テーマ—預言者と啓示；神権と神権の鍵；儀式と聖約

神権時代

神の子が背教の状態に陥ると、神は愛をもって彼らに手を差し伸べられました。預言者を召し、預言者を通して福音の祝福を人々に授けられたのです。主がその真理と神権の権能、儀式を明らかにされる時期を「神権時代」と呼びます。神権時代には、主から権能を受けた僕が少なくとも一人地上に置かれます。彼は聖なる神権を保有し、福音を宣べ伝え、福音の儀式を執行する神聖な任務を果たします。

アダム、エノク、ノア、アブラハム、モーセ、イエス・キリストなどの時代をそれぞれ神権時代と捉えています。主が預言者ジョセフ・スミスを通して始められた「末日における福音の回復」は、他の神権時代と同じパターンに従っています。

あらゆる神権時代において、主とその預言者はシオンを確立しようとされました。シオンとは、心が清く、義にあって結ばれ、互いを思いやる主の聖約の民を指します（モーセ7:18参照）。シオンは、心が清い者の住む場所を指すこともあります。

今日わたしたちは最後の神権時代、つまり時満ちる神権時代に生きています。この神権時代は、背教を迎えることのない唯一の神権時代です。末日聖徒イエス・キリスト教会はやがて全地を満たし、永続するでしょう（ダニエル2:44参照）。

関連テーマ—預言者と啓示；神権と神権の鍵；儀式と聖約

5. 預言者と啓示

預言者とは、神に代わって語るよう神から召されている人です（エレミヤ1:4-5；アモス3:7；ヨハネ15:16；教義と聖約1:37-38参照）。預言者はイエス・キリストについて証し、イエス・キリストの福音を教えます。神の御心と神の真の属性について知らせます。預言者は罪を非難し、その結果について警告し、わたしたちが偽りを避けることができるよう助けくれます（エゼキエル3:16-17；エペソ4:11-14参照）。時折、将来起こる出来事についても預言します。預言者は神から権能と啓示を受けているためにこのような責任を果たすことができます。

啓示とは神がその子供たちに御心を伝えてくださることです。ほとんどの啓示は、聖霊から与えられる印象や思い、気持ちなどを通して与えられます。また啓示は、示現、夢、天使の訪れによって与えられることもあります。

主は、現世で教導の業を行われたときに、また今日再び、預言者と使徒の基の上に主の教会を築かれました（エペソ2:19-20参照）。末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長は、今日の地上にいる全ての人のために与えられている神の預言者です。わたしたちは教会の大管長を預言者、聖見者、啓示者として、また教会全体を導くために啓示を受ける地上で唯一の人として支持しています。大管長の教えを忠実に受け入れ、それに従うならば、神は偽りと悪を克服できるようわたしたちを祝福してくださいます（教義と聖約21:4-6参照）。わたしたちはまた、大管長会の顧問と十二使徒定員会会員も、預言者、聖見者、啓示者として支持しています。

聖典、すなわち、聖書とモルモン書、教義と聖約、高価な真珠には、古代と末日の預言者たちを通して与えられた啓示が記されています。わたしたちは預言者の言葉を研究するとき、真理を学び、導きを受けることができます。

神は全ての神の子らを導くために預言者を通して啓示を与えられますが、個人もそれぞれの必要、責任、疑問に応じて、また証を強める助けとして、啓示を受けることができます。しかし、個人が主から受ける靈感は、神がその預言者を通して与えられる啓示と矛盾することは決してありません。

関連聖句—アブラハム3:22-23；マタイ16:15-19；2テモテ3:15-17；2ニーファイ32:3；教義と聖約8:2-3；教義と聖約76:22-24

関連テーマ—霊的な知識を得る；神権と神権の鍵

6. 神権と神権の鍵

神権は神の永遠の力と権能です。神権によって、神は天地を創造し、統治しておられます。この力を通して、神はその子供たちを贖い、昇栄できるようにしてくださいます。

神は、御自分の子供たちを救い、教化するために、教会のふさわしい男性会員に神権の権能を授け、彼らが神の御名により行動することができるようにされました（教義と聖約121:36, 41-42参照）。

神権の鍵は長の職に伴う権利、もしくは神が地上における神の王国を統治し導くために人に与えられる力です（マタイ16:15-19参照）。神権の鍵は、福音を教え、救いの儀式を執行する業を導くために欠かせません。

イエス・キリストは、御自身の教会に関わる全ての神権の鍵を持っておられます。主は、地上における神の王国に関わる全ての鍵を御自身の使徒一人一人に授けてこられました。大管長はこれらすべての神権の鍵を行使する権限を受けている唯一の人物です。神殿会長、伝道部会長、スケー

ク会長、ビショップ、定員会会長も神権の鍵を保持しており、委任されている業を管理し導くことが許されています。

教会で奉仕するすべての男女は、神権の鍵を持つ人の指示の下で召されます。このようにして、彼らは奉仕し、召しに伴う責任を果たすために必要な権限を行使する資格があると認められます（教義と聖約 42：11参照）。

アロン神権とメルキゼデク神権を受ける人は神権の誓詞と聖約を交わします。召しを尊んで大いなるものとし、忠実に主とその僕を受け入れるならば、彼らは昇栄の祝福にあずかるでしょう。女性も同様に、主と交わした聖約に忠実であるならば、昇栄の祝福を受けると約束されています。

関連聖句—ヨハネ 15：16；エペソ 2：19 - 20

関連テーマ—回復；預言者と啓示；儀式と聖約

アロン神権

アロン神権は、しばしば備えの神権と呼ばれます。アロン神権は、「天使の働きと鍵と、悔い改めの福音の鍵と、……バプテスマの鍵を持[ち]ます（教義と聖約 13：1）。この神権を行使することにより、聖餐の準備と祝福、執行が執り行われます。アロン神権には、執事、教師、祭司、ビショップの職があります。

メルキゼデク神権

メルキゼデク神権は「管理する権利を有し、この世のあらゆる時代に、教会におけるすべての職を管理し、霊的な事柄をつかさどる力と権能を持つ」、より高次でより偉大な神権です（教義と聖約 107：8）。あらゆる祝福、儀式、聖約、教会の組織は、メルキゼデク神権の会長である大管長の権能のもとで管理されます。この神権はアダムに授けられ、主が福音を啓示されたときにはいつでも地上にありました。メルキゼデク神権には、長老、大祭司、祝福師、七十人、使徒の職があります。

関連聖句—エペソ 4：11 - 14

7. 儀式と聖約

儀式

儀式とは神権の権能によって執行される神聖な行為です。それぞれの儀式は、しばしば象徴を通して霊的な真理を教えるために神が定められたものです。

幾つかの儀式は昇栄に不可欠であるため、救いの儀式と呼ばれています。救いをもたらす儀式を受け、関連する聖約を守ることによってのみ、わたしたちはイエス・キリストの贖罪を通してもたらされたあらゆる祝福を手に入れることができます。これらの救いの儀式なしに、わたしたちは

天の御父のようになることも、主のみもとに戻って永遠にも暮らすこともできません（教義と聖約 84：20 - 22参照）。救いをもたらす儀式は、神権の鍵をもつ人々の指示のもと執り行われます。

福音における最初の救いの儀式は、権能を持つ者によって水に沈められるバプテスマです。バプテスマは、人がイエス・キリストの教会の会員となり、また日の栄えの王国に入るために必要です（ヨハネ 3：5参照）。

バプテスマを受けると、一人以上のメルキゼデク神権者により教会の会員に確認され、聖霊の賜物を付与されます（3ニーファイ 27：20参照）。聖霊の賜物は聖霊の影響力とは異なります。バプテスマをまだ受けていない人は、聖霊の影響を感じ、真理の証を受けることができます。聖霊を賜物を受け、聖約を守る人は、常に聖霊を伴侶とする権利を得ます。

救いをもたらすその他の儀式には、メルキゼデク神権への聖任（男性の場合）、神殿のエンダウメント、結婚の結び固めなどが含まれます。神殿では、これらの救いの儀式を死者のためにも代理で執行することができます。代理の儀式は、その死者が霊界でその儀式を受け入れ、関連した聖約を導ぶときにのみ有効となります。

その他に、病人への癒やしの祝福、子供の命名と祝福など、わたしたちの霊的な進歩にとって重要な儀式があります。

関連聖句—マラキ 4：5 - 6；マタイ 16：15 - 19；1ペテロ 4：6；教義と聖約 131：1 - 4

関連テーマ—神会；聖霊；救いの計画；死後の生活；イエス・キリストの贖罪；神権と神権の鍵

聖約

聖約とは、神と人との間で交わされる神聖な合意です。神は聖約に伴う条件を定め、わたしたちは神から求められることを行うと同意します。その後には、わたしたちの従順さに応じて祝福を与えると約束されます（出エジプト 19：5 - 6；教義と聖約 82：10）聖約に従わないならば、わたしたちは約束されている祝福を受けることができません。

全ての神権の救いの儀式に聖約が伴います。例えば、わたしたちはバプテスマを通して主と聖約を交わします（モーサヤ 18：8 - 10参照）。また、メルキゼデク神権を受ける男性は神権の誓詞と聖約を交わします。わたしたちは、聖餐を取ることに伴い、交わした聖約を新たにします。

神殿で救いの儀式であるエンダウメントを受け、結婚の結び固めを受けるときに、聖約をさらに交わします。わたしたちは、主が定められたふさわしさの標準に従って生活することにより、儀式に参加し聖約を交わす備えをします（詩篇 24：3 - 4参照）。神殿は文字通り主の宮であるため、

わたしたちが神殿に入るふさわしさを身につけていることは重要です。神殿は、地上のあらゆる礼拝の場の中でも最も神聖な場所です。

8. 結婚と家族

男女間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の救いの計画とわたしたちの幸福の中心を成すものです。(創世 2:24; 教義と聖約 49:15-17参照)。日の栄えの結婚の聖約を交わし、忠実にその聖約を守ることによってのみ、男女はそれぞれが神から与えられた永遠の可能性を実現することができます(1コリント 11:11; 教義と聖約 131:1-4参照)。

神はその子らに、増え、地を満たすよう命じられています(創世 1:28参照)。生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。(創世 39:9; アルマ 39:9参照)。夫婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負っています。両親は、愛と義をもって子供たちを育て、子供たちに物質的にも霊的にも必要なものを与えなければなりません。

家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。神の定めに従い、父親は愛と義をもって自分の家族を管理し、生活必需品を提供しなければなりません。また母親には、子供を養育するという主要な責任があります。これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。

神の幸福の計画は、家族関係が墓を超えて続くことを可能にしています。地球が創造され、福音が啓示されたのは、家族が組織され、結び固められ、永遠に昇栄できるようにするためです。家族歴史と神殿での奉仕を通して、わた

したちは先祖が福音の儀式と聖約を受けられるようにすることができます(マラキ 4:5-6参照)。

(出典—「家族—世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号, 129)

関連聖句—モーセ 1:39; 創世 1:26-27; 出エジプト 20:3-17; マタイ 16:15-19; ヨハネ 17:3; 1コリント 6:19-20; 2ニーファイ 2:22-25; モーサヤ 2:41; アルマ 41:10; 教義と聖約 84:20-22

関連テーマ—救いの計画; 戒め

9. 戒め

戒めとは、わたしたちが進歩し神のようになる助けとして神から与えられた律法であり要件です。戒めは、神がわたしたちに抱いておられる愛の現れです。わたしたちは神の戒めを守るにより、神を愛していることを証明します(ヨハネ 14:15参照)。戒めを守ることは、主から幸福と祝福を常にもたらすことができます(モーサヤ 2:41; アルマ 41:10参照)。神は戒めを与えると同時に、それに従う手段も備えてくださいました(1ニーファイ 3:7参照)。

最も基本的な二つの戒めは、「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ」と「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」です(マタイ 22:36-39参照)。わたしたちは他の人々を愛し、仕えることにより神を愛し、神に仕えることができます(モーサヤ 2:17; モロナイ 7:45, 47-48参照)。

初期に人に与えられた戒めの一つは、安息日を聖く保つという戒めです。神はその子らに、安息日には自分のしたいことではなく、主の御心を行うことにより主を尊ぶよう命じられました。そして、主の日を聖く保つ人々に大いなる祝福を約束しておられます(イザヤ 58:13-14参照)。

十戒は、福音においてきわめて重要であり、昇栄するために必要な永遠の原則です(出エジプト20:3-17参照)。主は昔、モーセに十戒を啓示されました。そして、末日の啓示の中で再び十戒について述べておられます。

神の戒めに含まれるのは、日々祈ること、神の言葉を研究すること、悔い改めること、純潔の律法に従うこと、完全に什分の一を納めること(マラキ3:8-10)、断食すること(イザヤ58:6-7参照)、人を救すこと(教義と聖約64:9-11参照)、知恵の言葉を守ること(教義と聖約

89:18-21参照)、福音を人々に教えること(マタイ5:14-16;教義と聖約18:15-16参照)です。

関連聖句—創世39:9;2テモテ3:15-17;ヤコブの手紙1:5-6;2ニーファイ32:3;2ニーファイ32:8-9;モーサヤ18:8-10;アルマ39:9;3ニーファイ18:15、20-21;教義と聖約58:42-43;教義と聖約82:10

関連テーマ—霊的な知識を得る;イエス・キリストの贖罪;悔い改め;儀式と聖約

以上のテーマの詳細については、gospeltopics.lds.org、または『真理を守る—福音の参考資料』を参照してください。

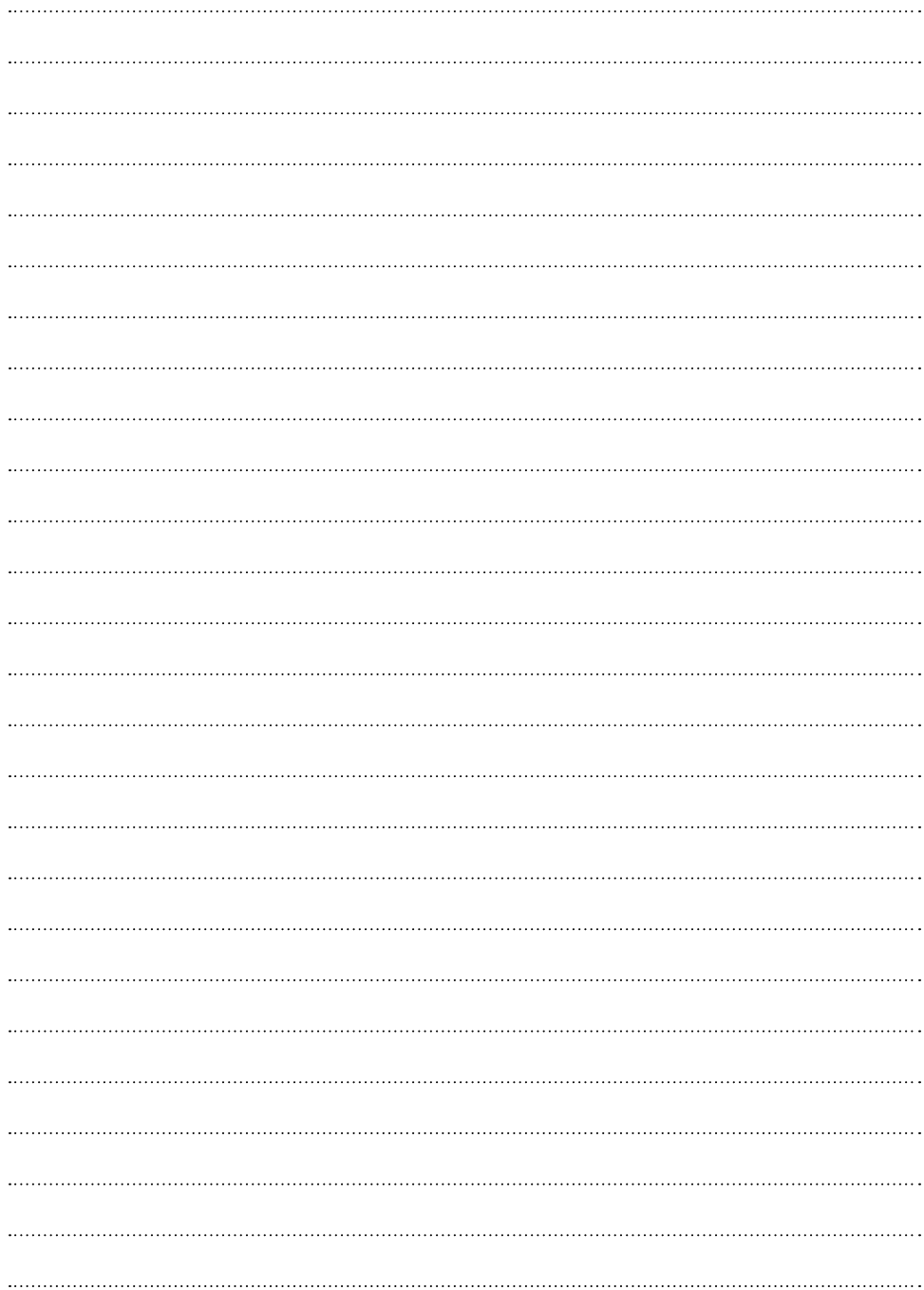
マスター教義聖句

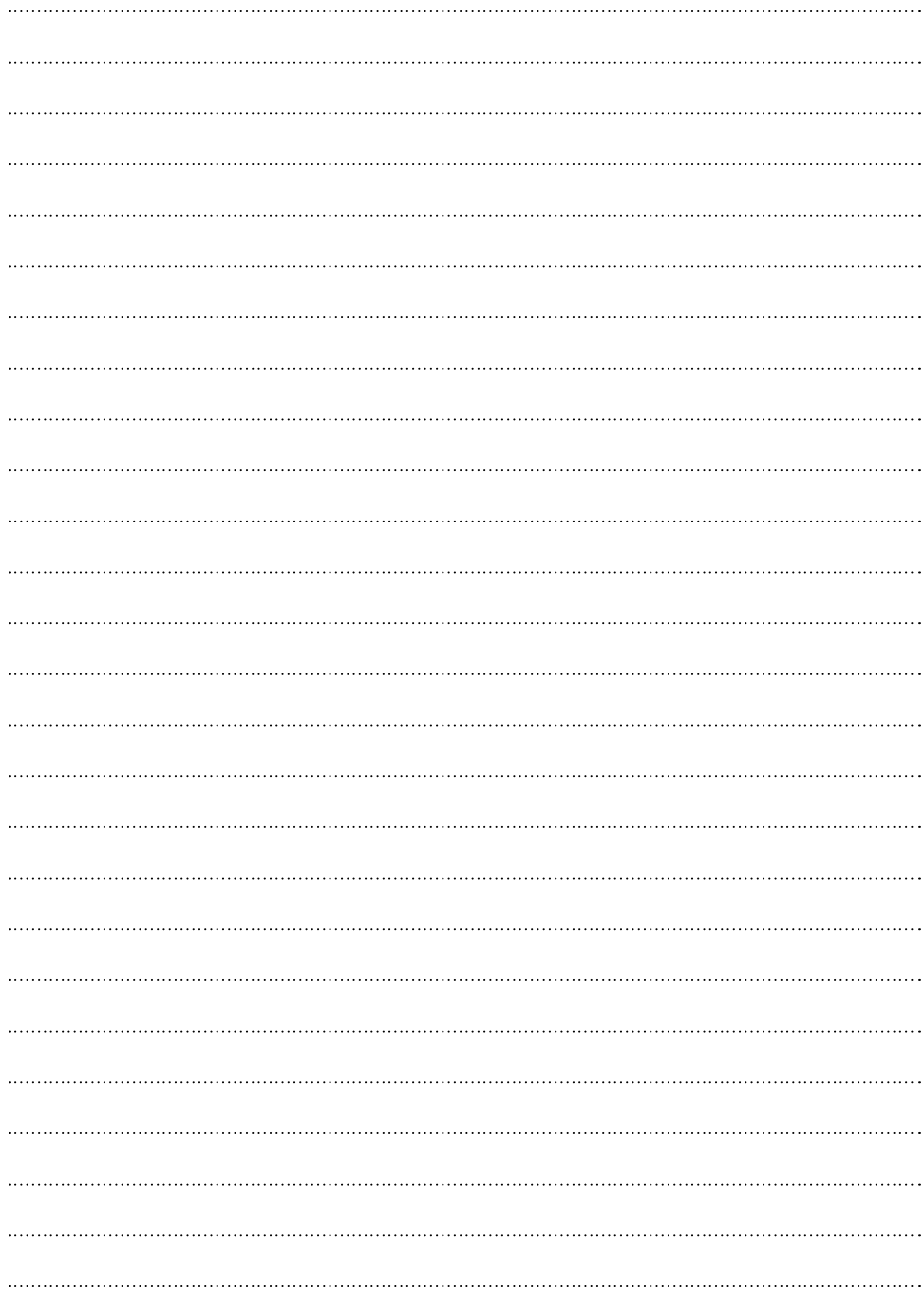
以下は 100 の「マスター教義聖句」のリストです。

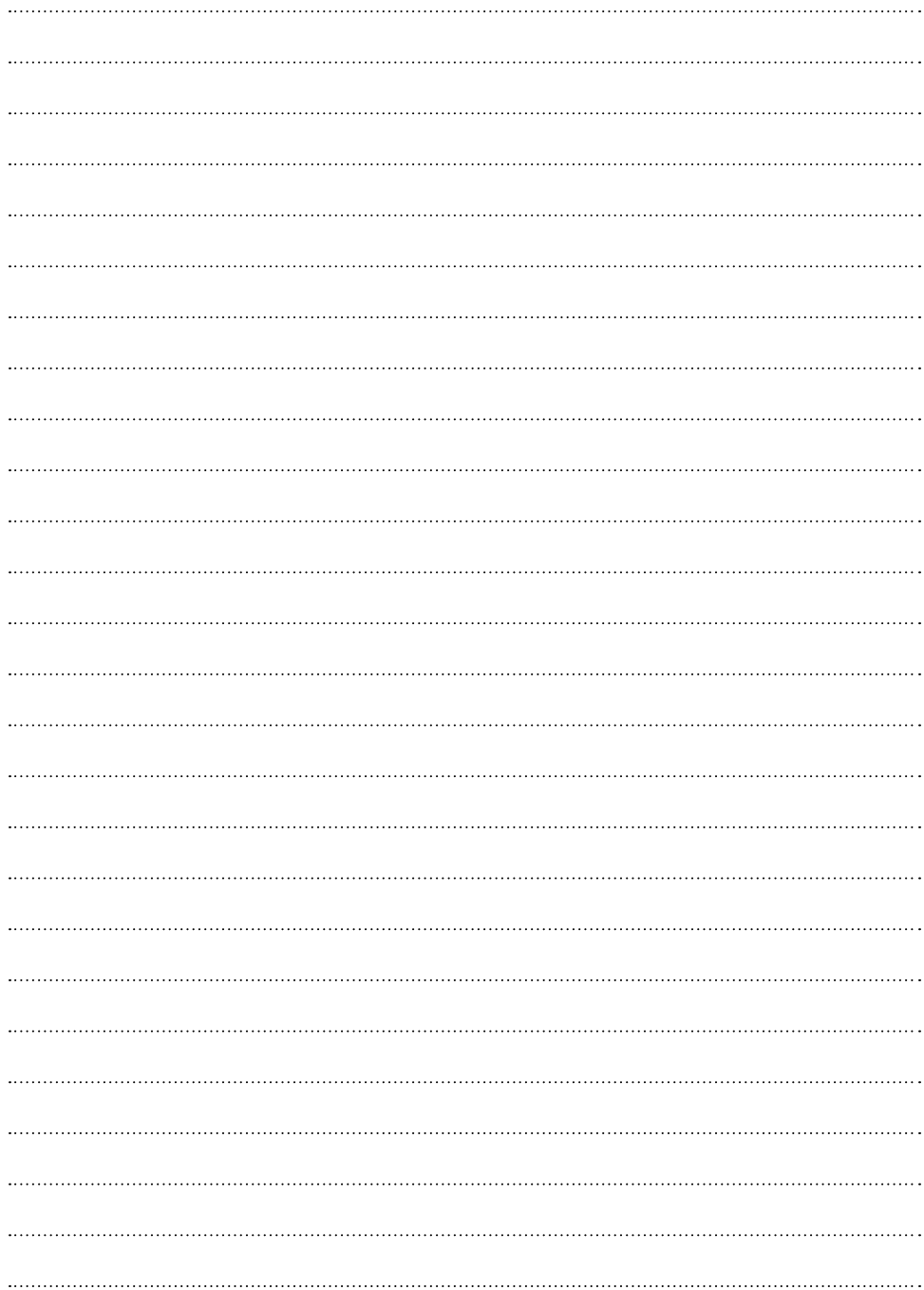
旧約聖書	新約聖書	モルモン書	教義と聖約 および教会歴史
モーセ 1 : 39	マタイ 5 : 14 – 16	1 ニーファイ 3 : 7	ジョセフ・スミス—歴史 1 : 15 – 20
モーセ 7 : 18	マタイ 11 : 28 – 30	2 ニーファイ 2 : 22 – 25	教義と聖約 1 : 30
アブラハム 3 : 22 – 23	マタイ 16 : 15 – 19	2 ニーファイ 2 : 27	教義と聖約 1 : 37 – 38
創世 1 : 26 – 27	マタイ 22 : 36 – 39	2 ニーファイ 26 : 33	教義と聖約 6 : 36
創世 1 : 28	ルカ 24 : 36 – 39	2 ニーファイ 28 : 30	教義と聖約 8 : 2 – 3
創世 2 : 24	ヨハネ 3 : 5	2 ニーファイ 32 : 3	教義と聖約 13 : 1
創世 39 : 9	ヨハネ 7 : 17	2 ニーファイ 32 : 8 – 9	教義と聖約 18 : 10 – 11
出エジプト 19 : 5 – 6	ヨハネ 14 : 15	モーサヤ 2 : 17	教義と聖約 18 : 15 – 16
出エジプト 20 : 3 – 17	ヨハネ 15 : 16	モーサヤ 2 : 41	教義と聖約 19 : 16 – 19
ヨシュア 24 : 15	ヨハネ 17 : 3	モーサヤ 3 : 19	教義と聖約 21 : 4 – 6
詩篇 24 : 3 – 4	使徒 3 : 19 – 21	モーサヤ 4 : 9	教義と聖約 29 : 10 – 11
箴言 3 : 5 – 6	1 コリント 2 : 5, 9 – 11	モーサヤ 18 : 8 – 10	教義と聖約 42 : 11
イザヤ 1 : 18	1 コリント 6 : 19 – 20	アルマ 7 : 11 – 13	教義と聖約 49 : 15 – 17
イザヤ 5 : 20	1 コリント 11 : 11	アルマ 34 : 9 – 10	教義と聖約 58 : 42 – 43
イザヤ 29 : 13 – 14	1 コリント 15 : 20 – 22	アルマ 39 : 9	教義と聖約 64 : 9 – 11
イザヤ 53 : 3 – 5	1 コリント 15 : 40 – 42	アルマ 41 : 10	教義と聖約 76 : 22 – 24
イザヤ 58 : 6 – 7	エペソ 2 : 19 – 20	ヒラマン 5 : 12	教義と聖約 82 : 10
イザヤ 58 : 13 – 14	エペソ 4 : 11 – 14	3 ニーファイ 11 : 10 – 11	教義と聖約 84 : 20 – 22
エレミヤ 1 : 4 – 5	2 テサロニケ 2 : 1 – 3	3 ニーファイ 12 : 48	教義と聖約 88 : 118
エゼキエル 3 : 16 – 17	2 テモテ 3 : 15 – 17	3 ニーファイ 18 : 15, 20 – 21	教義と聖約 89 : 18 – 21
エゼキエル 37 : 15 – 17	ヘブル 12 : 9	3 ニーファイ 27 : 20	教義と聖約 107 : 8
ダニエル 2 : 44	ヤコブの手紙 1 : 5 – 6	エテル 12 : 6	教義と聖約 121 : 36, 41 – 42
アモス 3 : 7	ヤコブの手紙 2 : 17 – 18	エテル 12 : 27	教義と聖約 130 : 22 – 23
マラキ 3 : 8 – 10	1 ペテロ 4 : 6	モロナイ 7 : 45, 47 – 48	教義と聖約 131 : 1 – 4
マラキ 4 : 5 – 6	黙示 20 : 12	モロナイ 10 : 4 – 5	教義と聖約 135 : 3

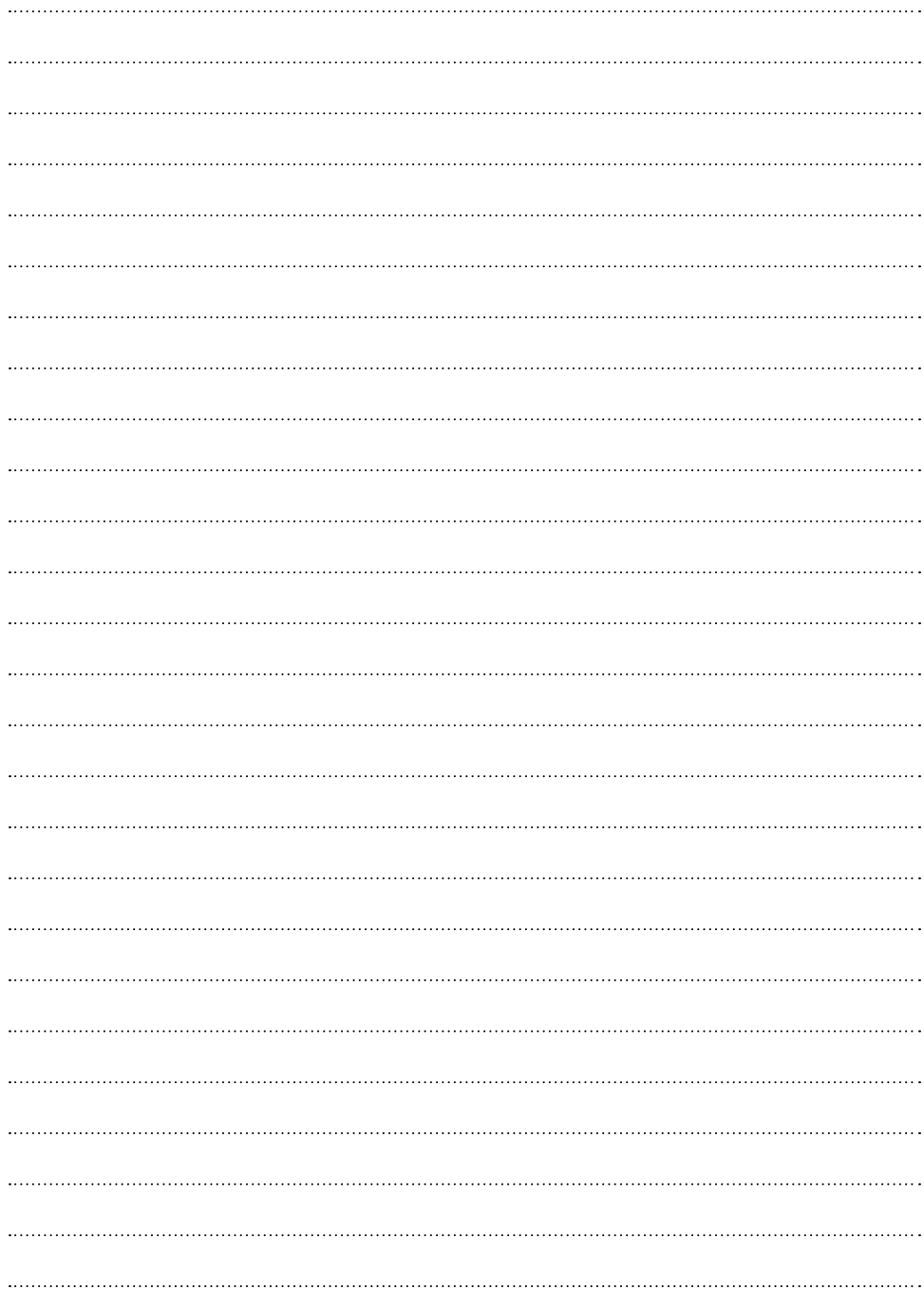
日々の聖文読書進度表

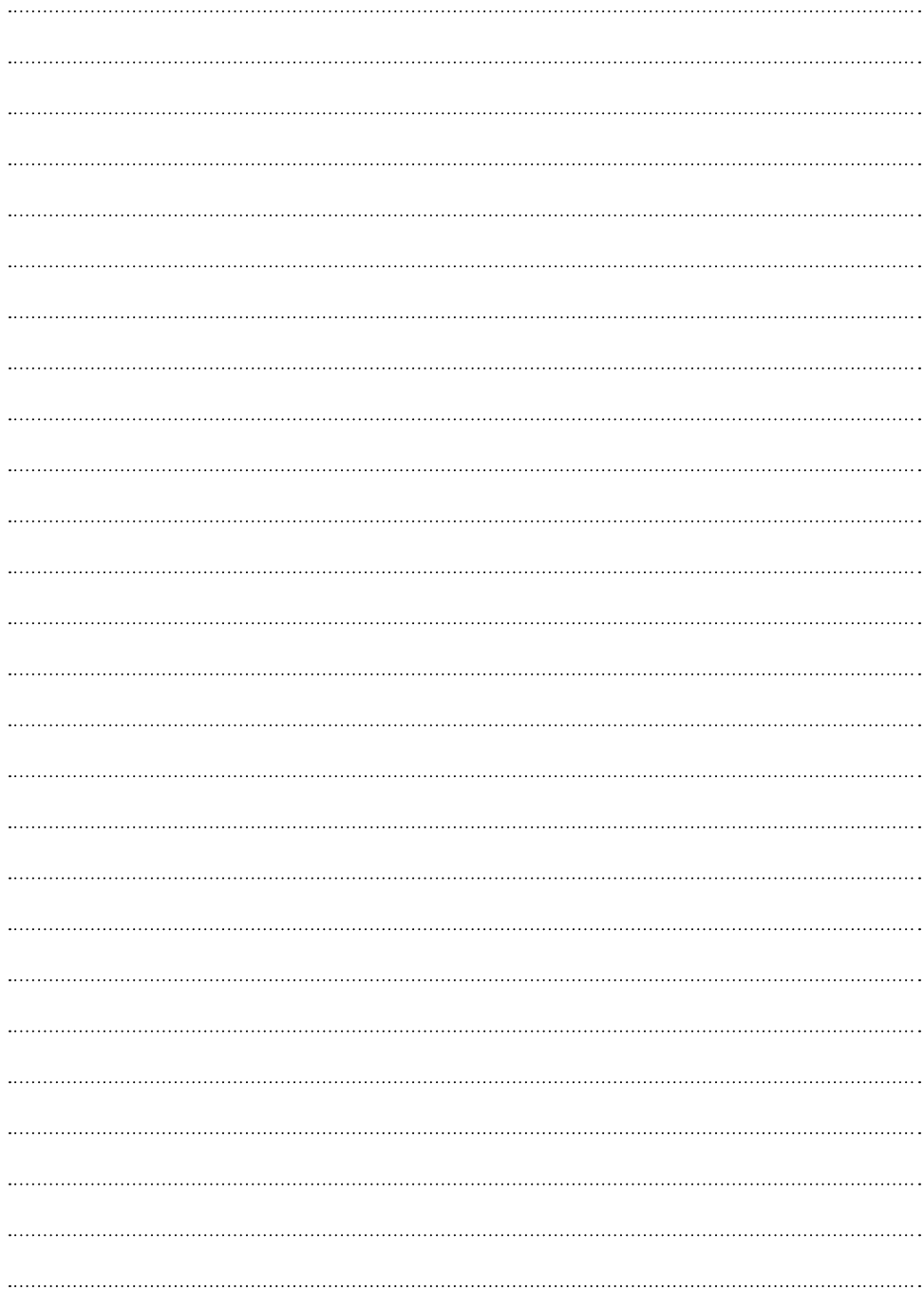
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23
24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26
27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28
29	(29)	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29
30		30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
31		31		31		31	31		31		31



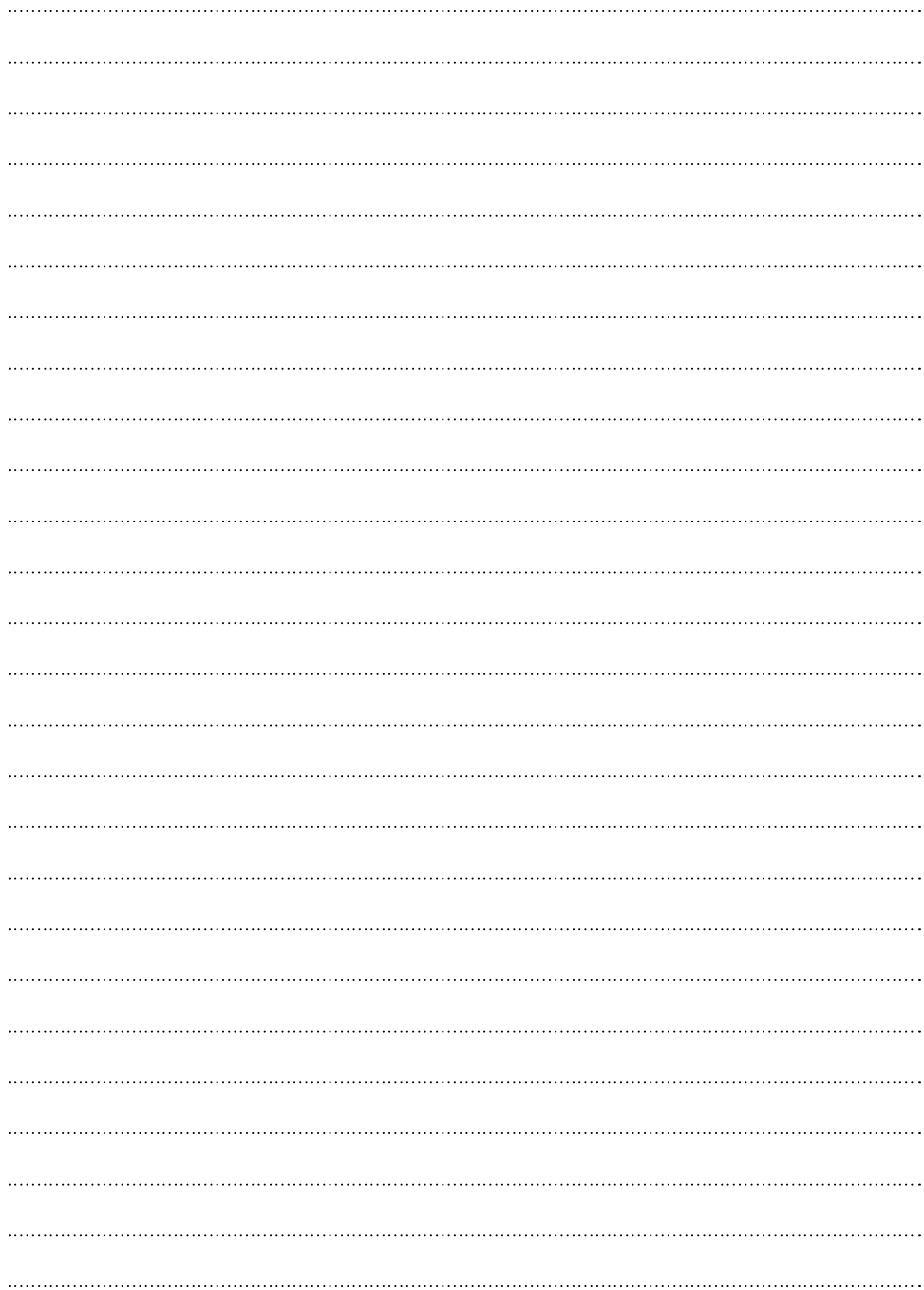


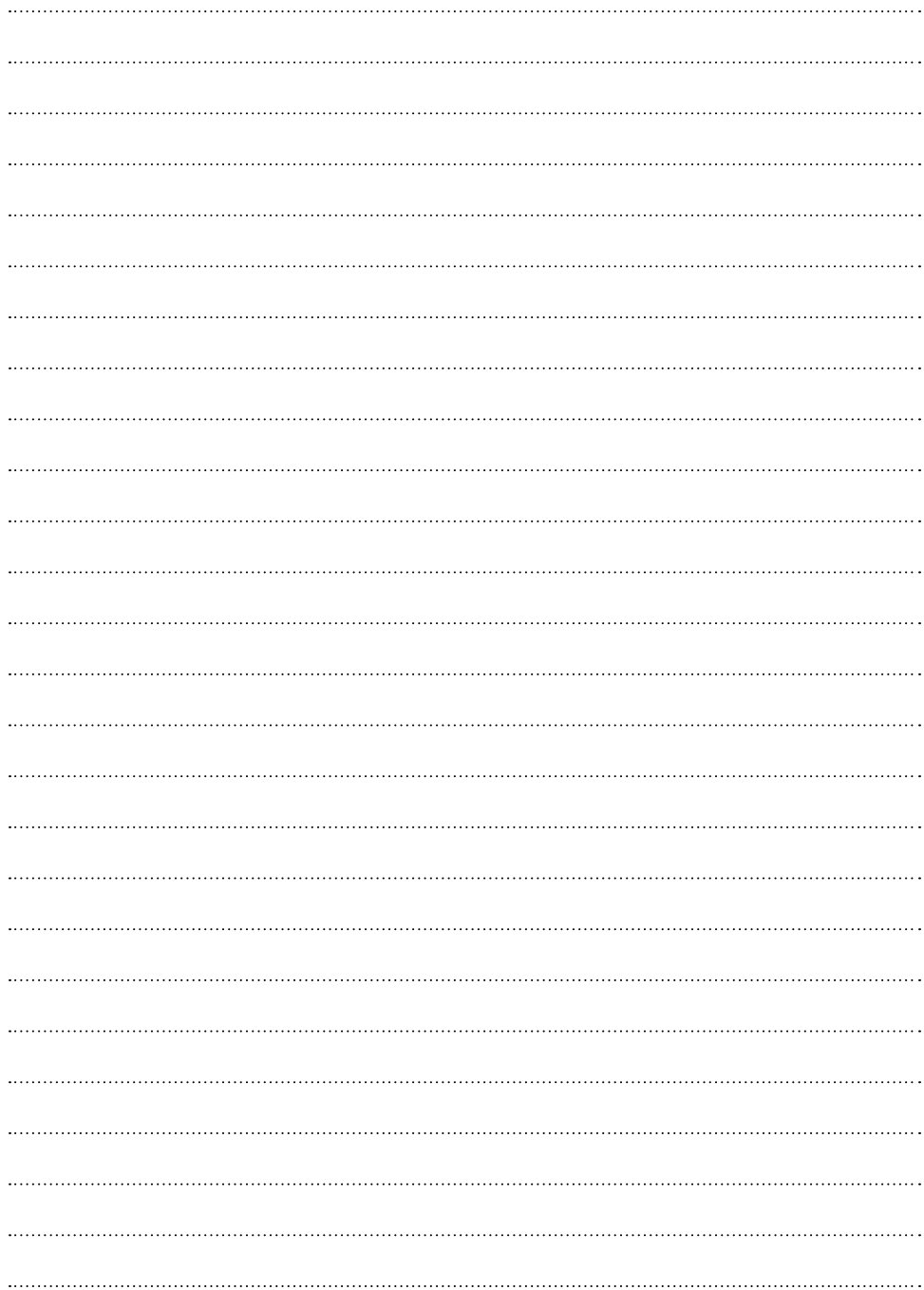


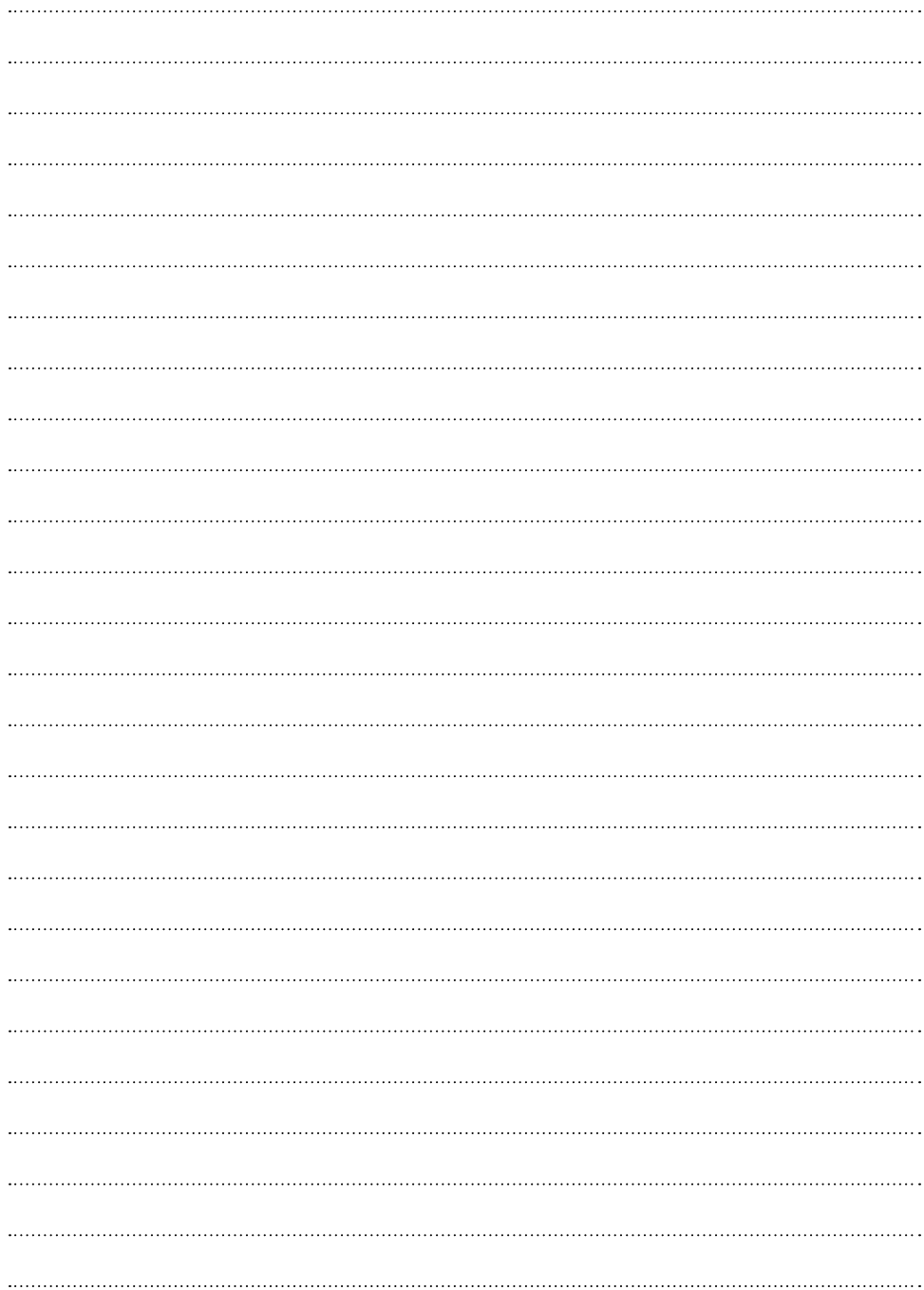


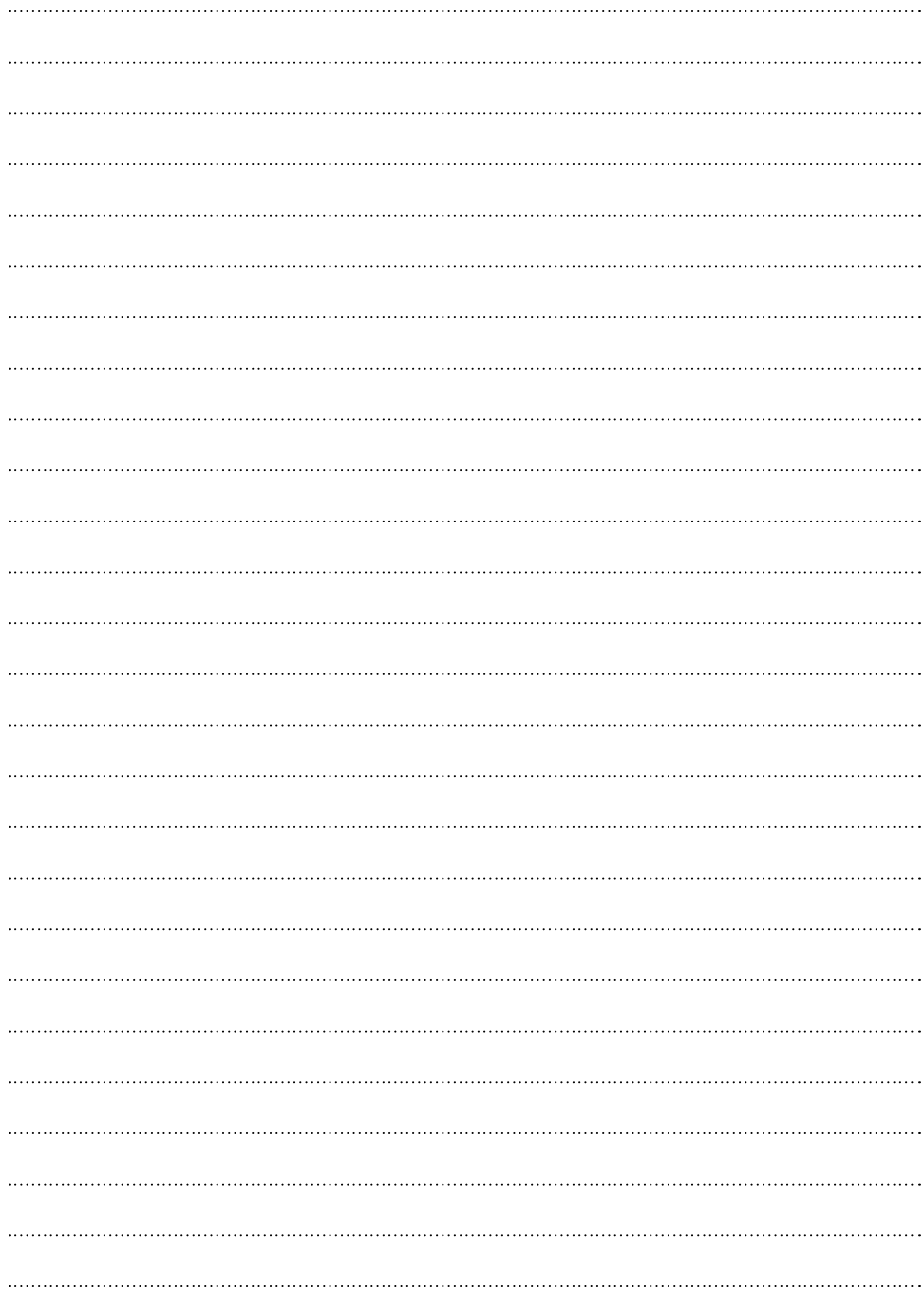


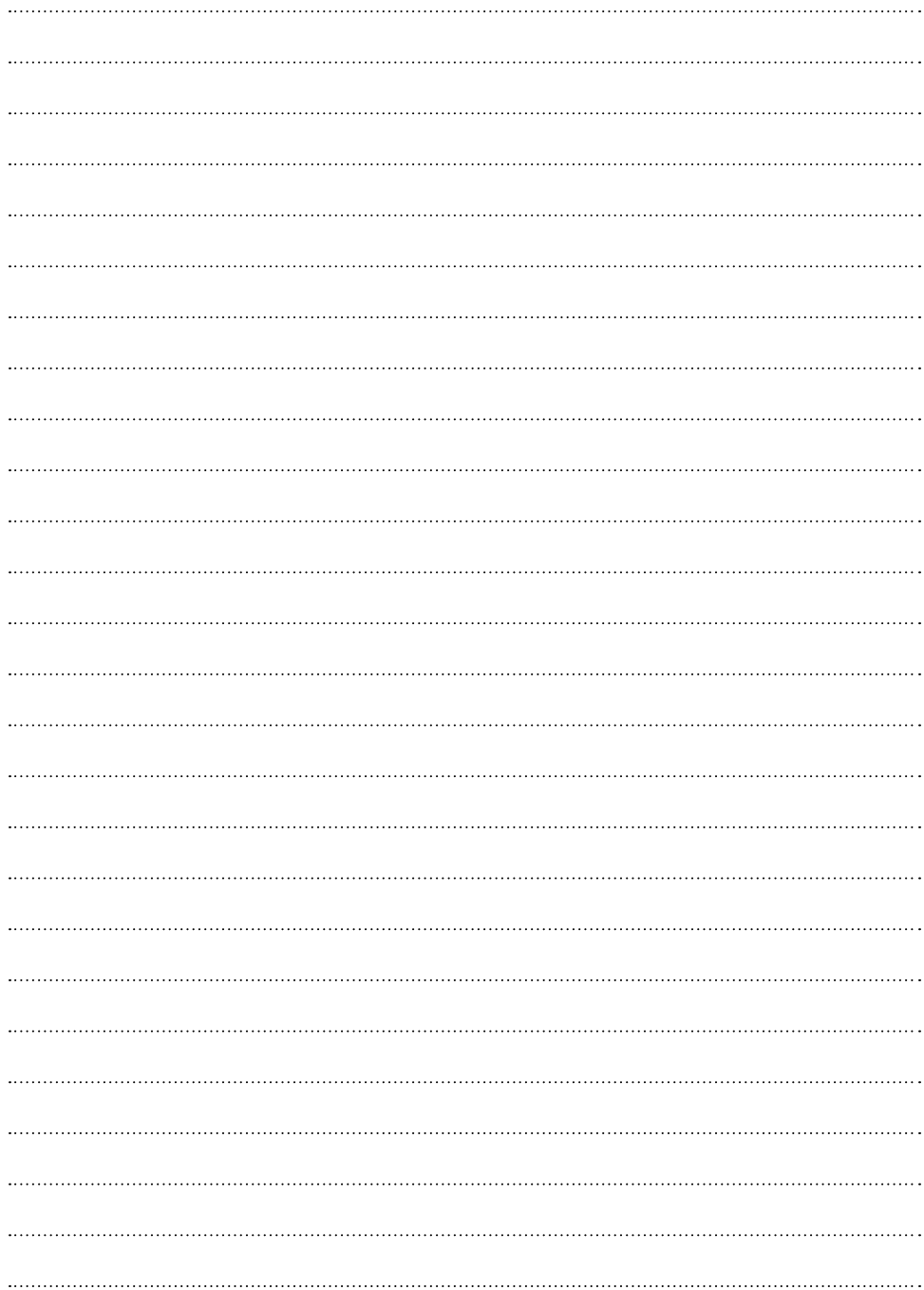


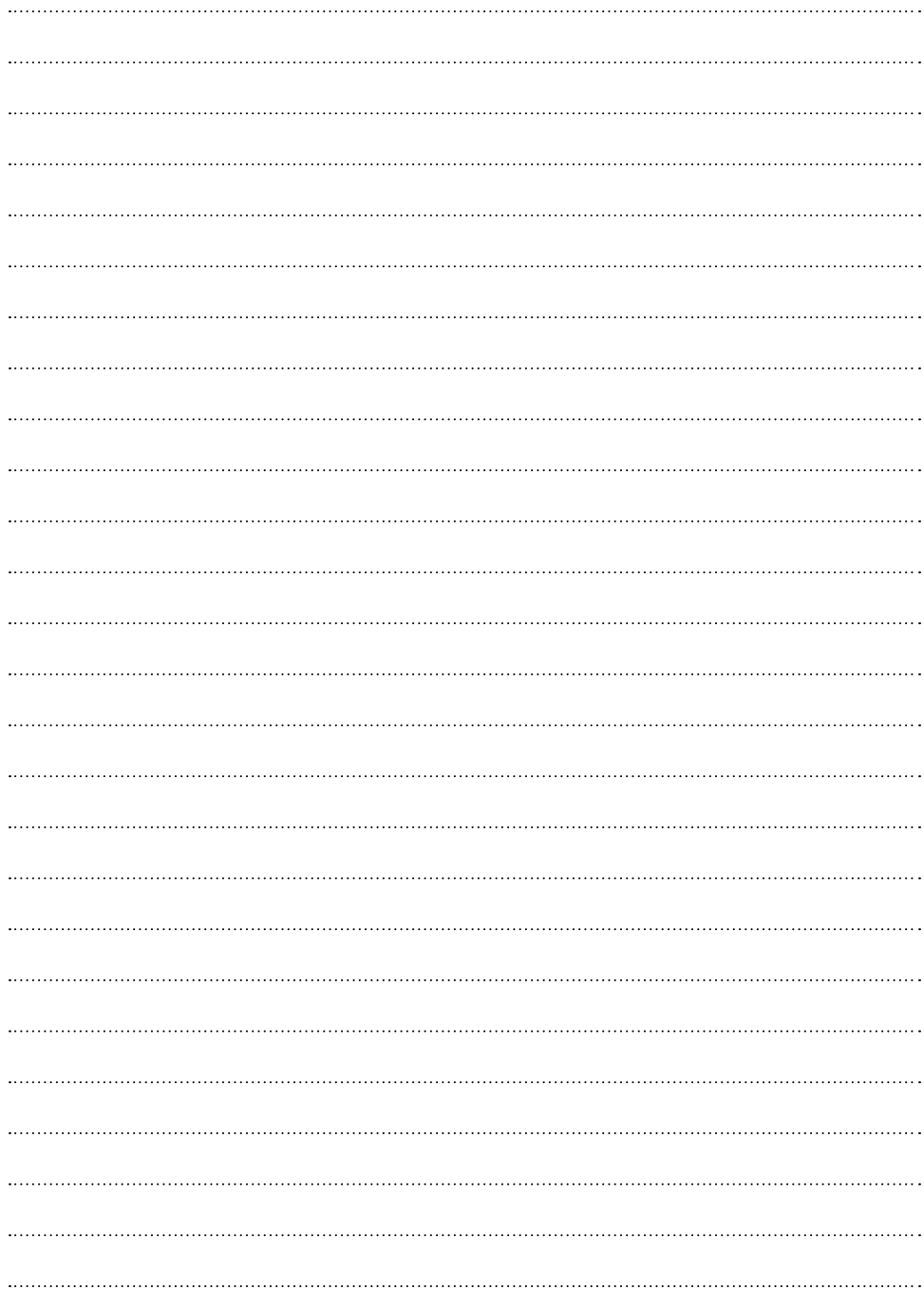


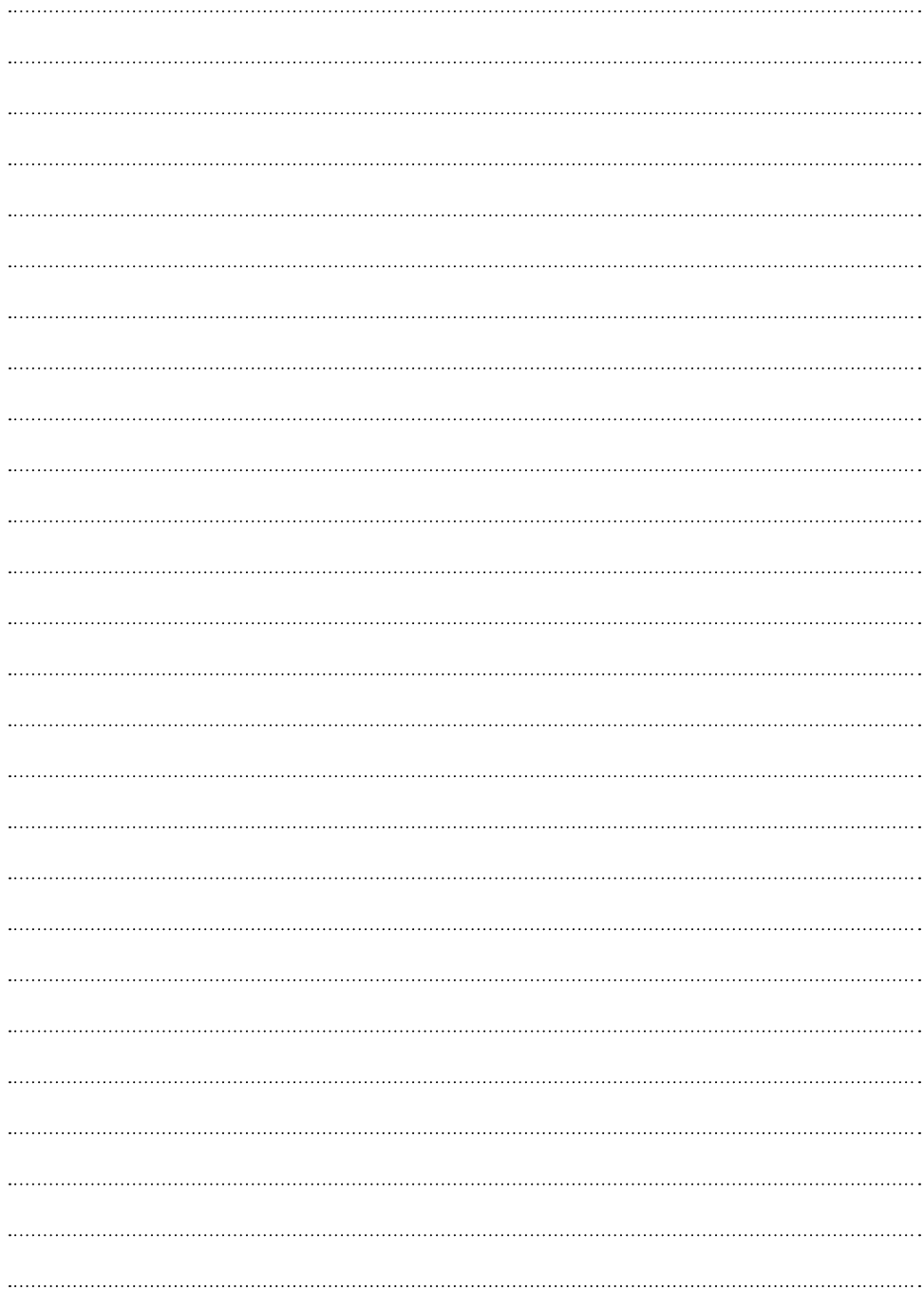




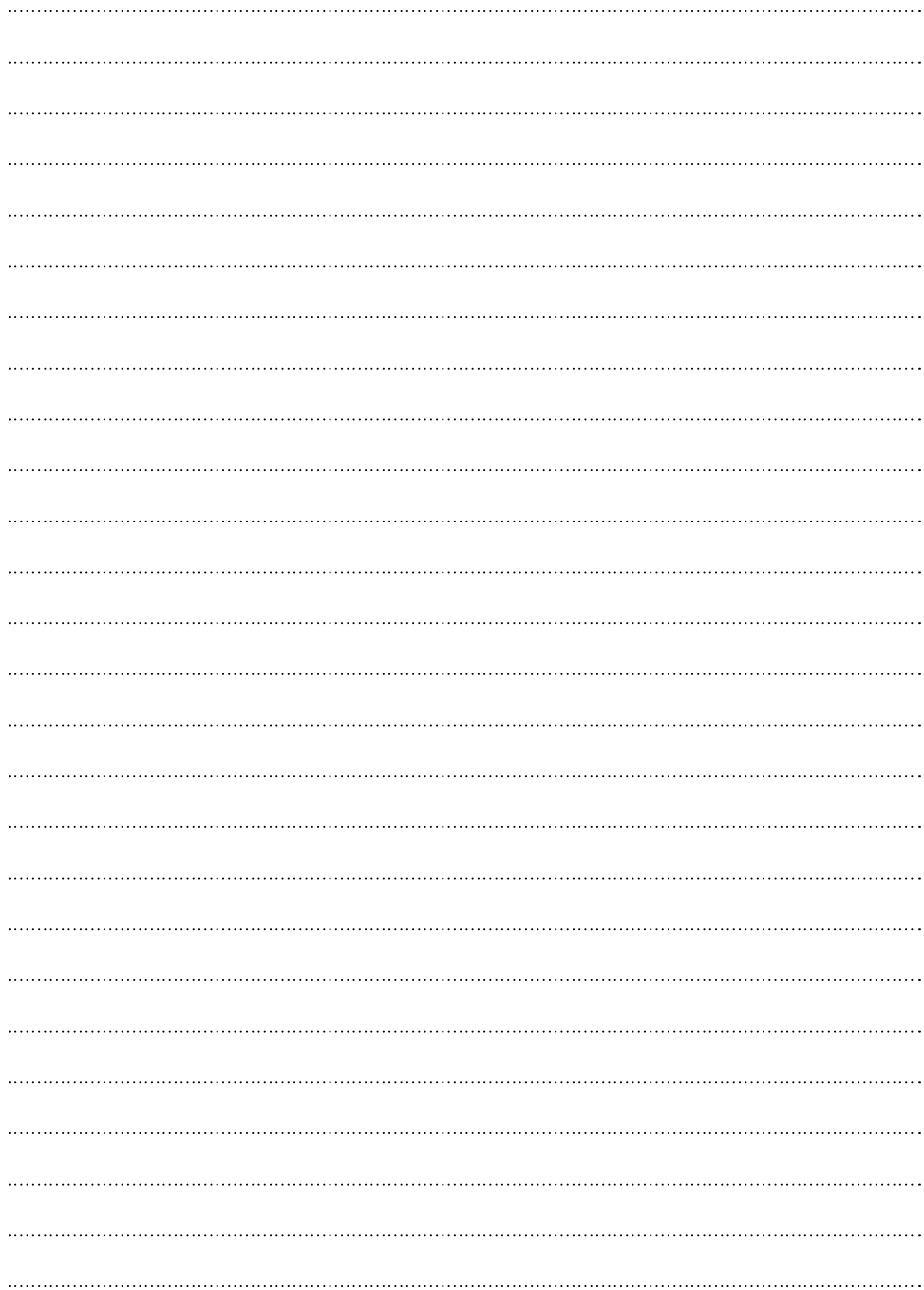


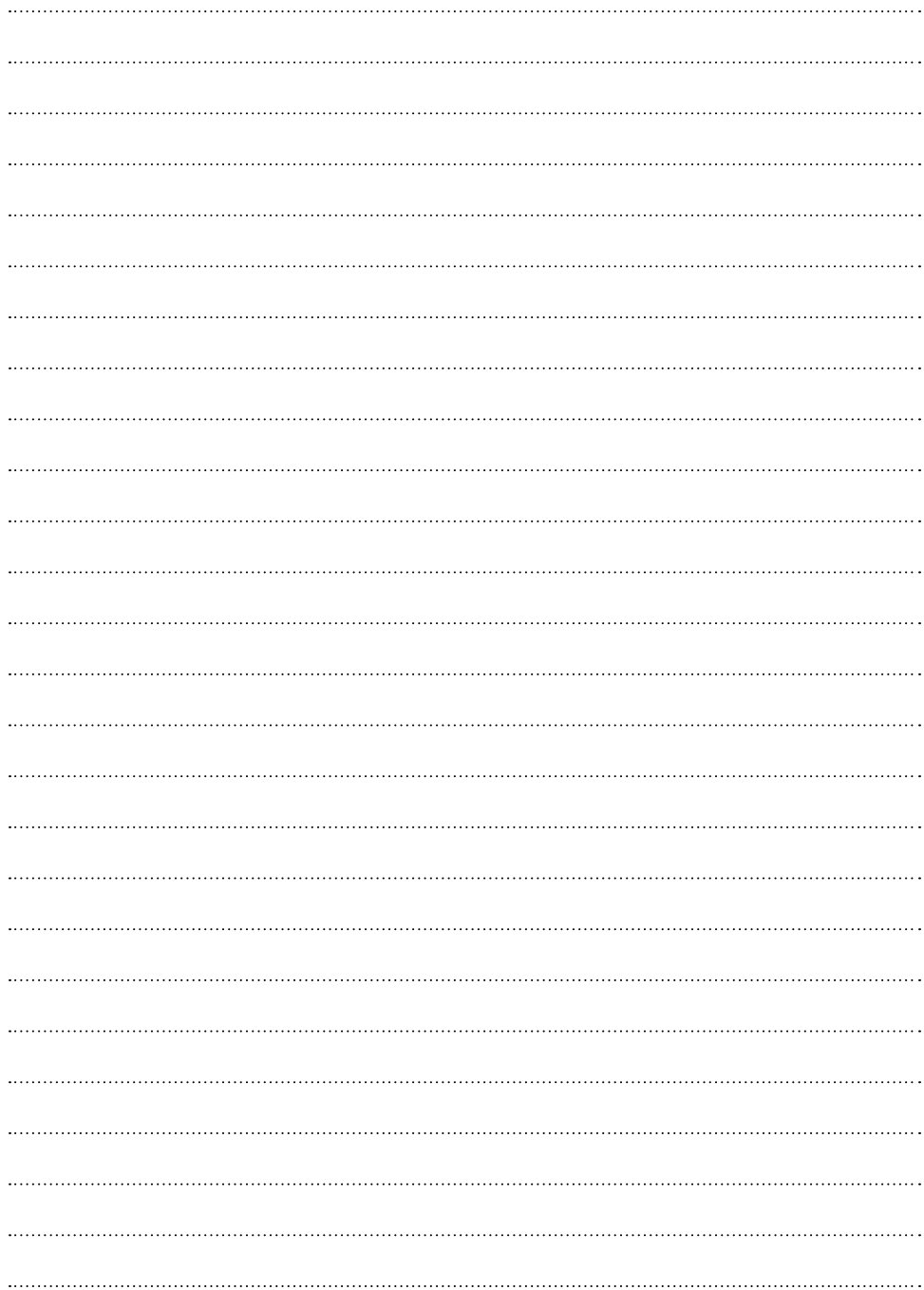


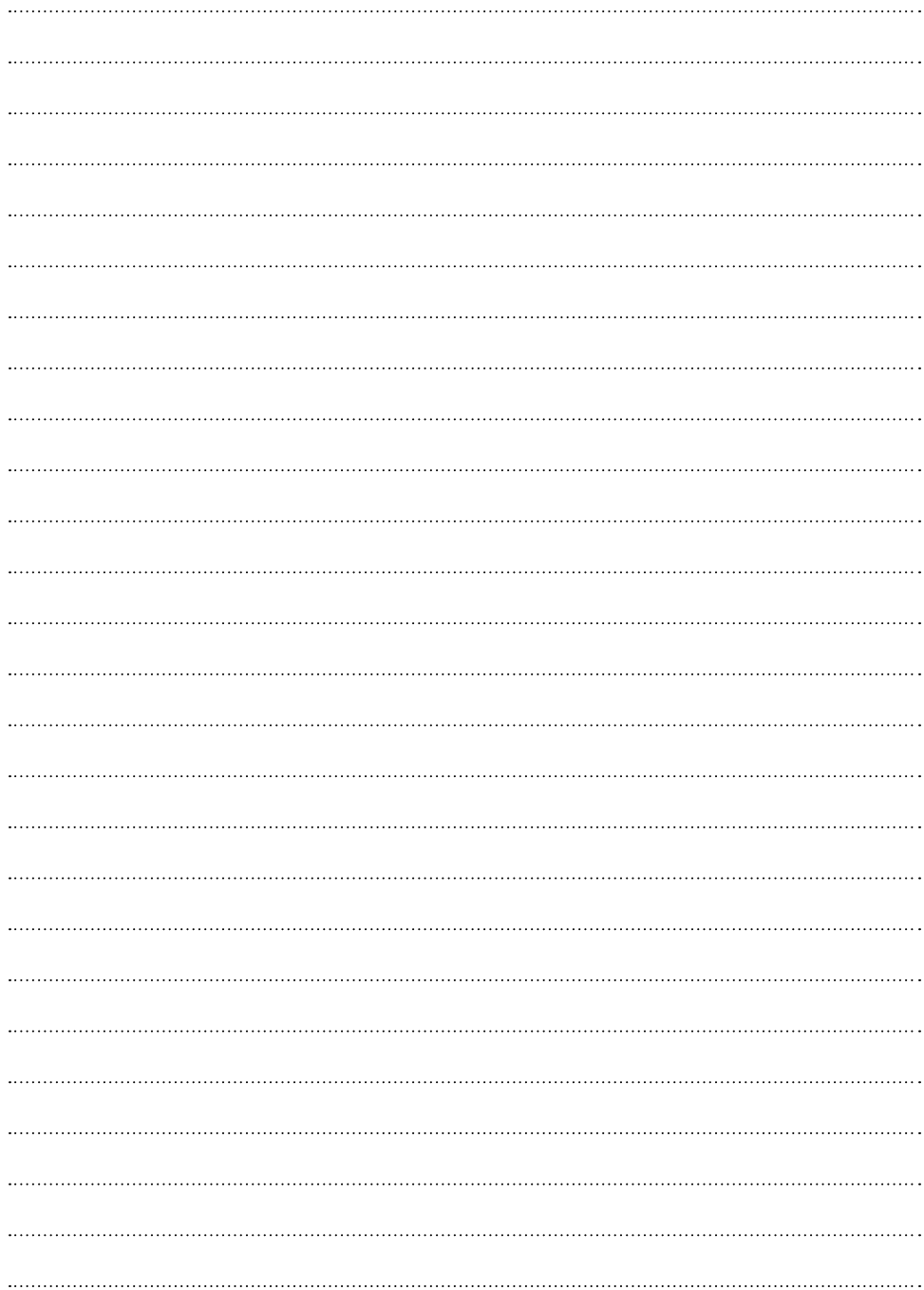


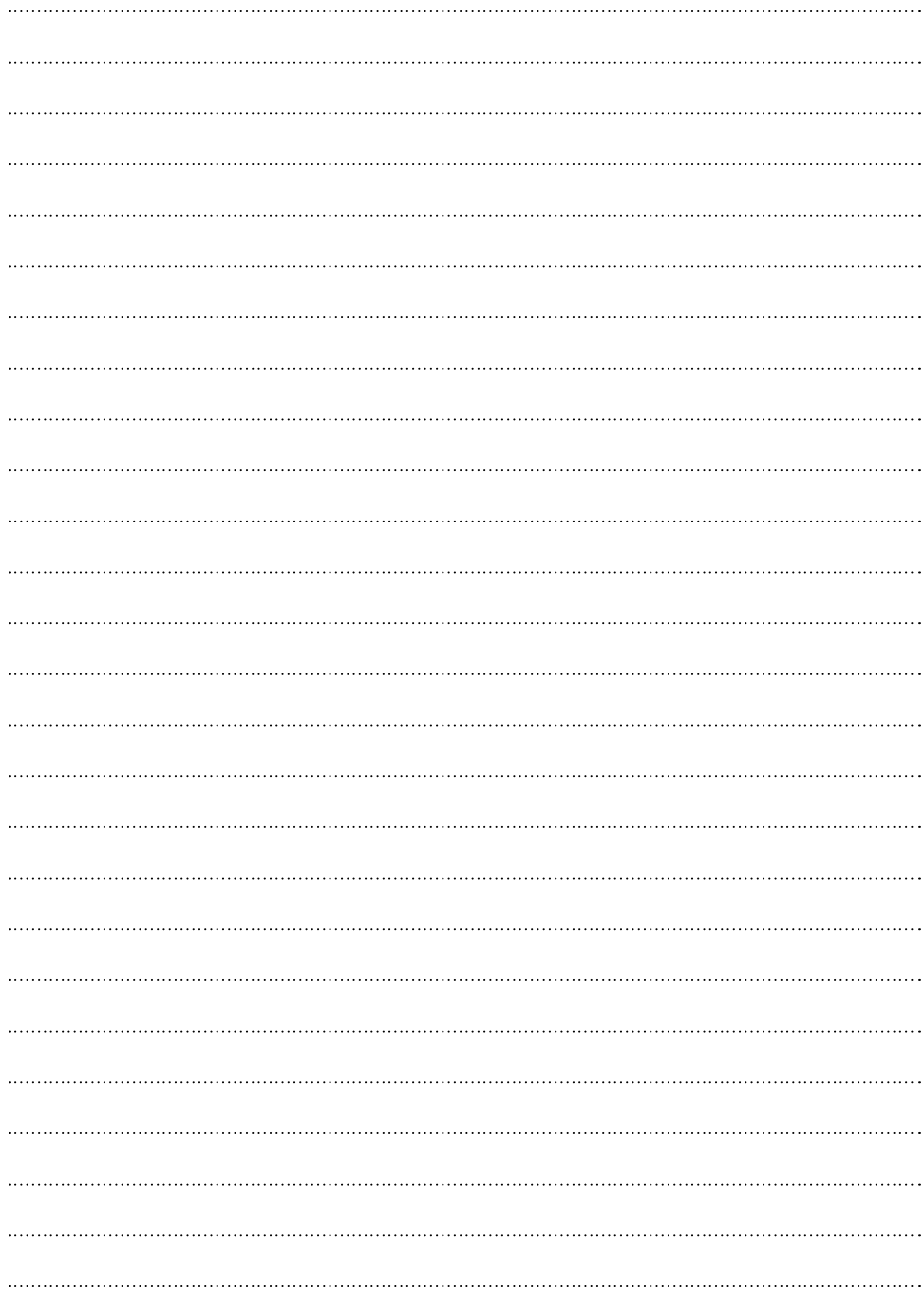


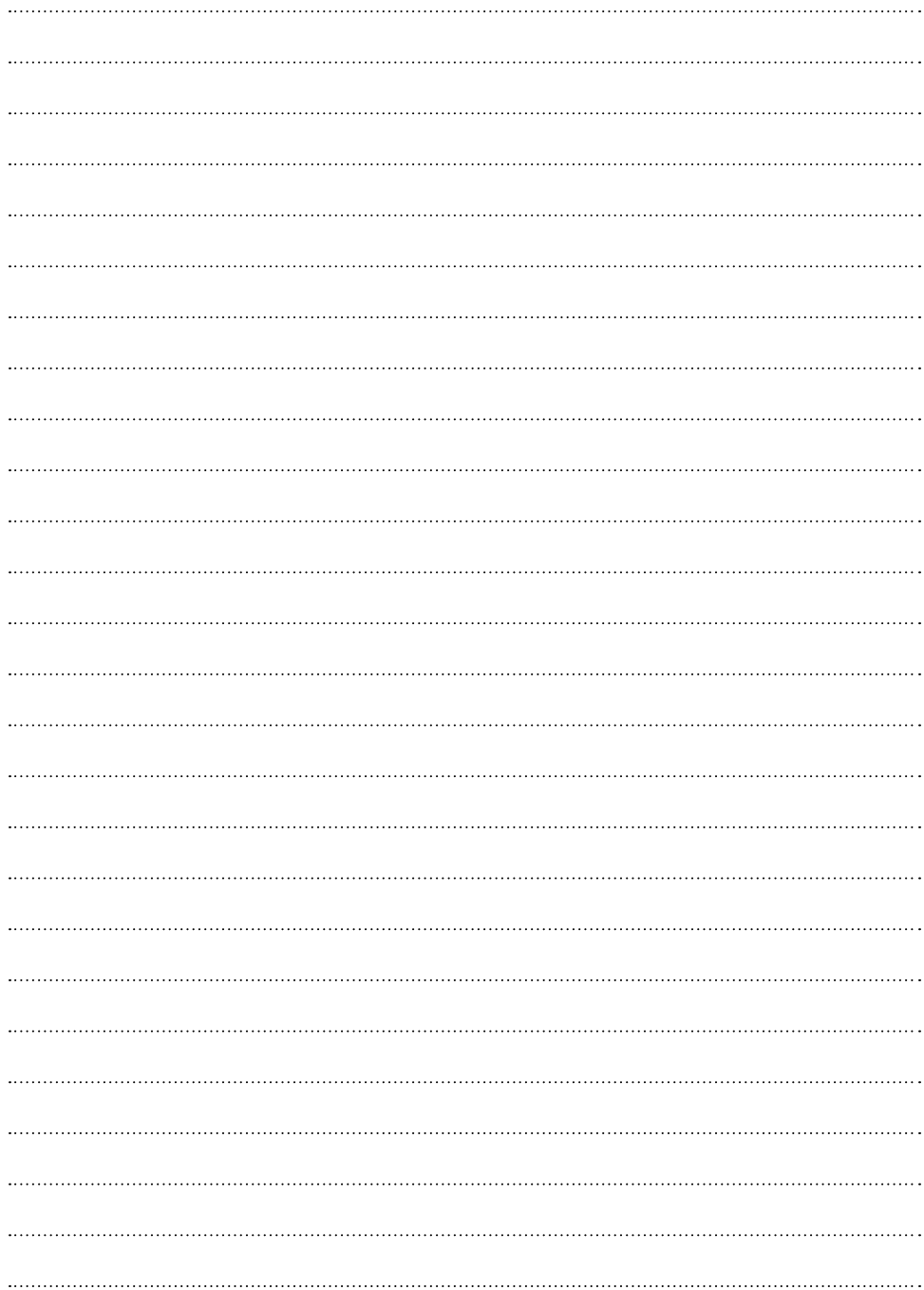


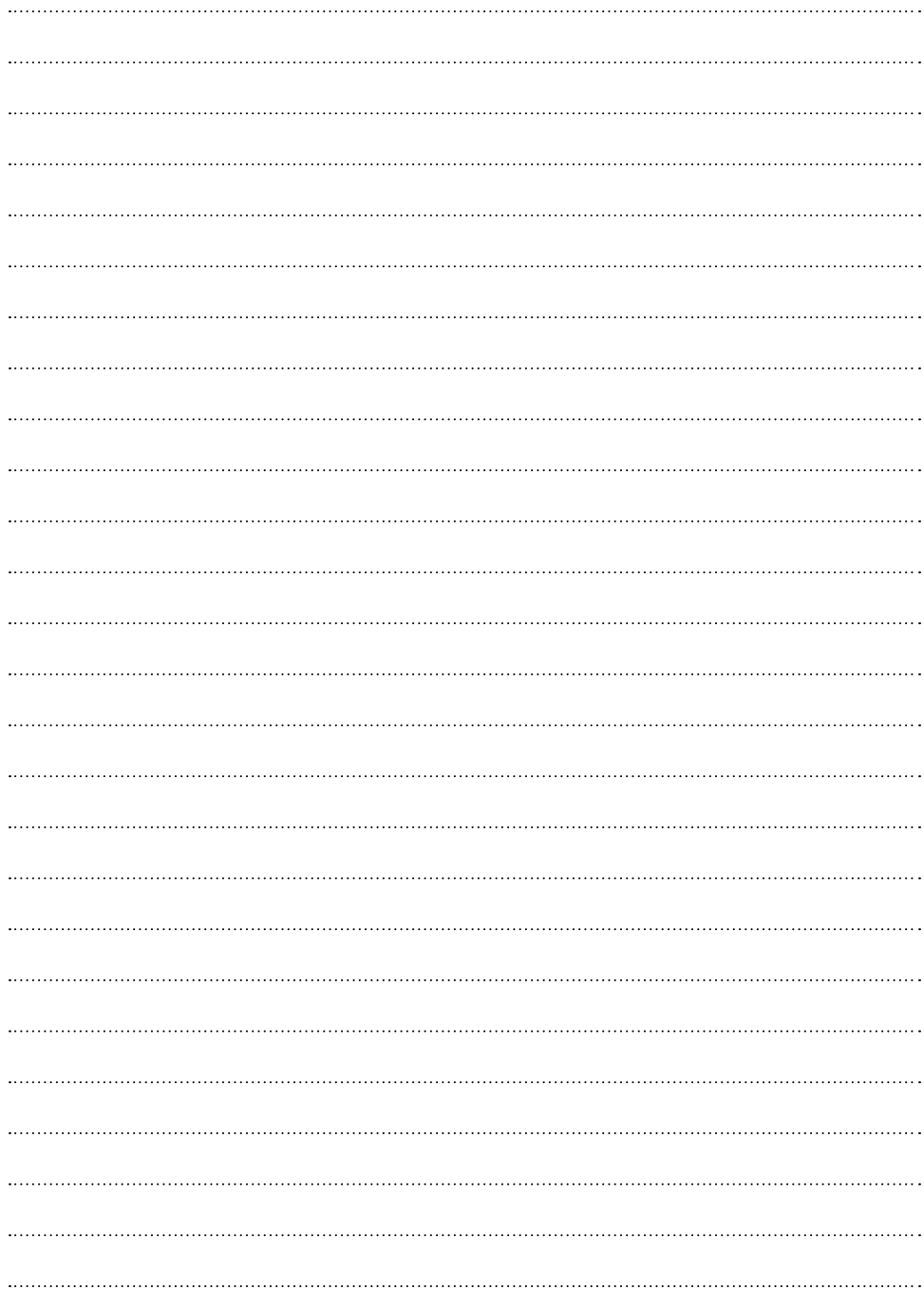


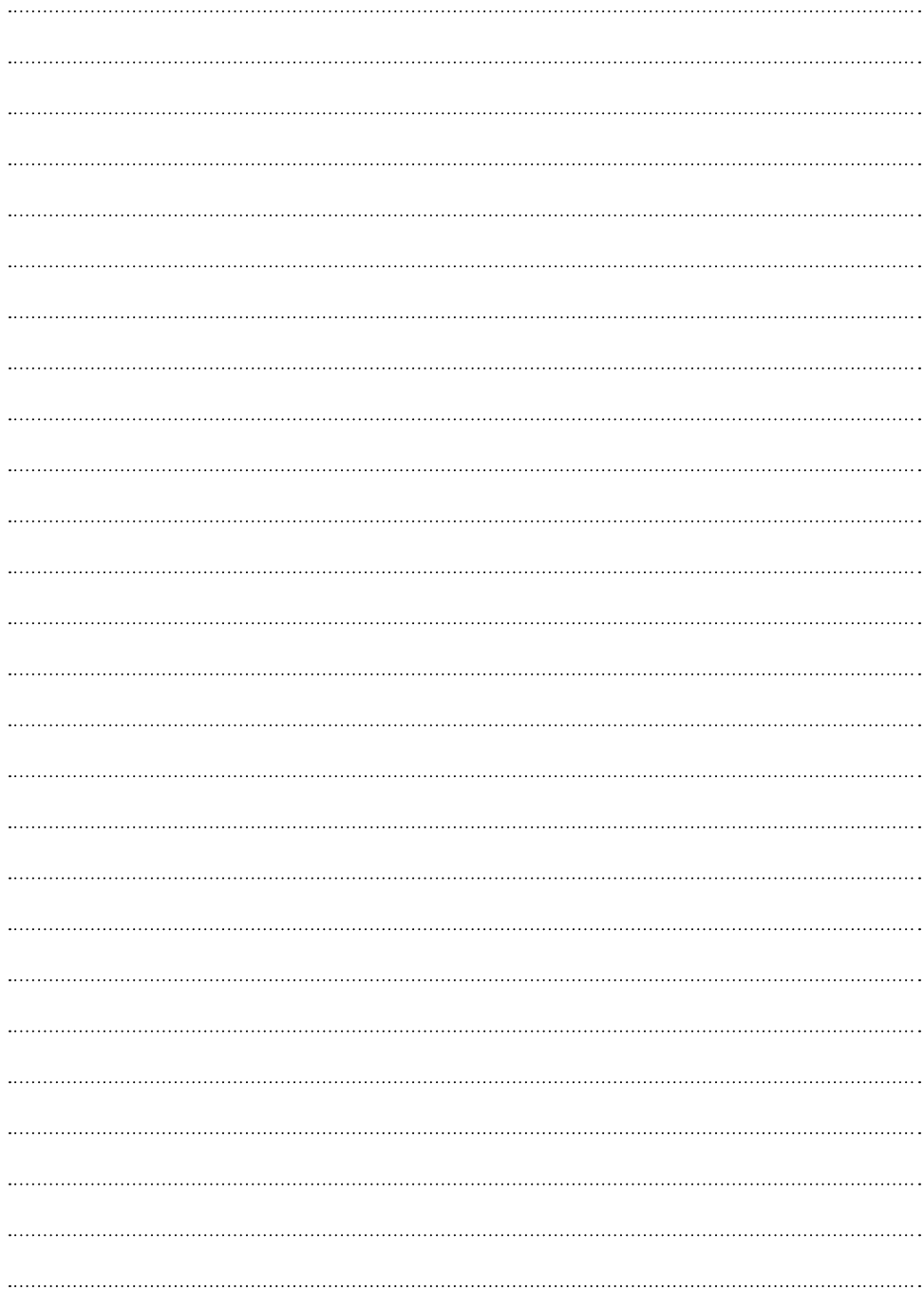




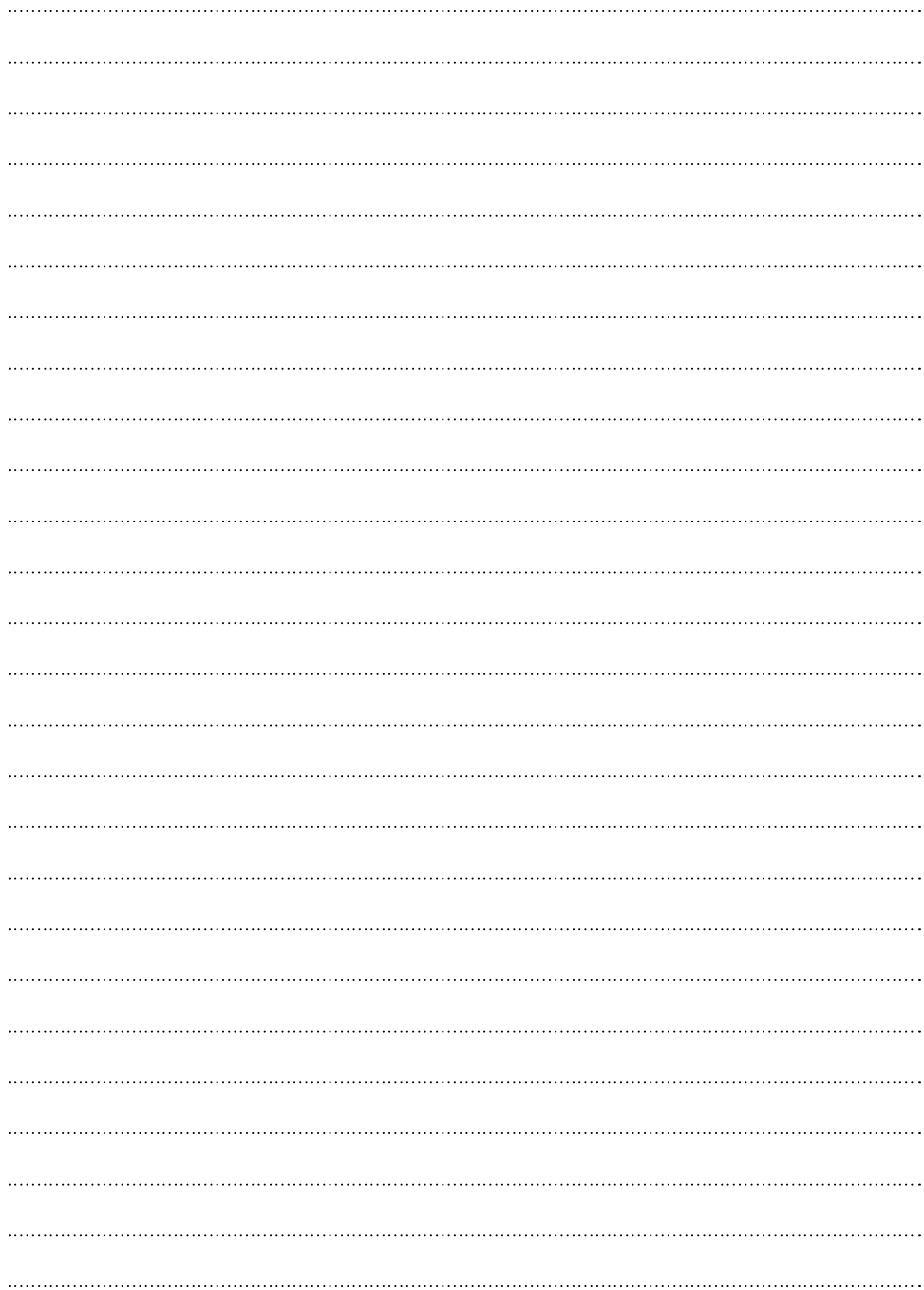


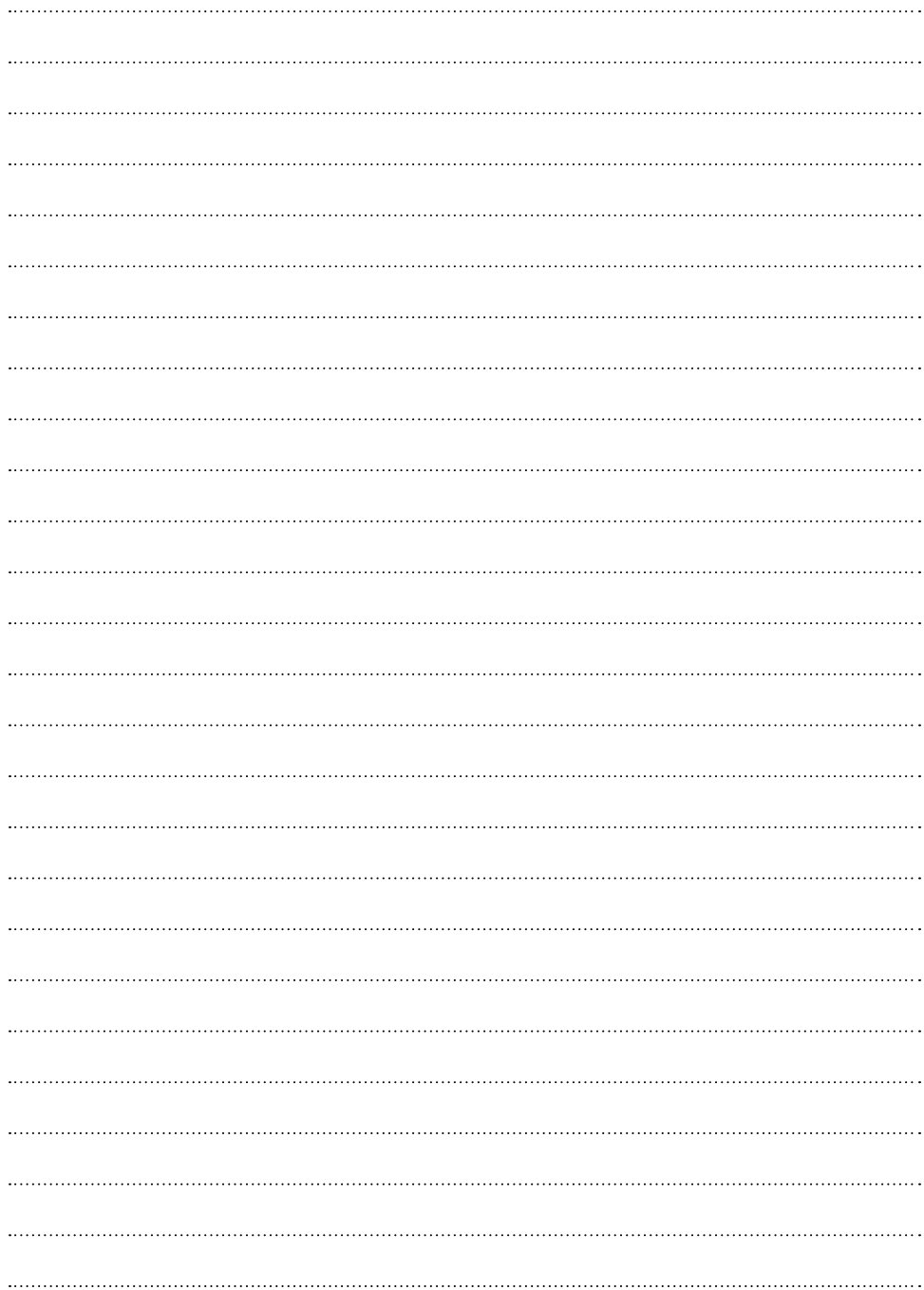


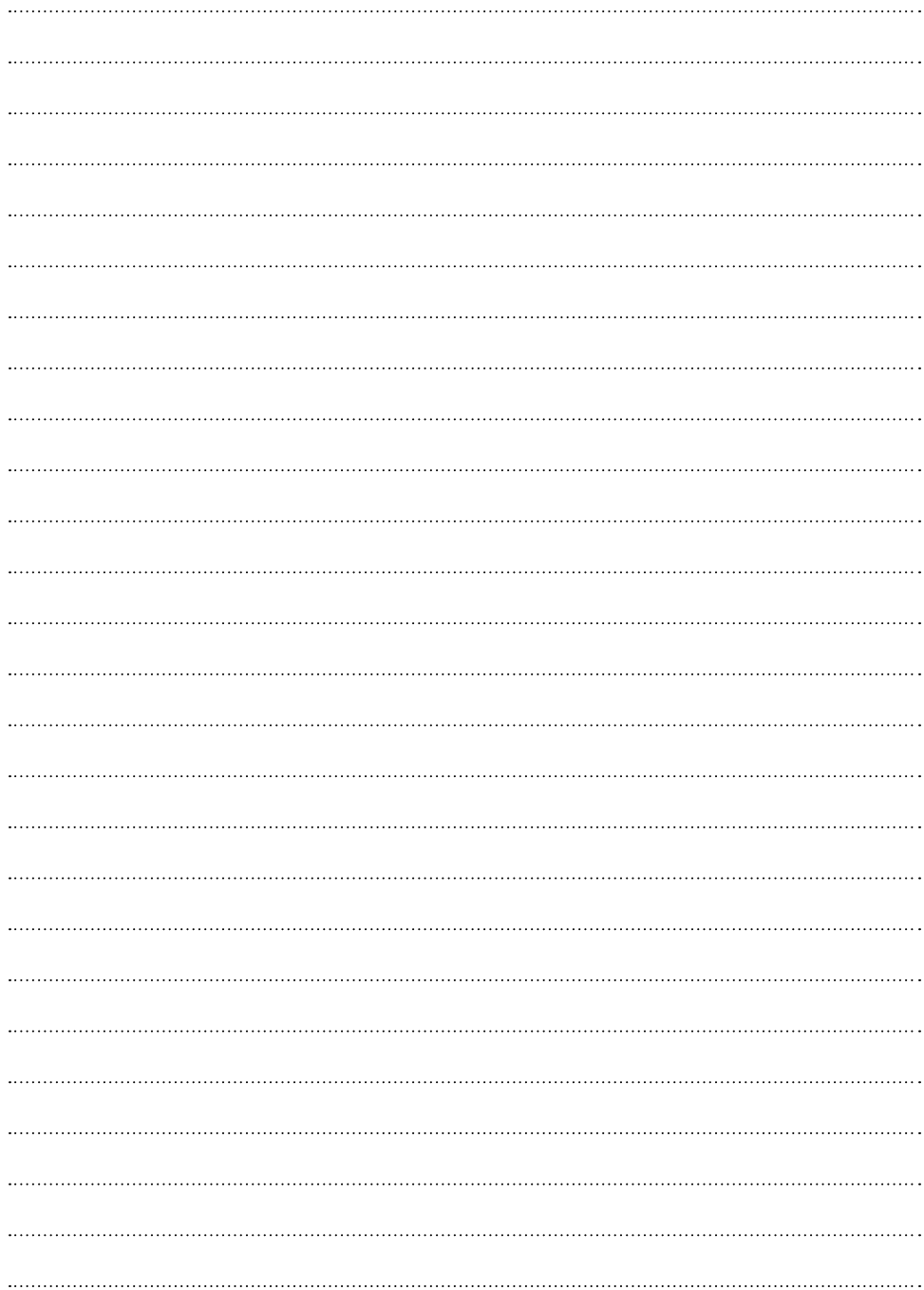


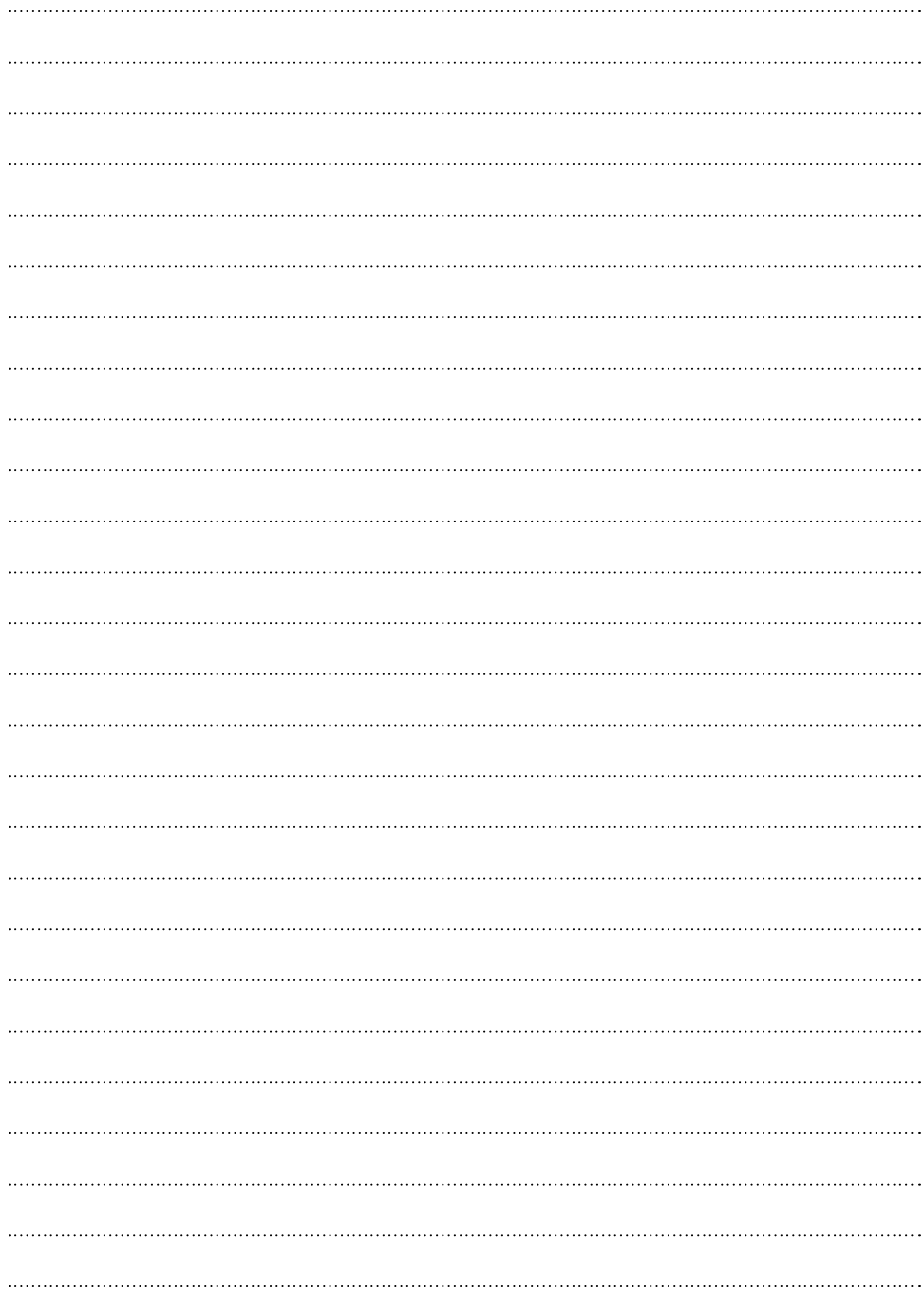


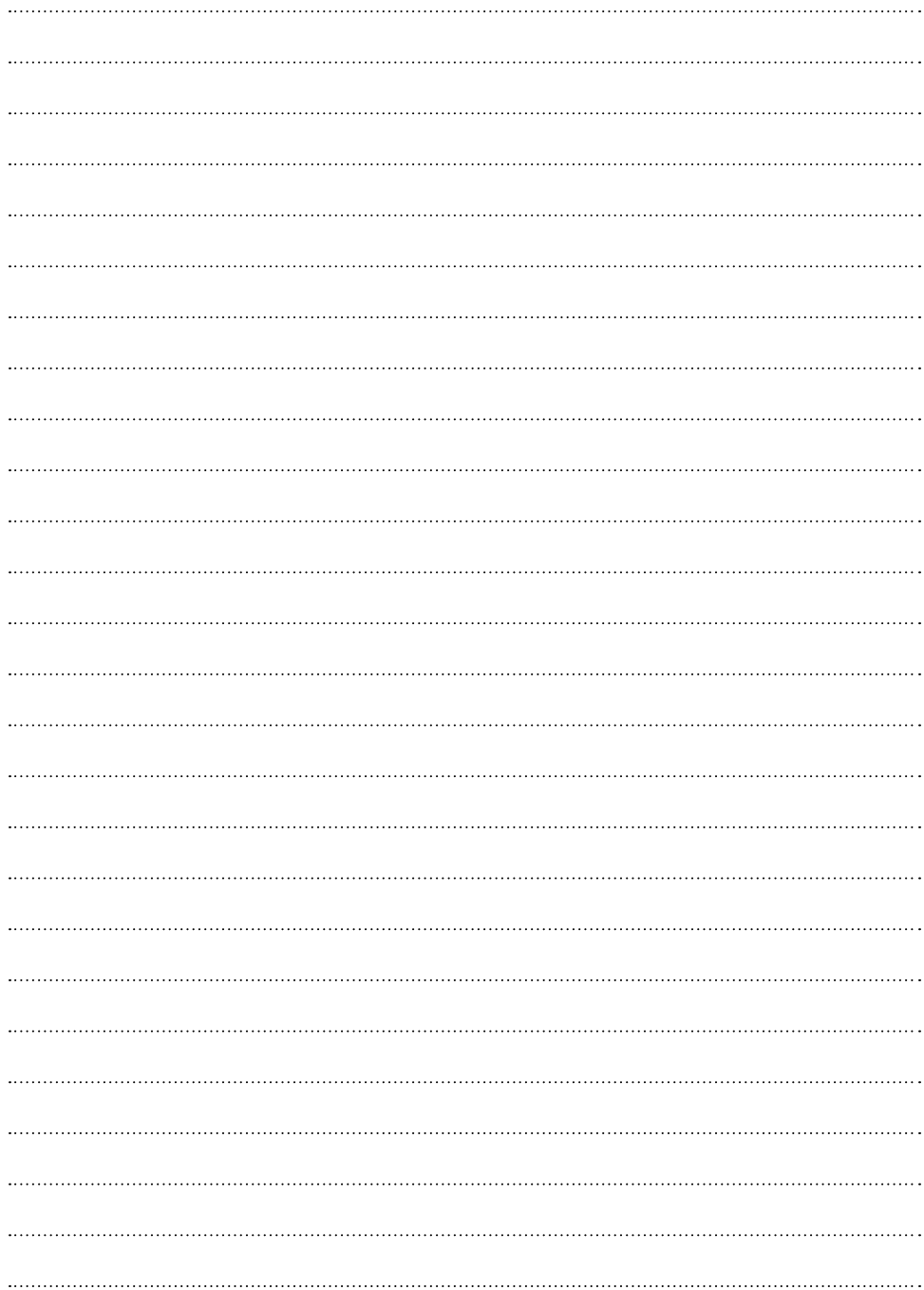


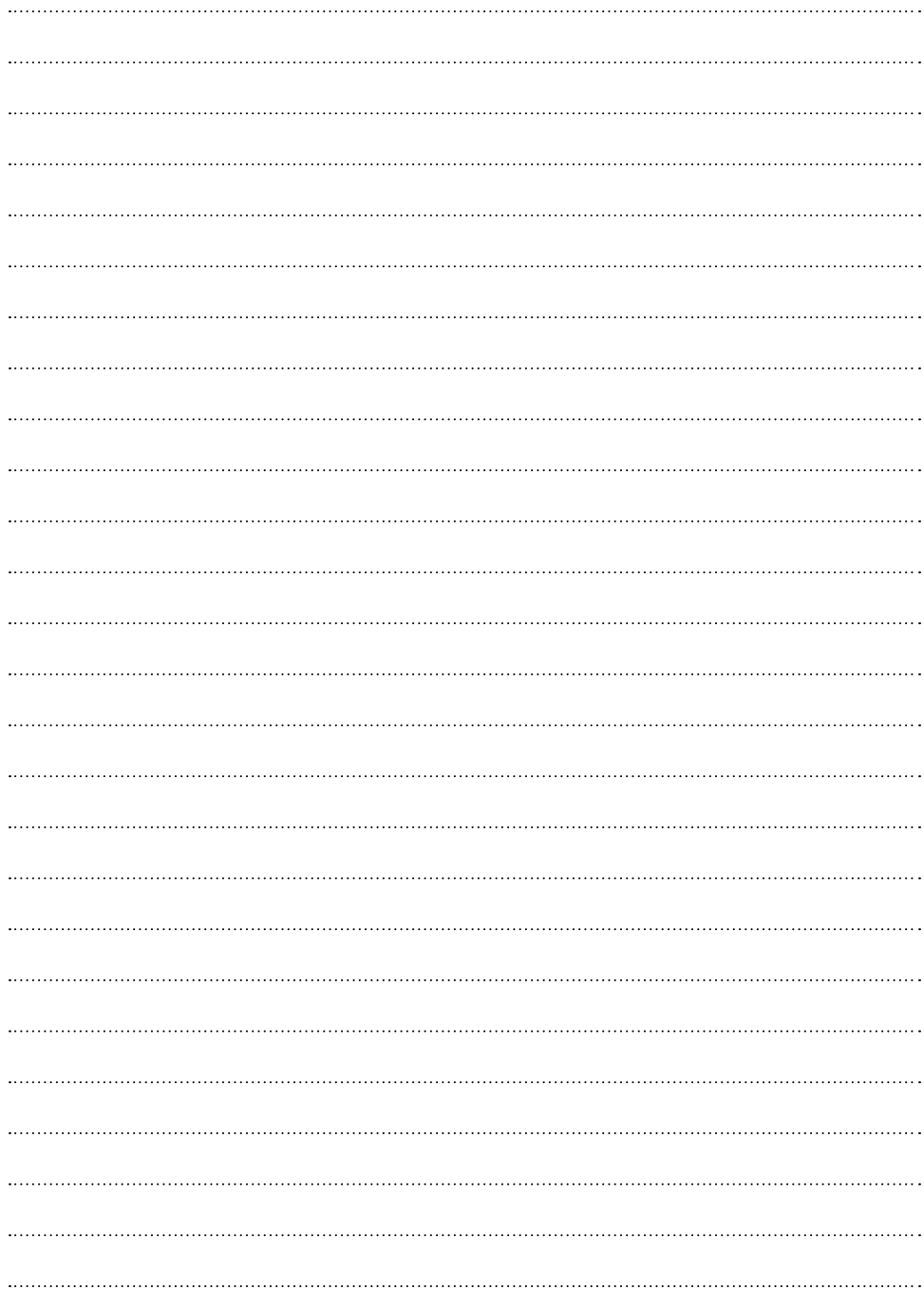


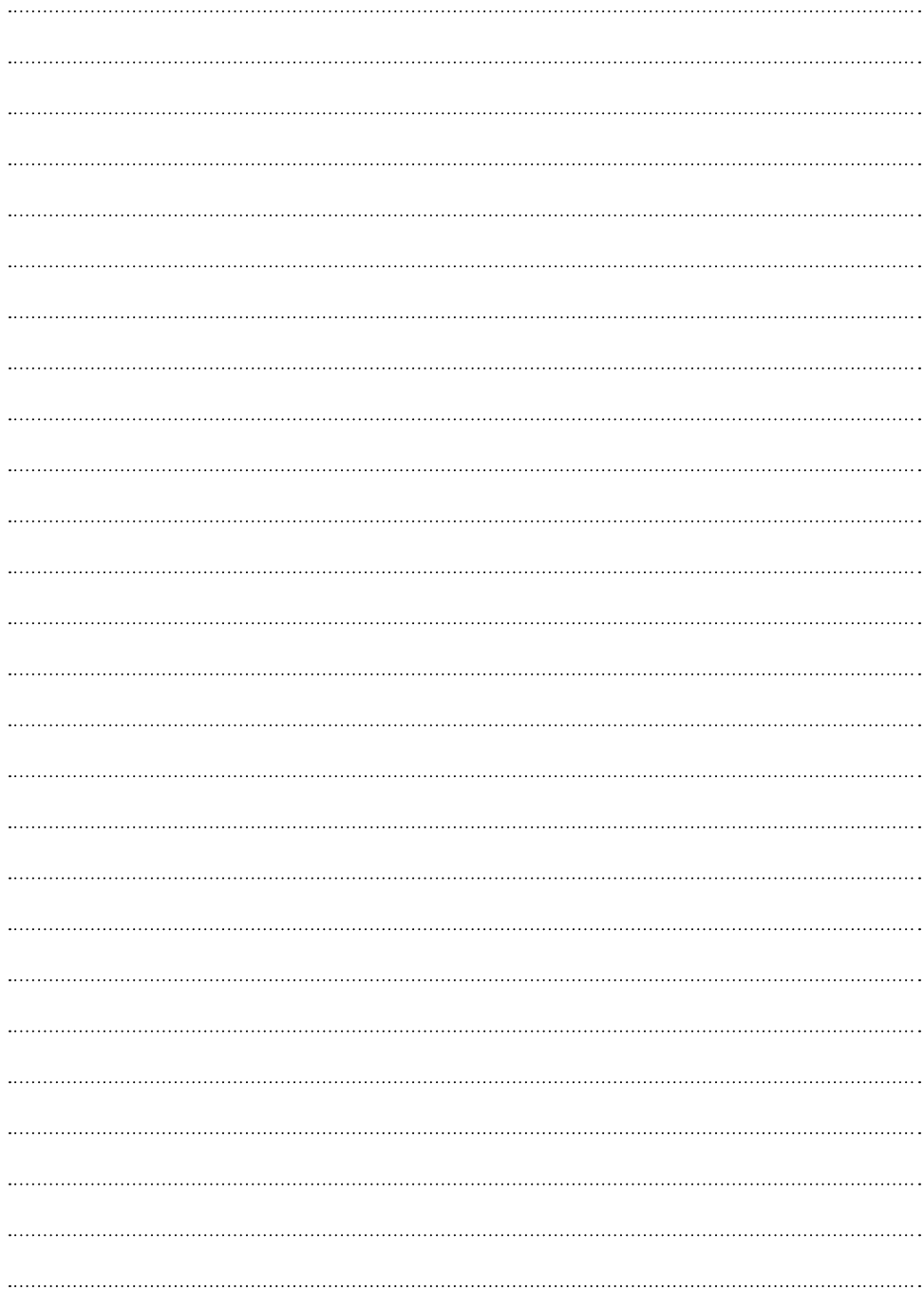




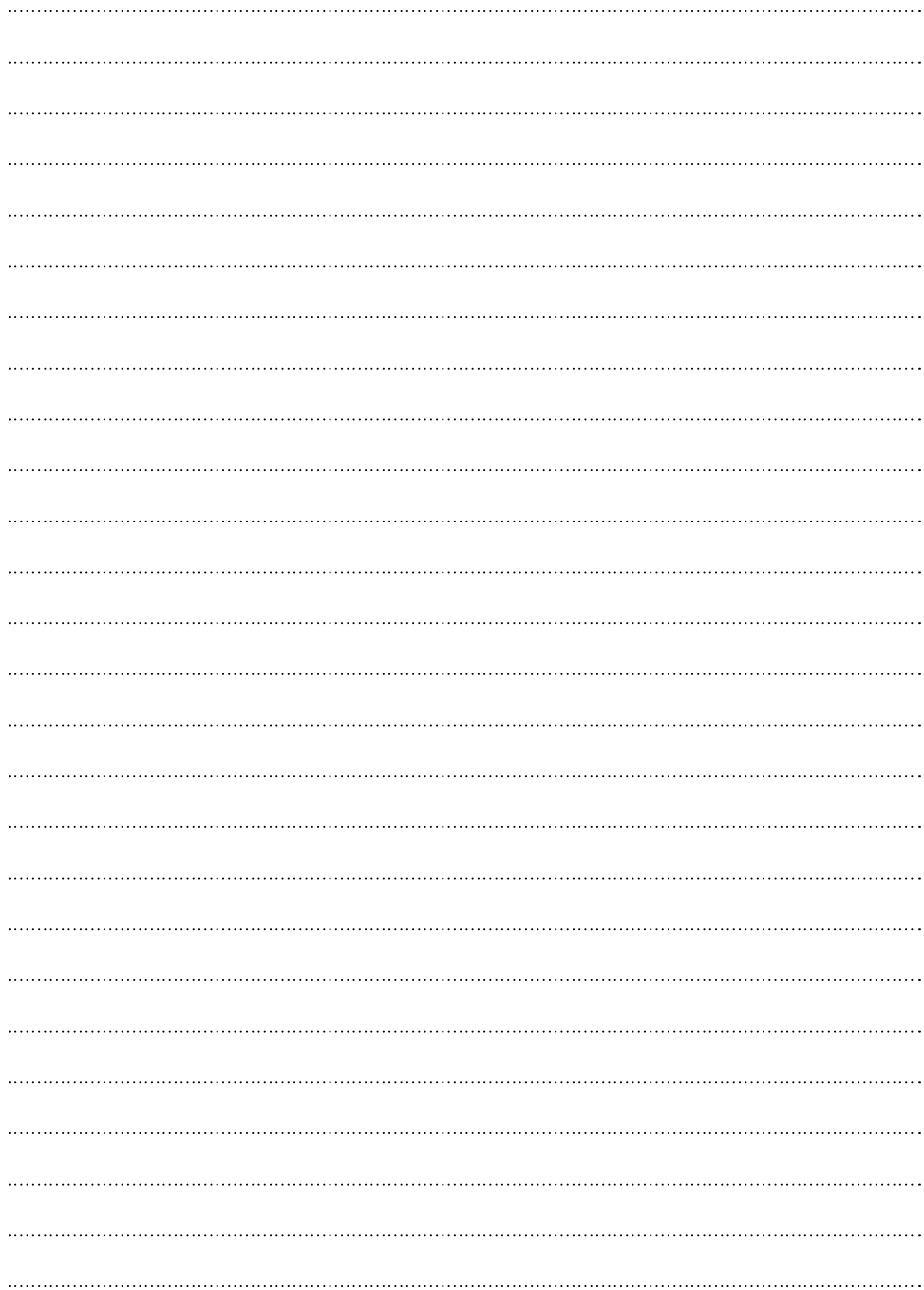


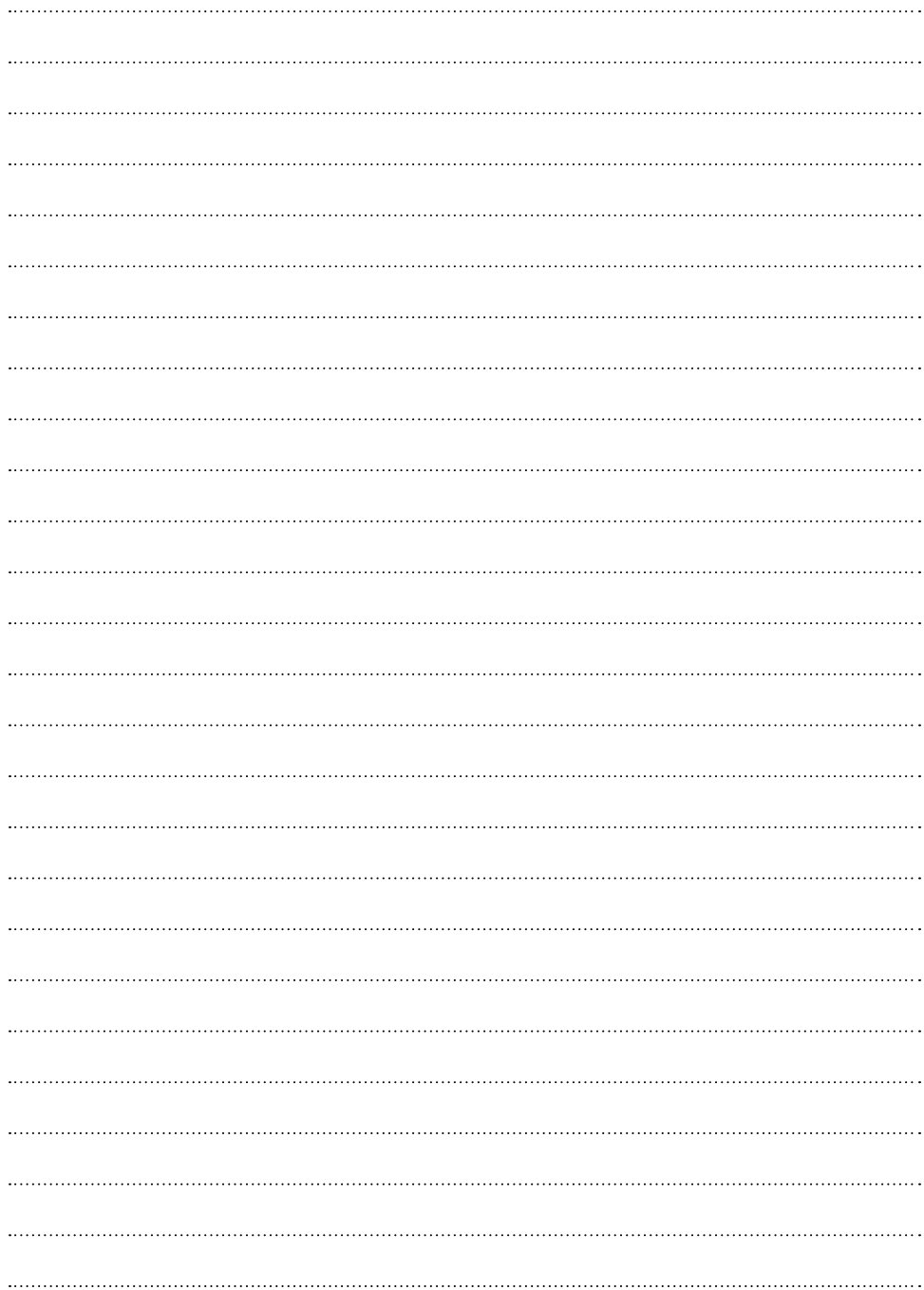


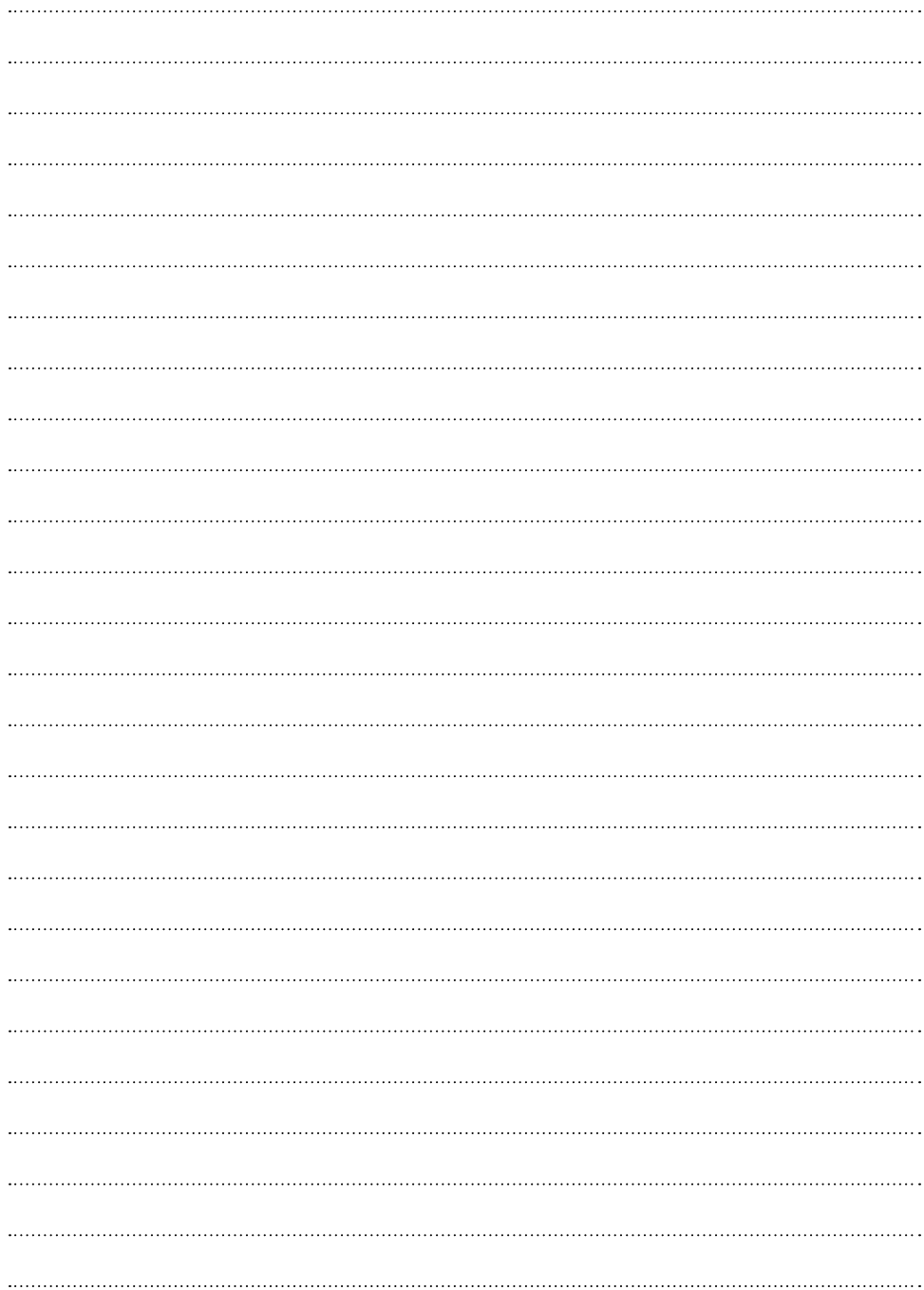


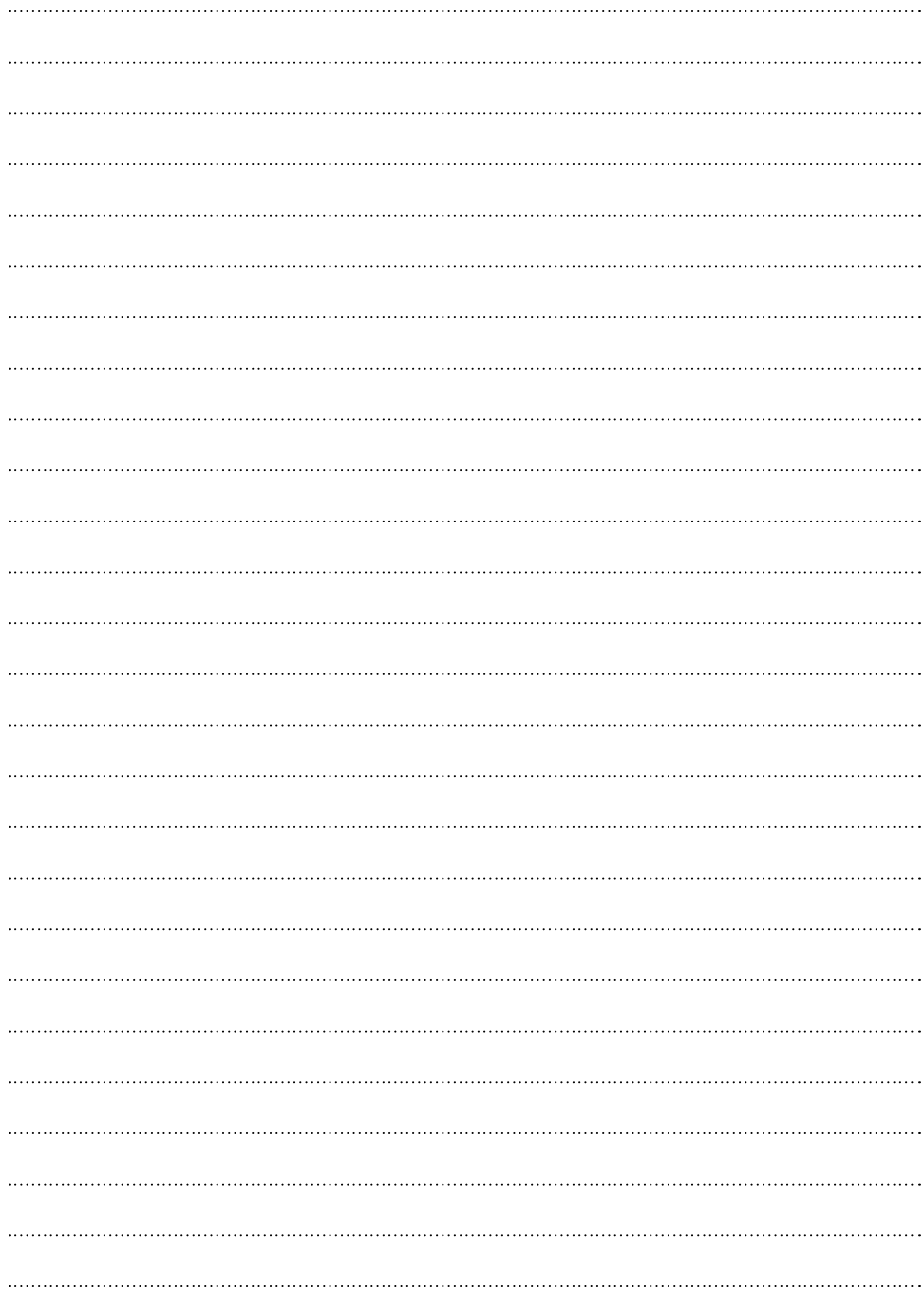


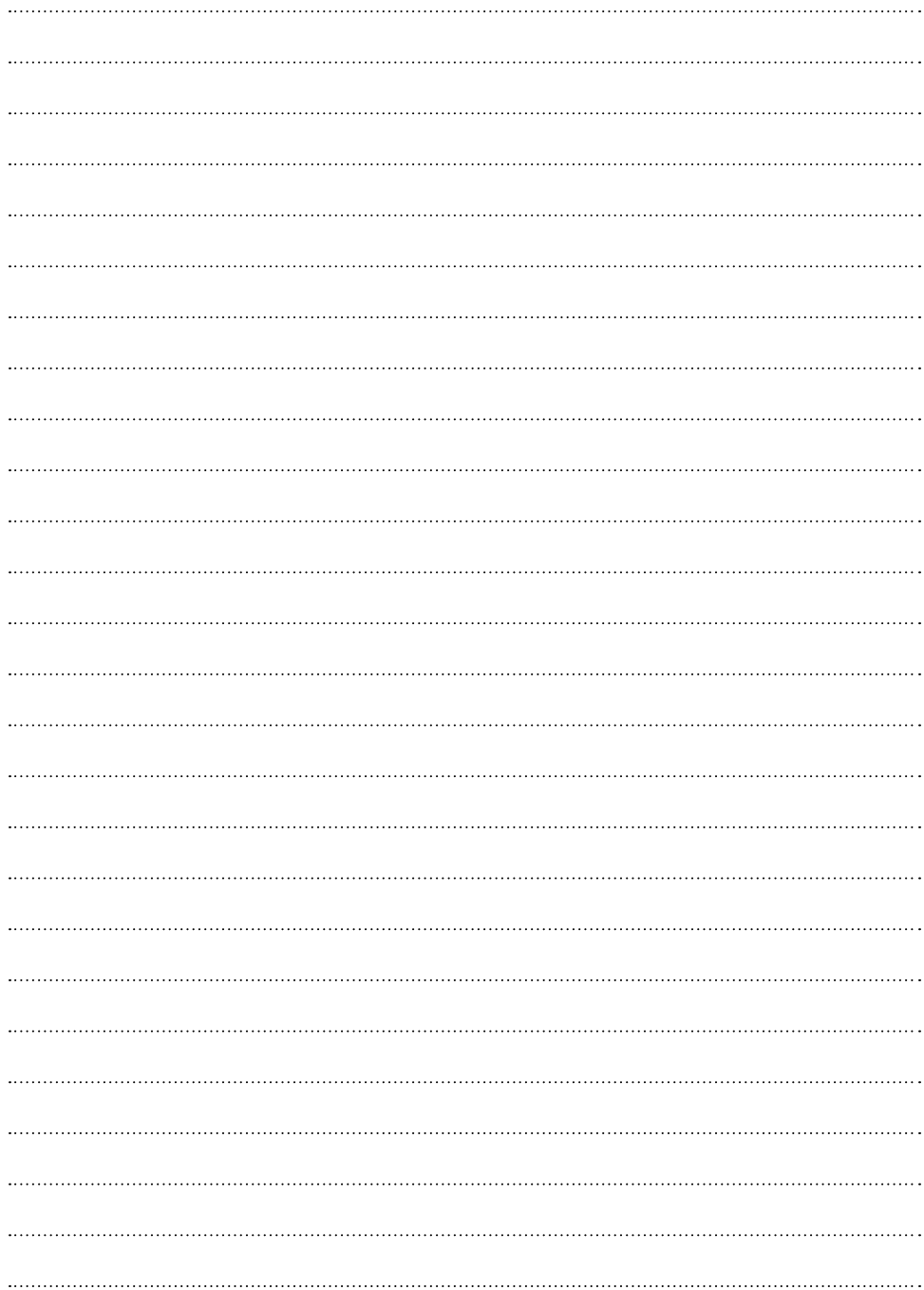


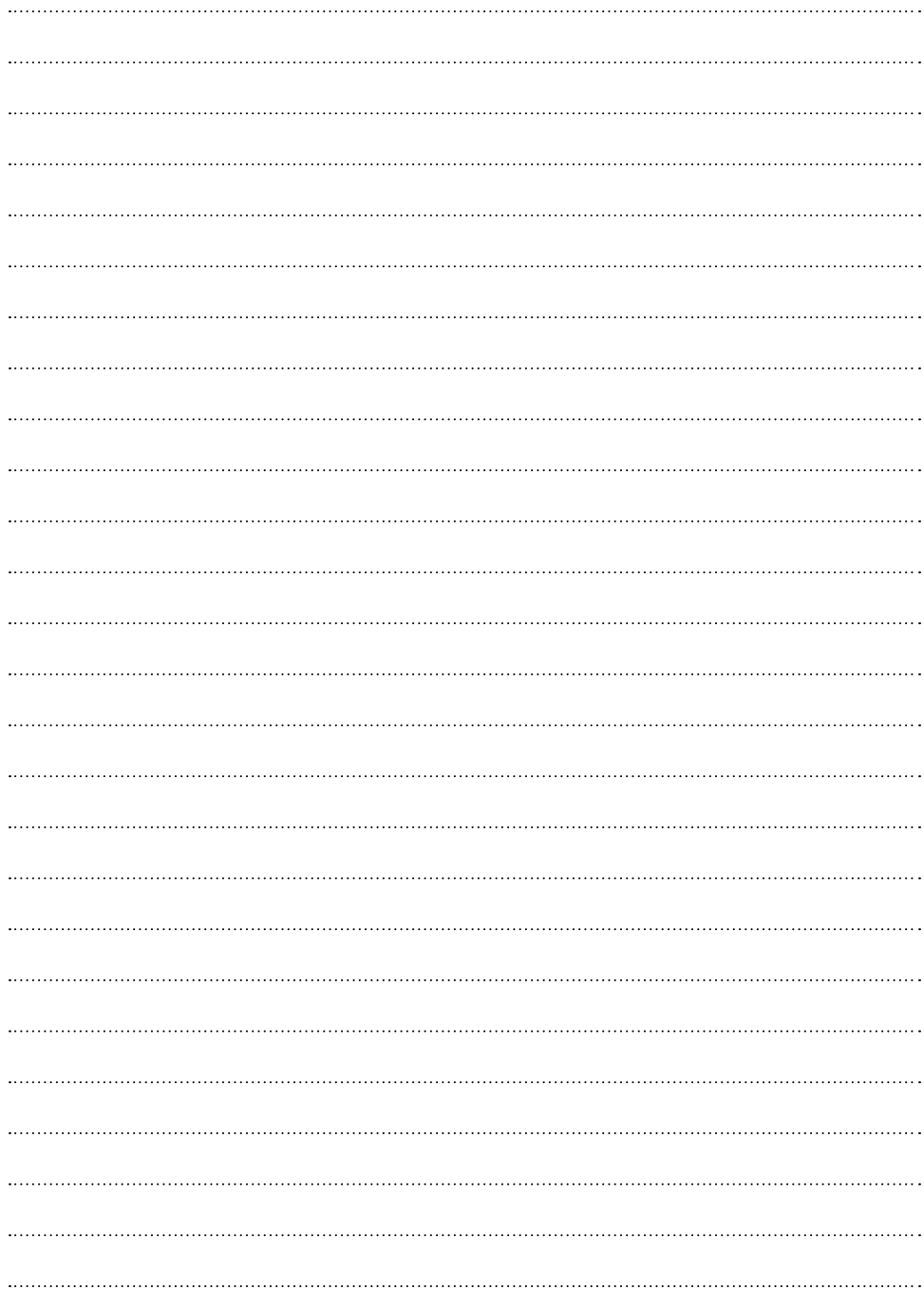


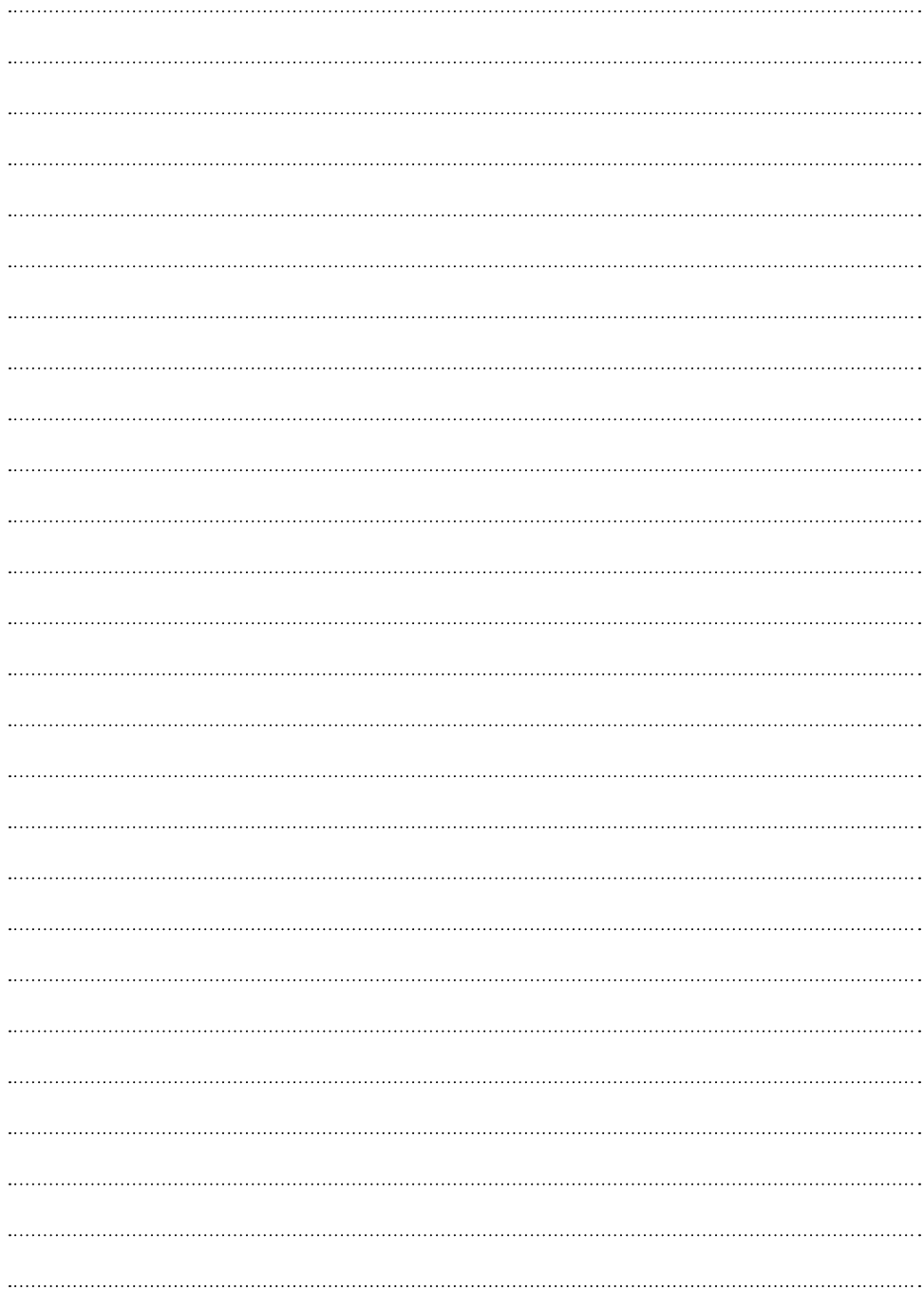




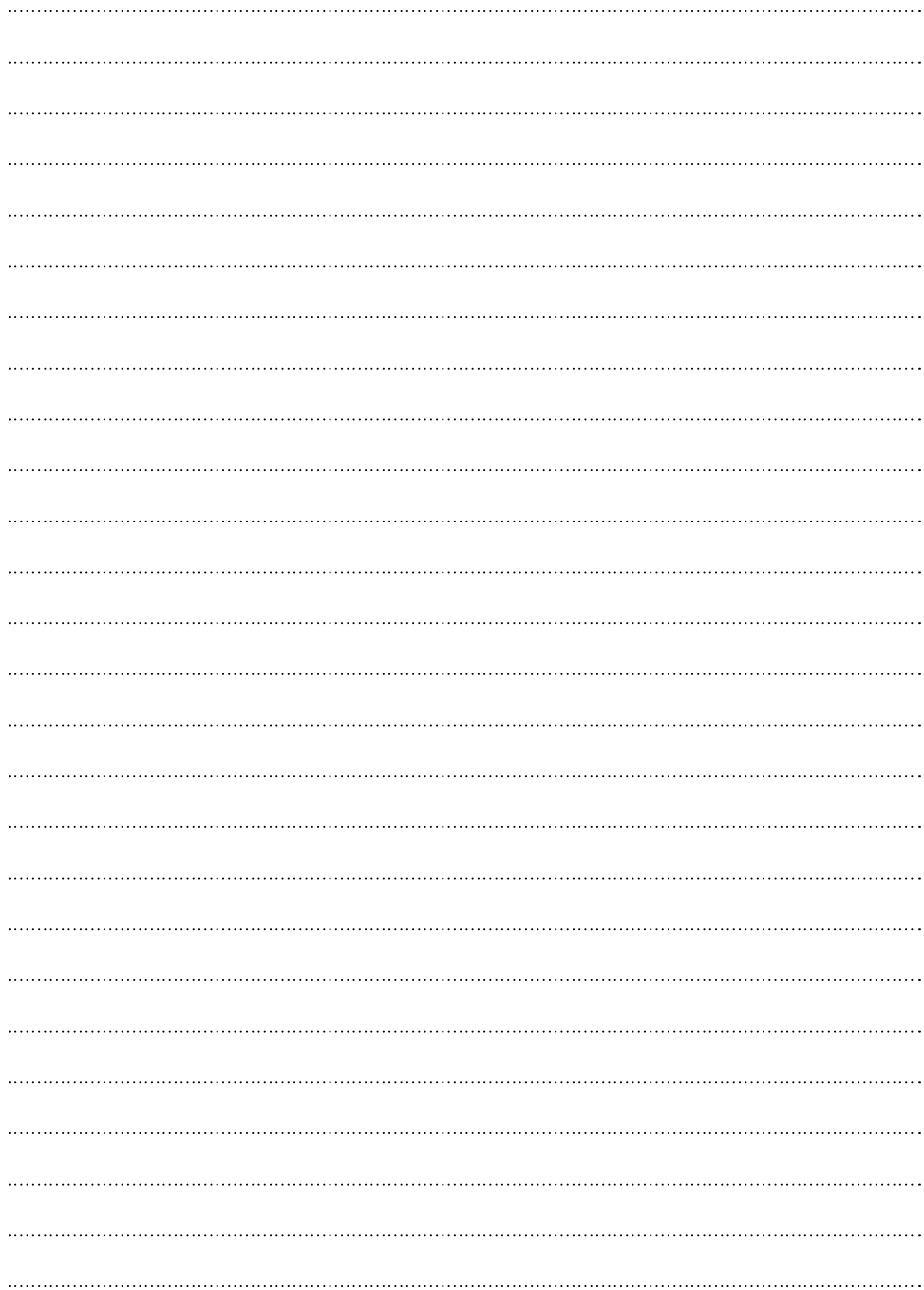


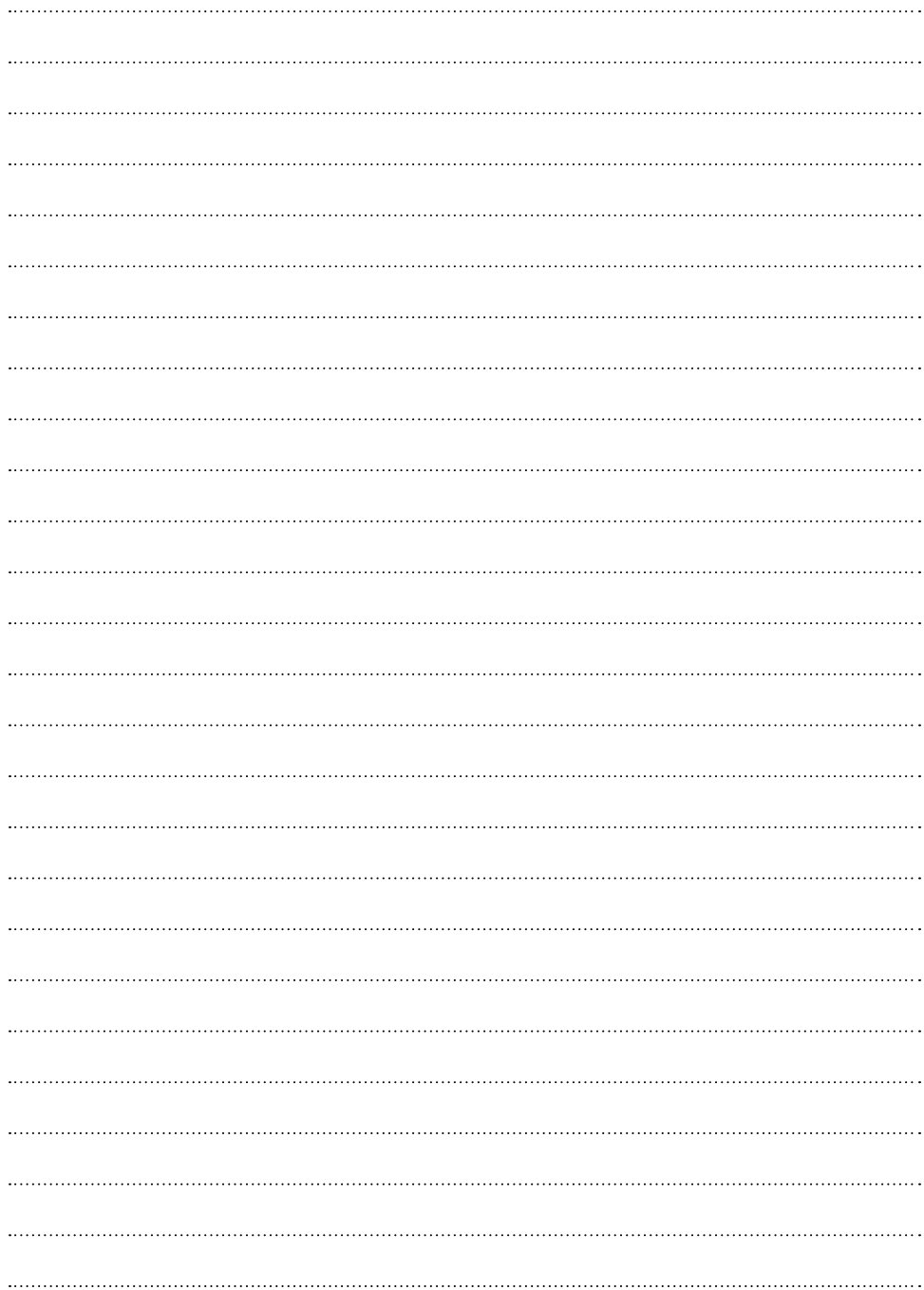


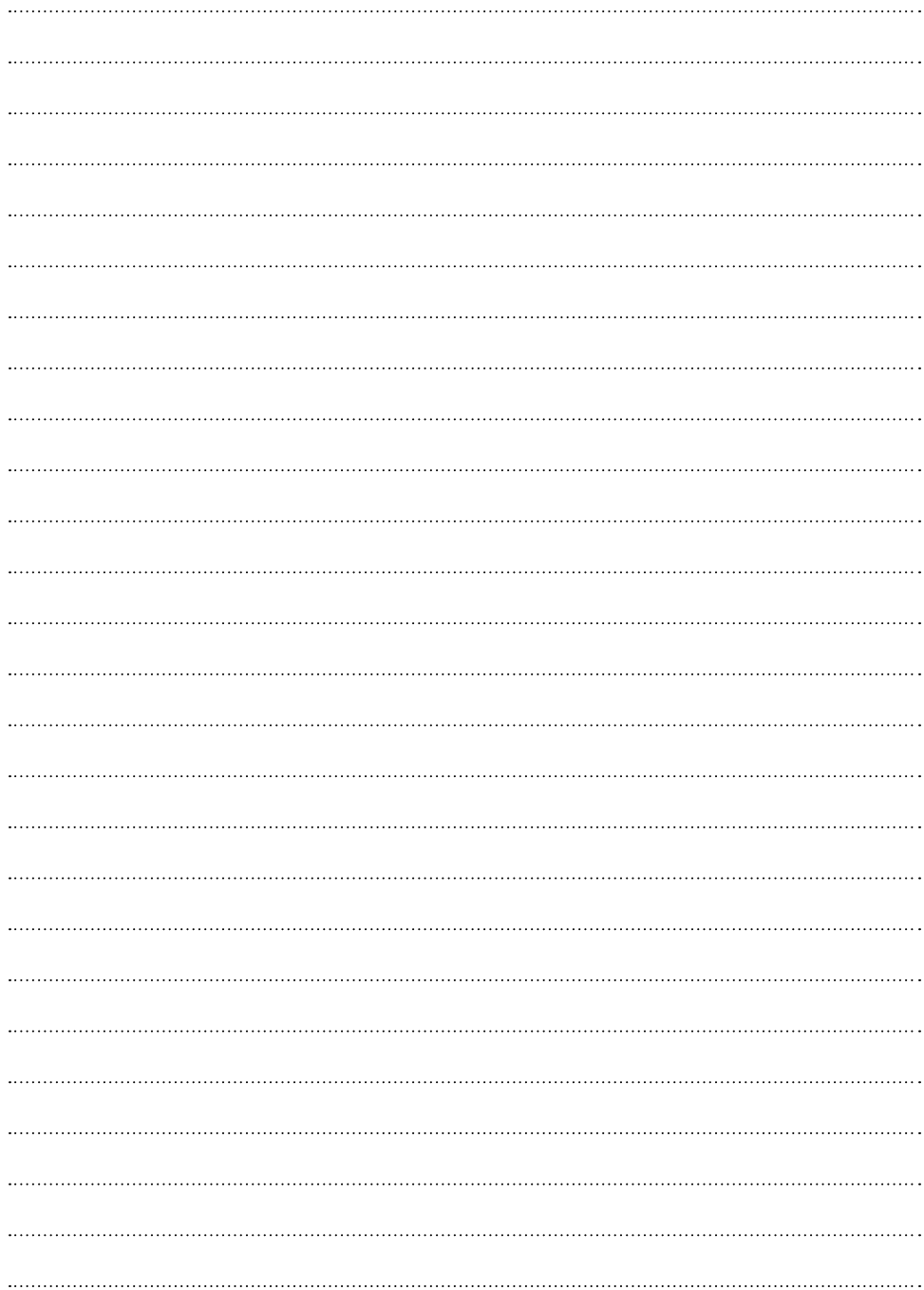


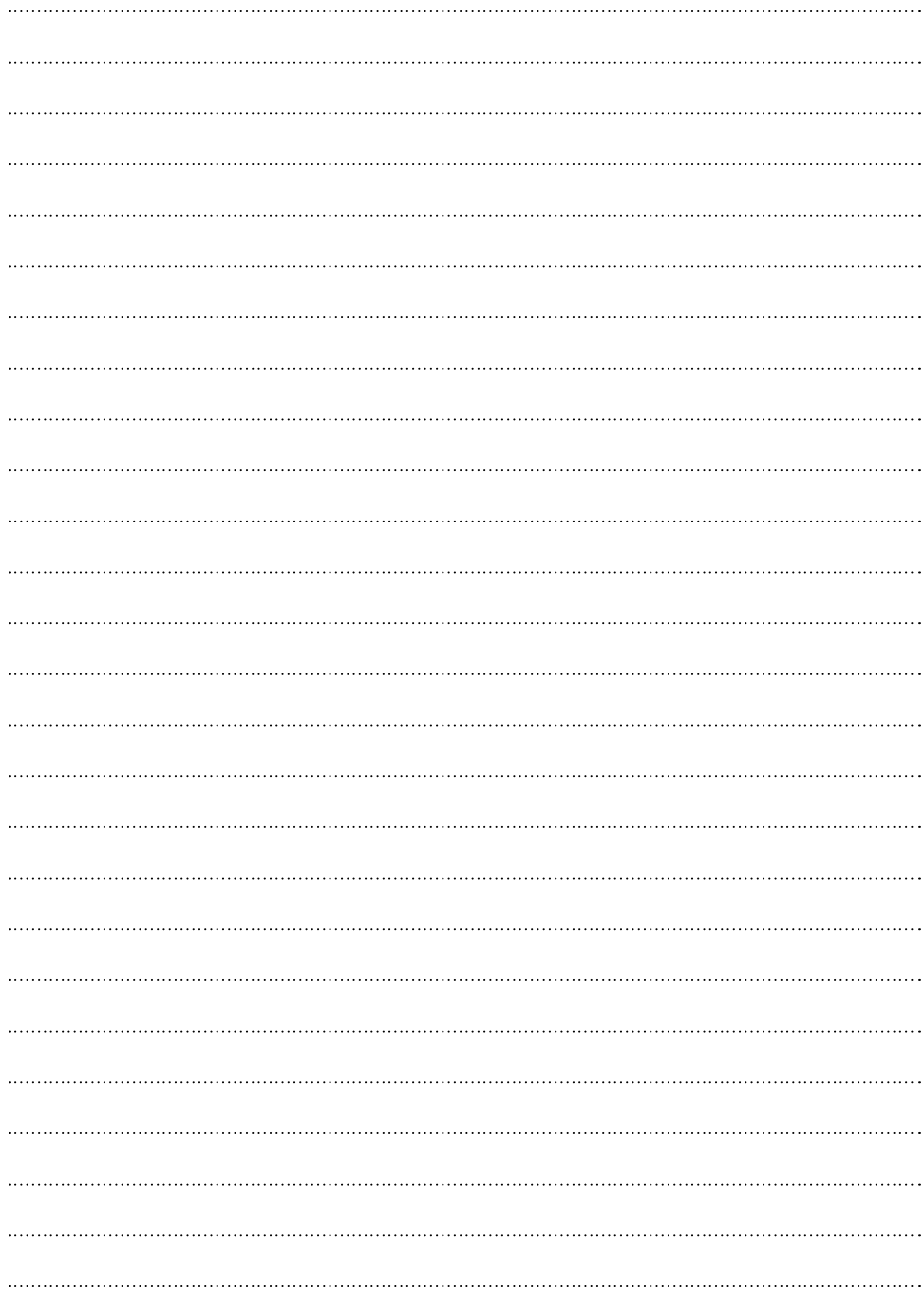


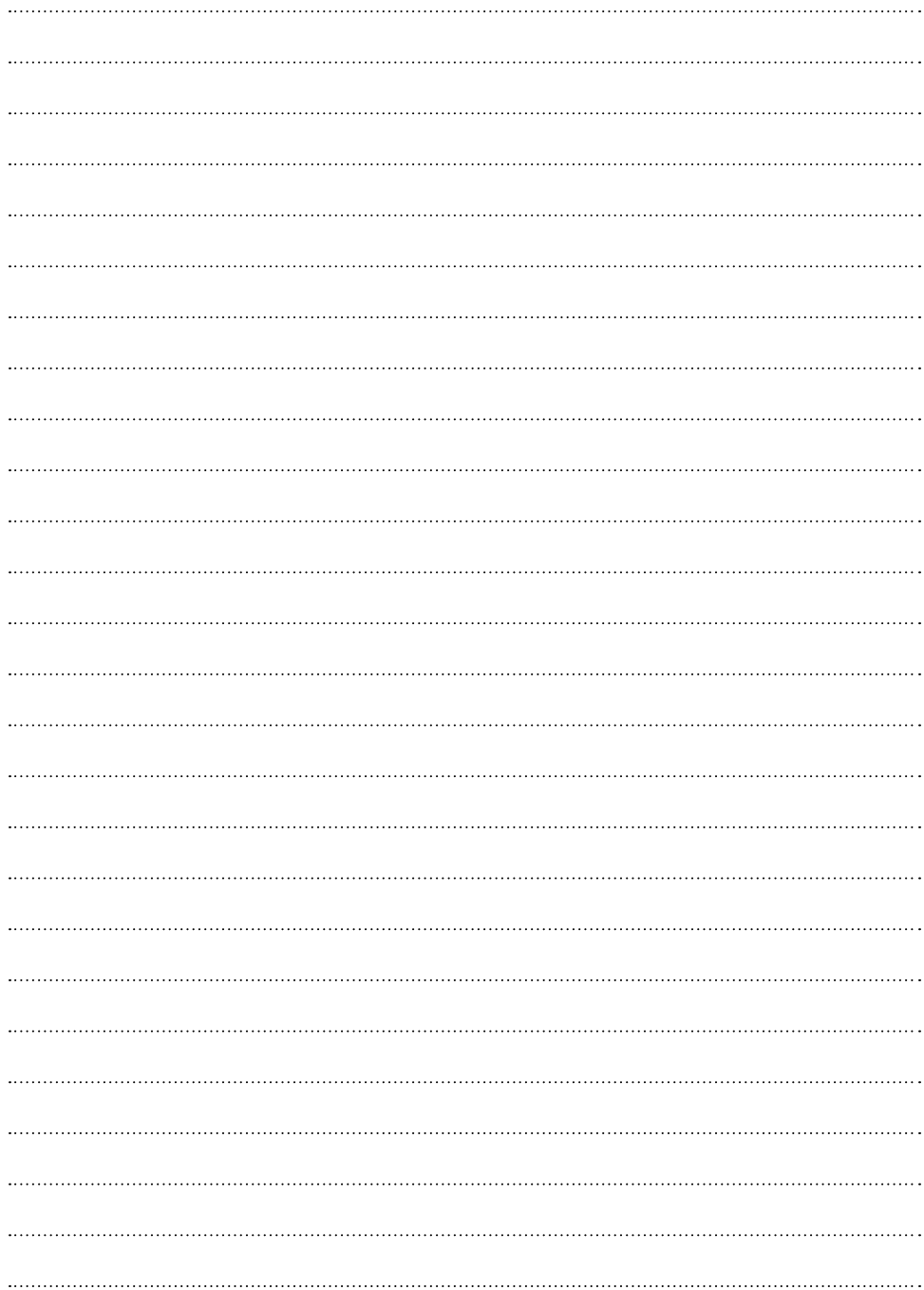


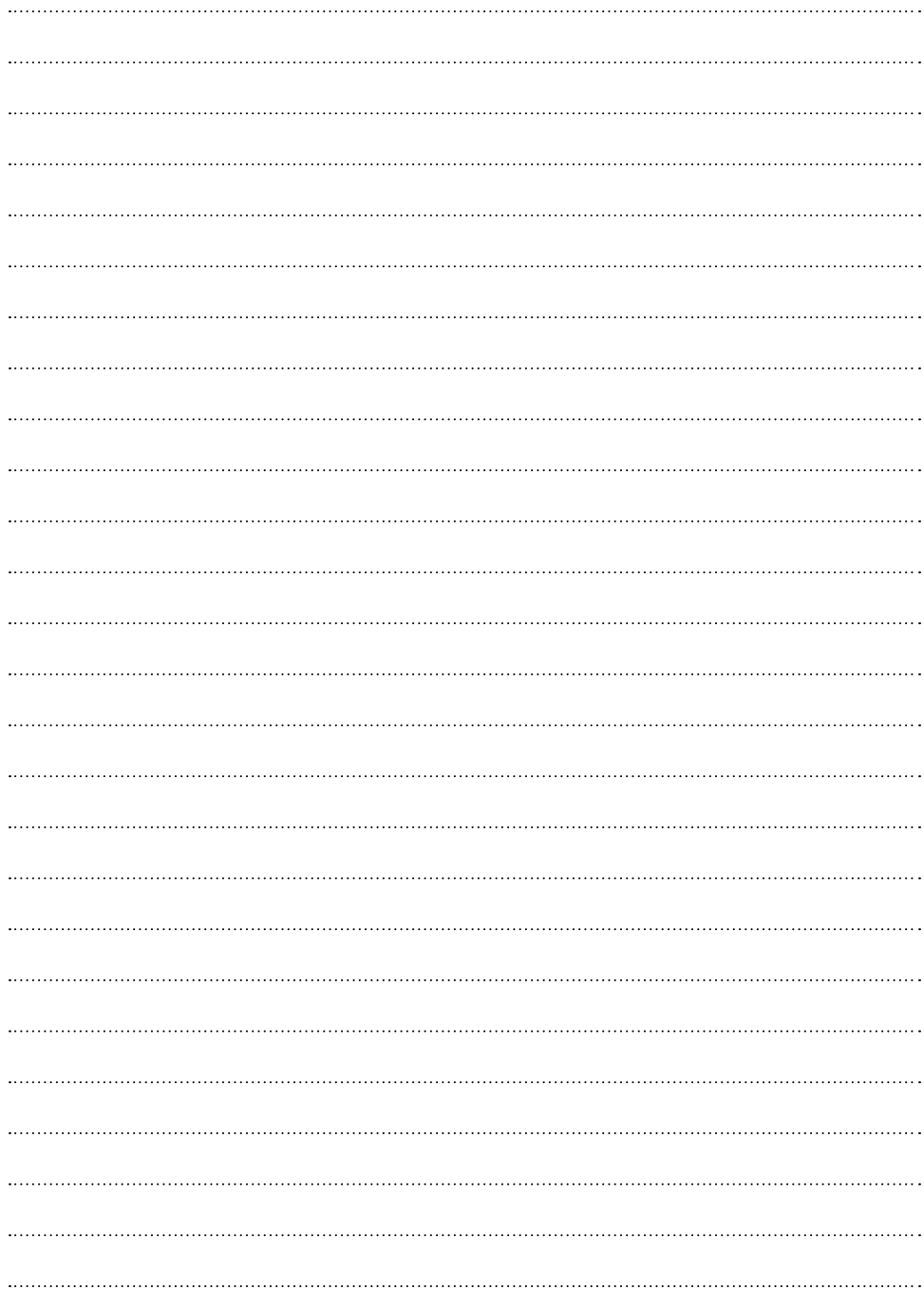


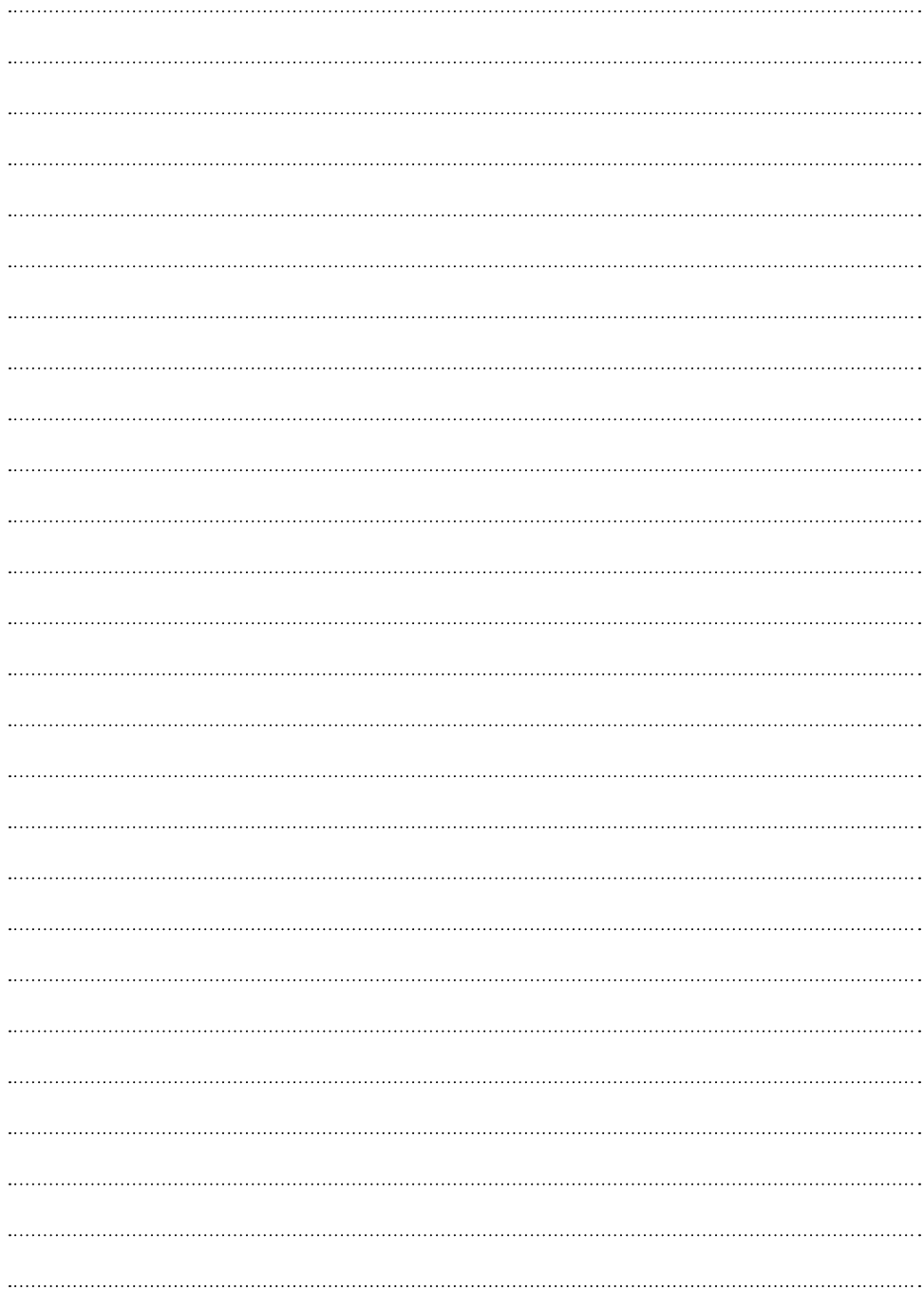




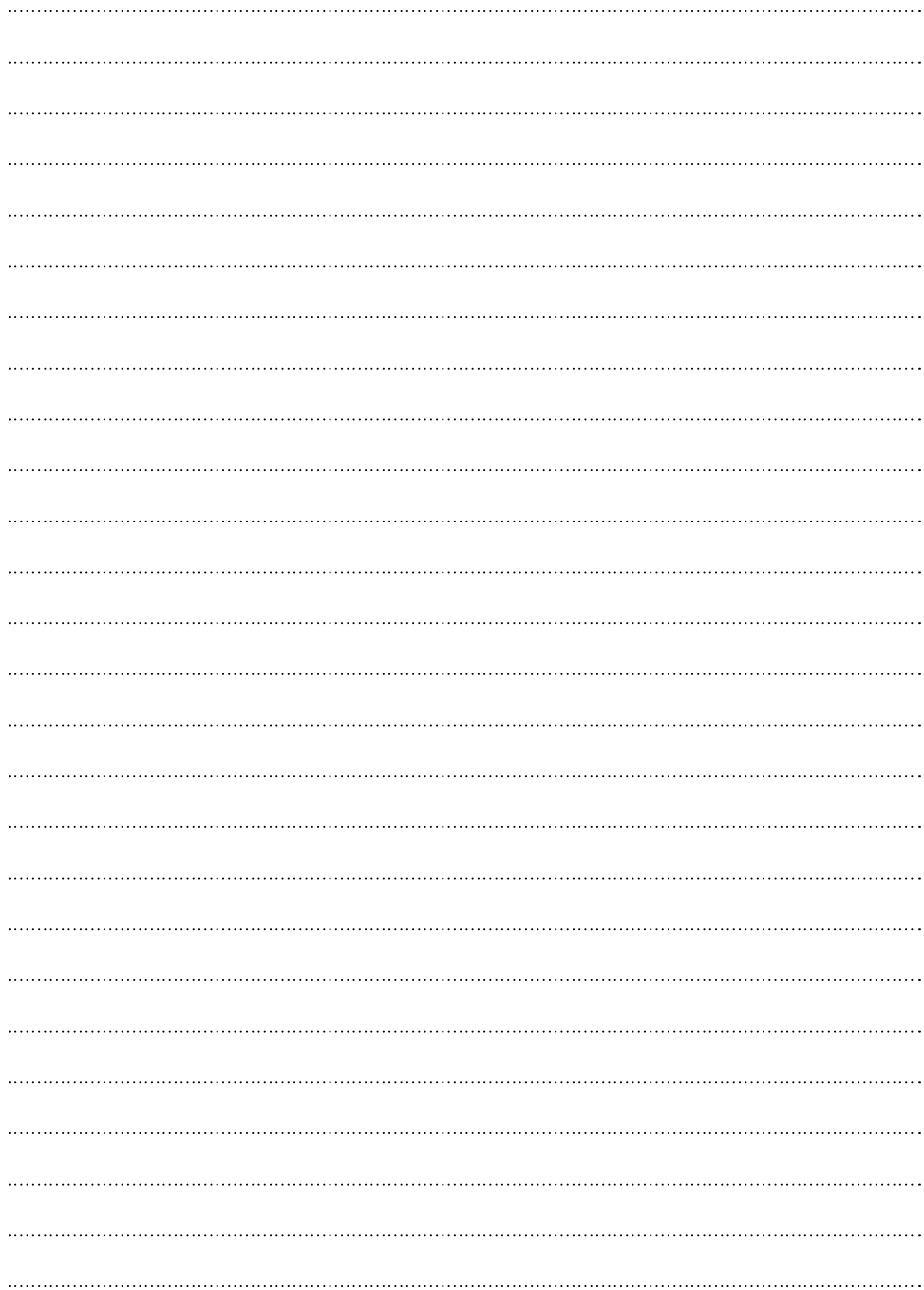


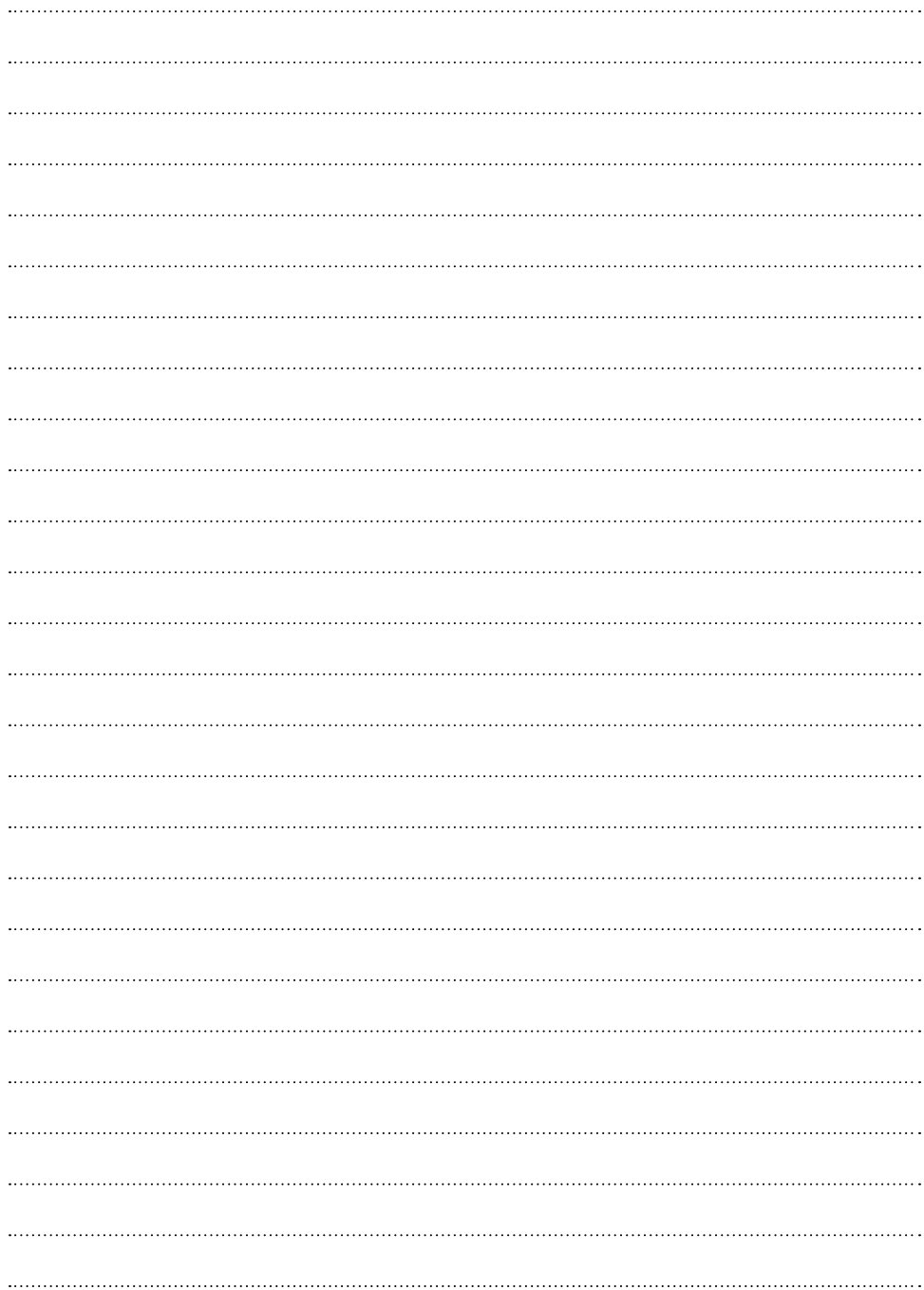


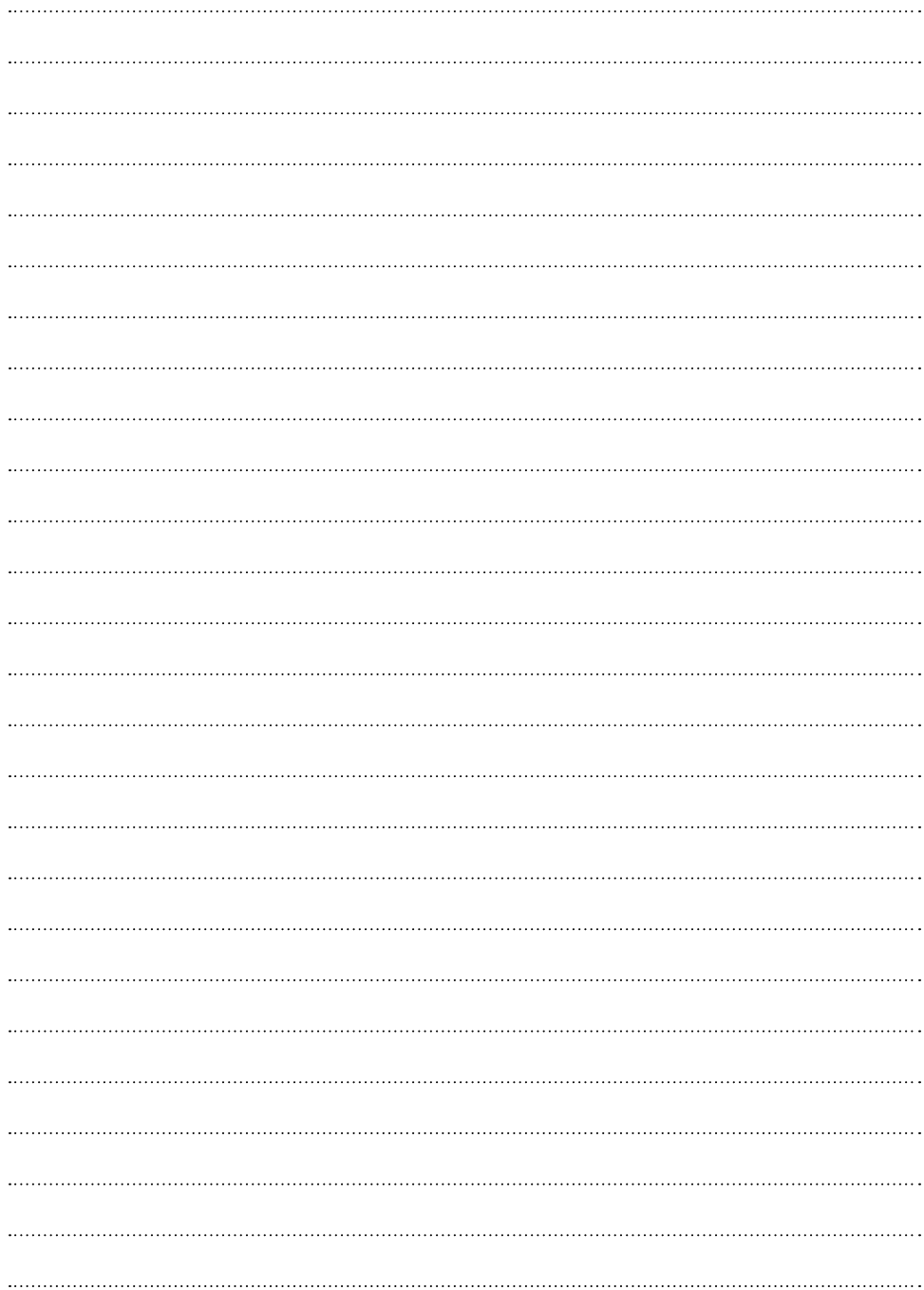


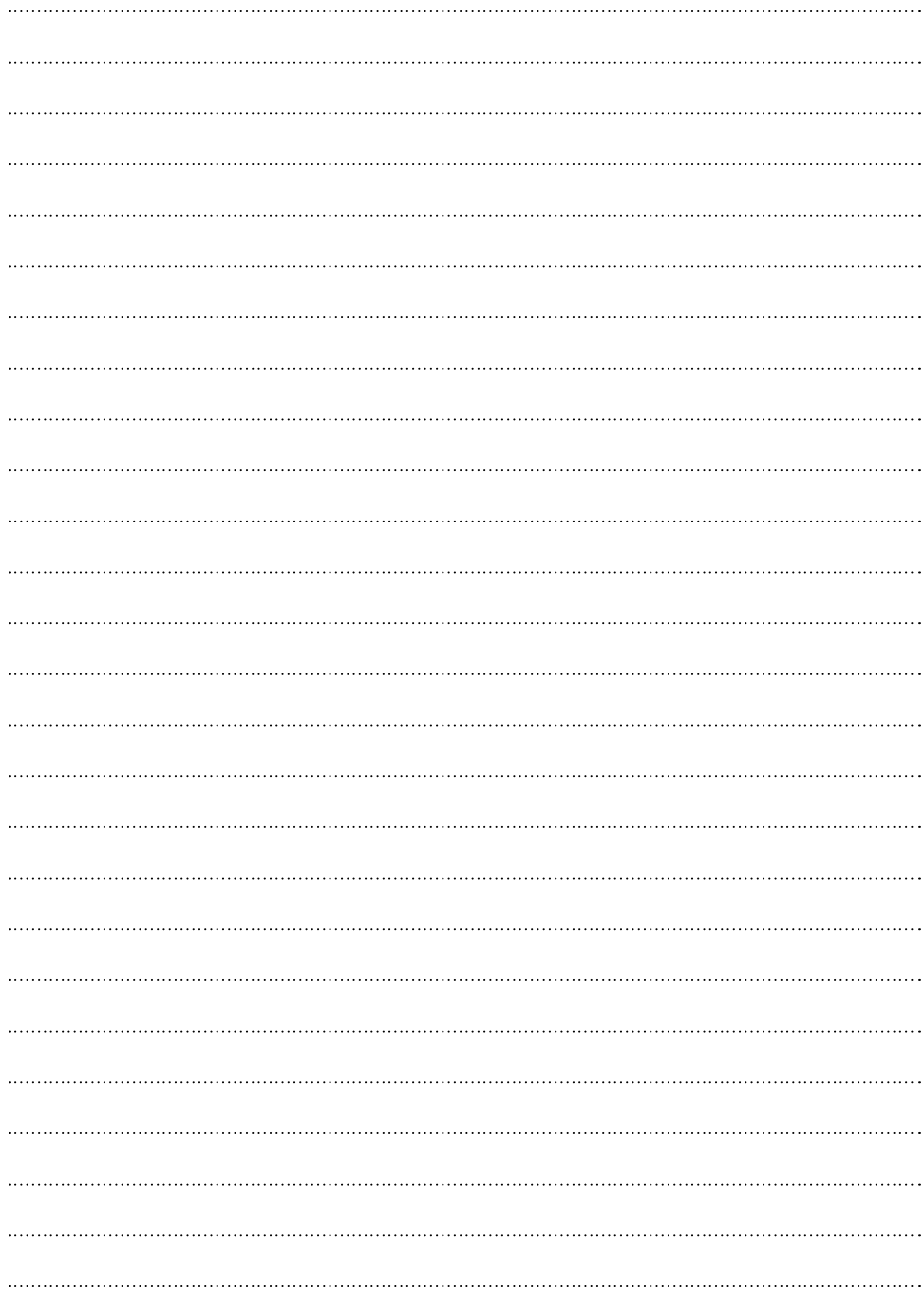


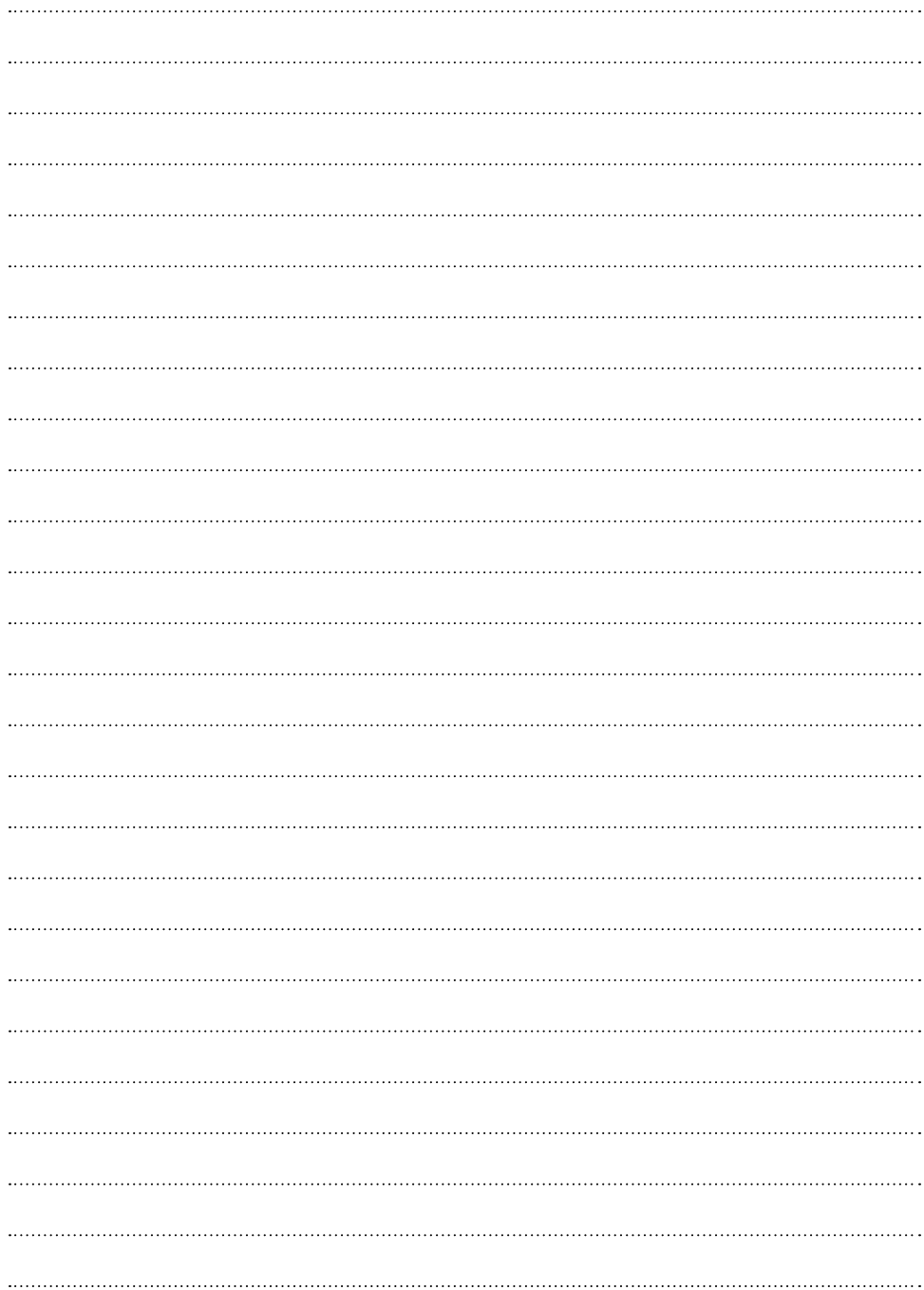












家 族

世 界 へ の 宣 言

末日聖徒イエス・キリスト教会
大管長会ならびに十二使徒評議会

わ たしたち、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長会と十二使徒評議会は、男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものであることを、厳粛に宣言します。

す べての人は、男性も女性も、神の形に創造されています。人は皆、天の両親から愛されている霊の息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性と神聖な行く末を受け継いでいます。そして性別は、人の前世、現世および永遠の状態と目的にとって必須の特性なのです。

前 世で、霊の息子、娘たちは神を知っていて、永遠の御父として神を礼拝し、神の計画を受け入れました。その計画によって、神の子供たちは肉体を得ることができ、また、完成に向かって進歩して、最終的に永遠の命を受け継ぐ者としての神聖な行く末を実現するために、地上での経験を得られるようになったのです。神の幸福の計画は、家族関係が墓を超えて続くことを可能にしました。聖なる神殿において得られる神聖な儀式と聖約は、わたしたちが個人として神のみもとに帰る、また家族として永遠に一つとなることを可能にするのです。

神 がアダムとエバに授けられた最初の戒めは、彼らが夫婦として親になる能力を持つことに関連したものでした。わたしたちは宣言します。すなわち、増えよ、地に満ちよ、という神の子供たちに対する神の戒めは今なお有効です。またわたしたちは宣言します。生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。

わ たしたちは宣言します。この世に命をもたらす手段は、神によって定められたものです。わたしたちは断言します。命は神聖であり、神の永遠の計画の中で重要なものです。

夫 婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負って

います。「子供たちは神から賜わった嗣業であり」（詩篇 127：3）とあります。両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。夫と妻、すなわち父親と母親は、これらの責務の遂行について、将来神の御前で報告することになります。

家 族は神によって定められたものです。男女の間の結婚は、神の永遠の計画に不可欠なものです。子供たちは結婚のきずなの中で生を受け、結婚の誓いを完全な誠意をもって尊ぶ父親と母親により育てられる権利を有しています。家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。実りある結婚と家庭は、信仰と祈り、悔い改め、教し、尊敬、愛、思いやり、労働、健全な娯楽活動の原則にのっとり確立され、維持されます。神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。また母親には、子供を養育するという主要な責任があります。これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。心身の障害や死別、そのほか様々な状況で、個々に修正を加えなければならないことがあるかもしれません。また、必要なときに、親族が援助しなければなりません。

わ たしたちは警告します。貞節の律法を犯す人々、伴侶や子供を虐待する人々、家族の責任を果たさない人々は、いつの日か、神の御前に立って報告することになります。またわたしたちは警告します。家庭の崩壊は、個人や地域社会、国家に、古今の預言者たちが預言した災いをもたらすことでしょう。

わ たしたちは、全地の責任ある市民と政府の行政官の方々に、社会の基本単位である家族を維持し、強めるために、これらの定められた事柄を推し進めてくださるよう呼びかけるものであります。

宗教教育セミナー・インスティテュートの目的

わたしたちの目的は、次のことを行えるように、青少年とヤングアダルトを助けることです。すなわち、イエス・キリストの教えと贖いについて理解しそれに頼る。神殿の祝福を受ける資格を得る。天の御父とともに永遠の命にあずかるため、自分自身と自分の家族と周りの人々を備える。

これらの目的を達成する支援をするために、宗教教育セミナー・インスティテュートの教師と生徒は、「福音を教え学ぶときの基本」を実行するように特に勧められている。

教師と生徒が行うべきこと —

- 御霊によって教え、学ぶ。
- 愛と敬意と目的意識のある学習環境を作る。
- 毎日聖文を研究し、コースの聖典を読む。
- 聖典と預言者の言葉の背景と内容を理解する。
- 福音の教義と原則を見つけ、理解し、それらが真実であり重要であることを感じ、それらを応用する。
- 福音の教義と原則を説明し、分かち合い、証する。
- マスター教義を習得する。



宗教教育
セミナー・インスティテュート

末日聖徒
イエス・キリスト
教会

